

北九州市子ども・子育て支援に関する 市民アンケート調査

報 告 書

北九州市子ども家庭局

目 次

I. 調査の概要.....	1
II. 調査結果	
〔就学前児童の保護者（調査票A）〕	
1. 子どもと家族の状況等	3
2. 子どもの育ちをめぐる環境	5
3. 保護者の就労状況.....	10
4. 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況	20
5. 地域の子育て支援事業の利用状況	26
6. 土曜日・休日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用希望	31
7. 子どもが病気の際の対応（平日の教育・保育を利用する人のみ）	36
8. 不定期的な教育・保育事業の利用や宿泊を伴う一時預かり等の利用	43
9. 小学校就学後の放課後の過ごし方	52
10. 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度	59
〔就学前児童の保護者（調査票B）〕	
1. 子どもと家族の状況等	69
2. 子どもの生活状況.....	74
3. 教育・保育事業の利用状況	76
4. 子育てに関する悩みや不安について	84
5. 今後の北九州市の子育て支援	90
6. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）	92
〔小学生の保護者〕	
1. 子どもと家族の状況等	93
2. 子どもの生活状況.....	99
3. 放課後児童クラブの利用	110
4. 病児・病後児保育について	122
5. 学校生活について.....	128

6. 子育てに関する悩みや不安について	130
7. 今後の北九州市の子育て支援	138
8. 子どもの保護者の就労状況	141
9. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）	147

〔中学・高校生の保護者〕

1. 子どもと家族の状況等	149
2. 子どもの生活状況	152
3. 学校生活について	164
4. 子育てに関する悩みや不安について	166
5. 今後の北九州市の子育て支援	170
6. 子どもの保護者の就労状況	173
7. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）	178

〔18歳以上40歳未満の男女〕

1. 回答者の属性	179
2. 回答者の生活状況	181
3. 就労状況について	185
4. 結婚や家庭のことについて	194
5. 出産や子育てについて	198
6. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）	205

参考資料

〔アンケート調査票〕

• 就学前児童用A	207
• 就学前児童用B	223
• 小学生用	229
• 中学・高校生用	241
• 18歳以上40歳未満用	251

I. 調査の概要

1. 調査目的

本調査は、「元気発進！子どもプラン」の次期計画【平成27～31年度】（「子ども・子育て支援事業計画」を含む）の策定にあたり、計画をより実効性のあるものとするため、家庭の状況や子育ての実態、保護者の意識などを把握することや、教育・保育・子育て支援の「量の見込み」を算定することを目的として実施した。

2. 調査対象

- ①就学前児童の保護者（調査票Aを配布） 5,000人
- ②就学前児童の保護者（調査票Bを配布） 3,000人
- ③小学生の保護者 3,000人
- ④中学・高校生の保護者 3,000人
- ⑤18歳以上40歳未満の男女 3,000人

※対象者は、住民基本台帳より無作為抽出。

3. 調査方法

郵送調査

4. 調査期間

平成25年10月11日～11月18日

5. 回収結果

	配布数	有効回収数	有効回収率
就学前児童の保護者（調査票Aを配布）	5,000	2,106	42.1%
就学前児童の保護者（調査票Bを配布）	3,000	1,453	48.4%
小学生の保護者	3,000	1,373	45.8%
中学・高校生の保護者	3,000	1,086	36.2%
18歳以上40歳未満の男女	3,000	832	27.7%
計	17,000	6,850	40.3%

6. 調査実施機関

調査企画：北九州市 子ども家庭局子ども家庭部子ども家庭政策課

集計分析：株式会社 東京商工リサーチ

7. 集計・分析上の注意事項

- ・ 図表においては、サンプル数を「N」で表記した。
- ・ 比率は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。また、複数回答の質問については、合計は100%を超えることがある。

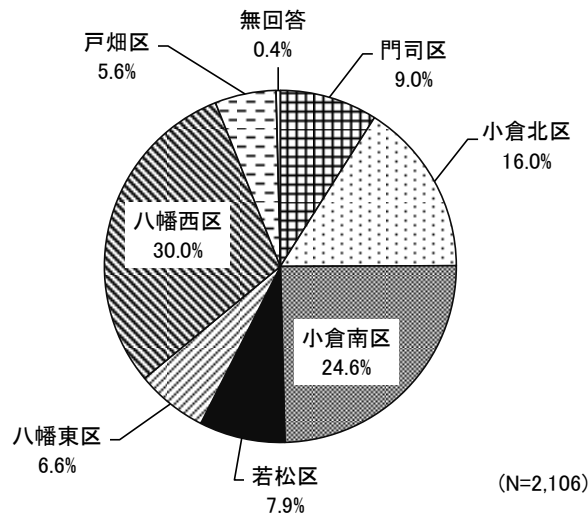
- ・ クロス集計表の表側の項目については無回答があるため、サンプル数の内訳の合計が全体のサンプル数に一致しない場合がある。
- ・ クロス集計表でサンプル数が 9 以下の属性は、サンプル数の少なさから傾向に片寄りが生じる可能性がより高くなるため、図表や分析コメントを表記していない。

Ⅱ. 調査結果

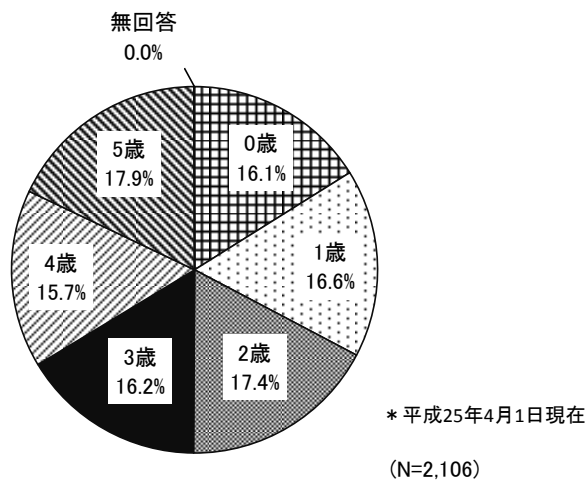
〔就学前児童の保護者（調査票A）〕

1. 子どもと家族の状況等

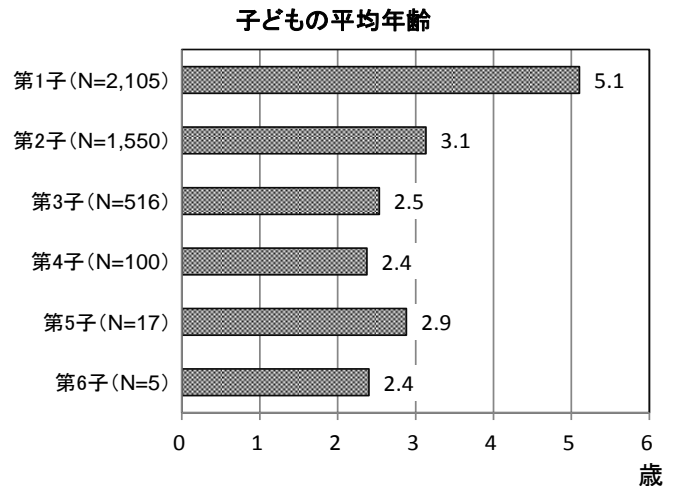
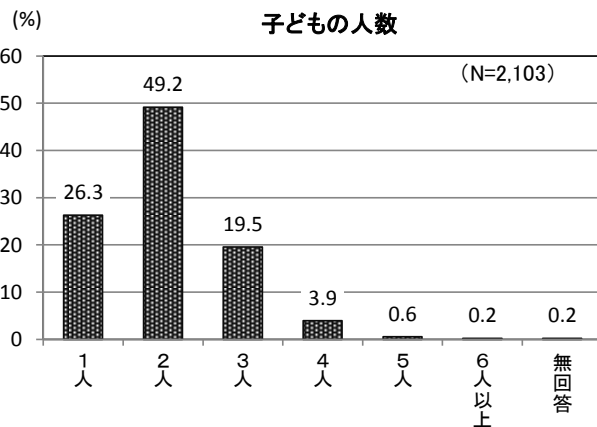
(1) 居住区（問1）



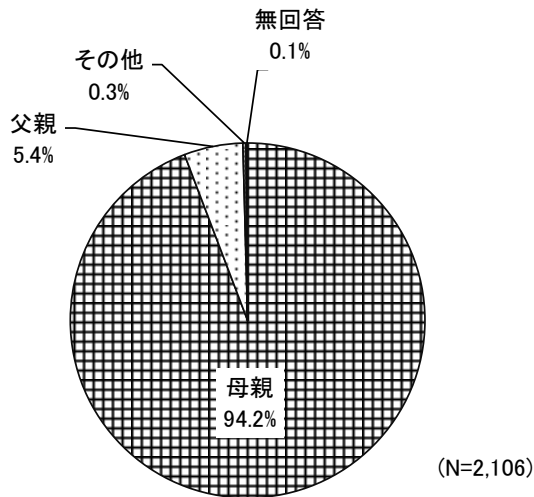
(2) 子どもの年齢（問2）



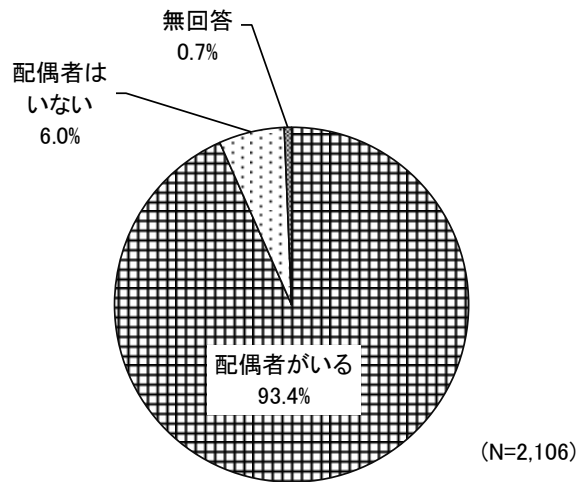
(3) 子どもの人数と平均年齢（問3）



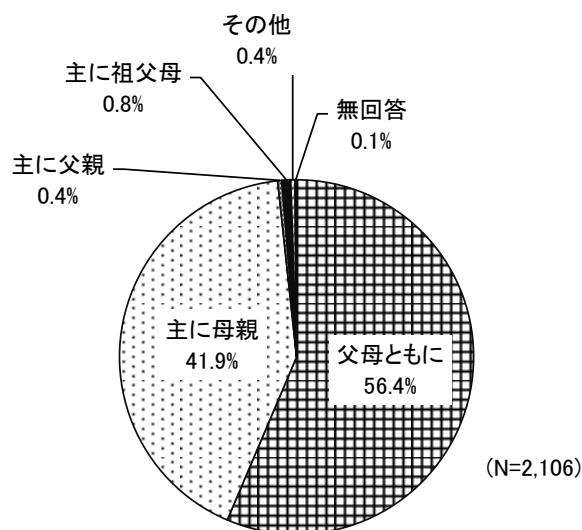
(4) 調査票の回答者（問4）



(5) 調査票の回答者の配偶者（問5）



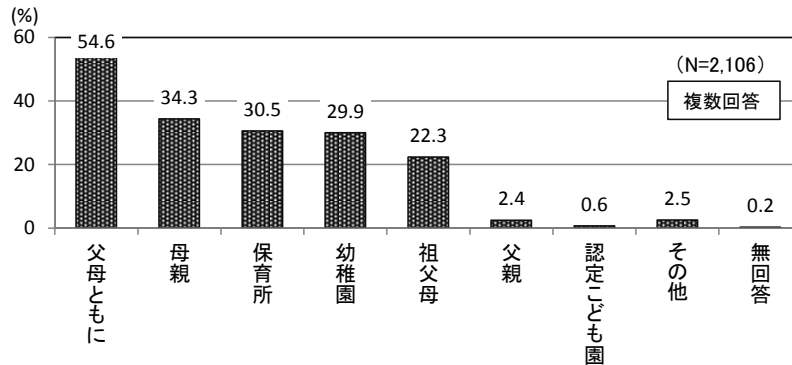
(6) 子育て（教育を含む）を主に行っている人（問6）



2. 子どもの育ちをめぐる環境

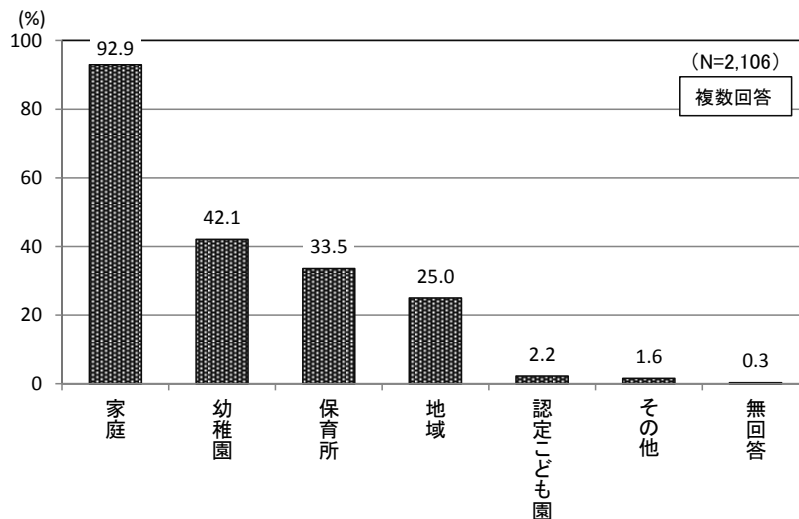
(7) 子育て（教育を含む）に日常的に関わっている人や施設（問7）

子育て（教育を含む）に日常的に関わっている人や施設は、「父母ともに」が 54.6%で最も高く、次いで「母親」34.3%、「保育所」30.5%、「幼稚園」29.9%となっている。



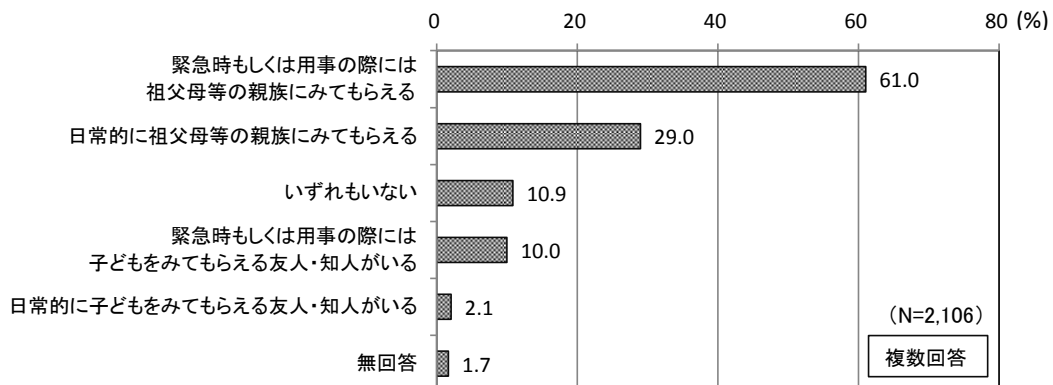
(8) 子育て（教育を含む）に最も影響すると思われる環境（問8）

子育て（教育を含む）に最も影響すると思われる環境は、「家庭」が 92.9%で最も高く、次いで「幼稚園」42.1%、「保育所」33.5%、「地域」25.0%となっている。



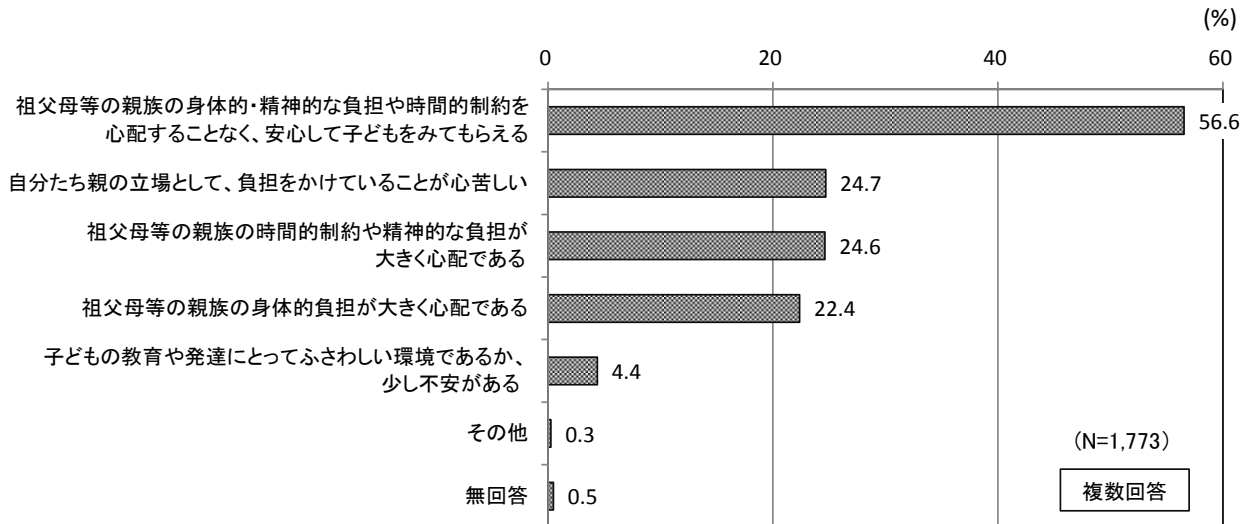
(9) 日頃、子どもをみてもらえる親族・知人の有無（問9）

子どもをみてもらえる親族・知人の有無は、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が 61.0%で最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」29.0%、「いずれもない」10.9%となっている。



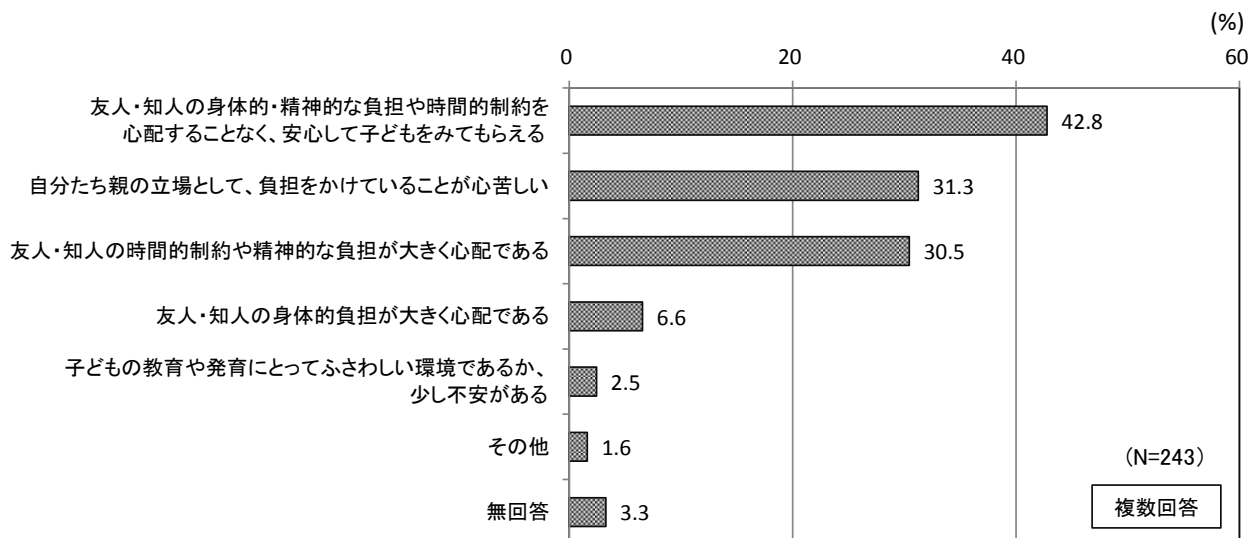
(10) 祖父母等の親族に子どもをみてもらっている状況（問9-1）

(9) で祖父母等の親族に子どもをみてもらえると回答した人に、その状況を尋ねたところ、「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が 56.6%で最も高く、次いで「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」24.7%、「祖父母等の親族の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」24.6%となっている。



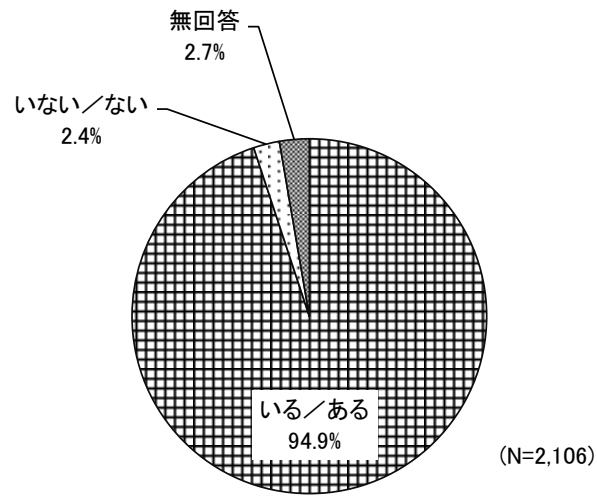
(11) 友人・知人に子どもをみてもらっている状況（問9-2）

(9) で子どもをみてもらえる友人・知人がいると回答した人に、その状況を尋ねたところ、「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が 42.8%で最も高く、次いで「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」31.3%、「友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」30.5%となっている。



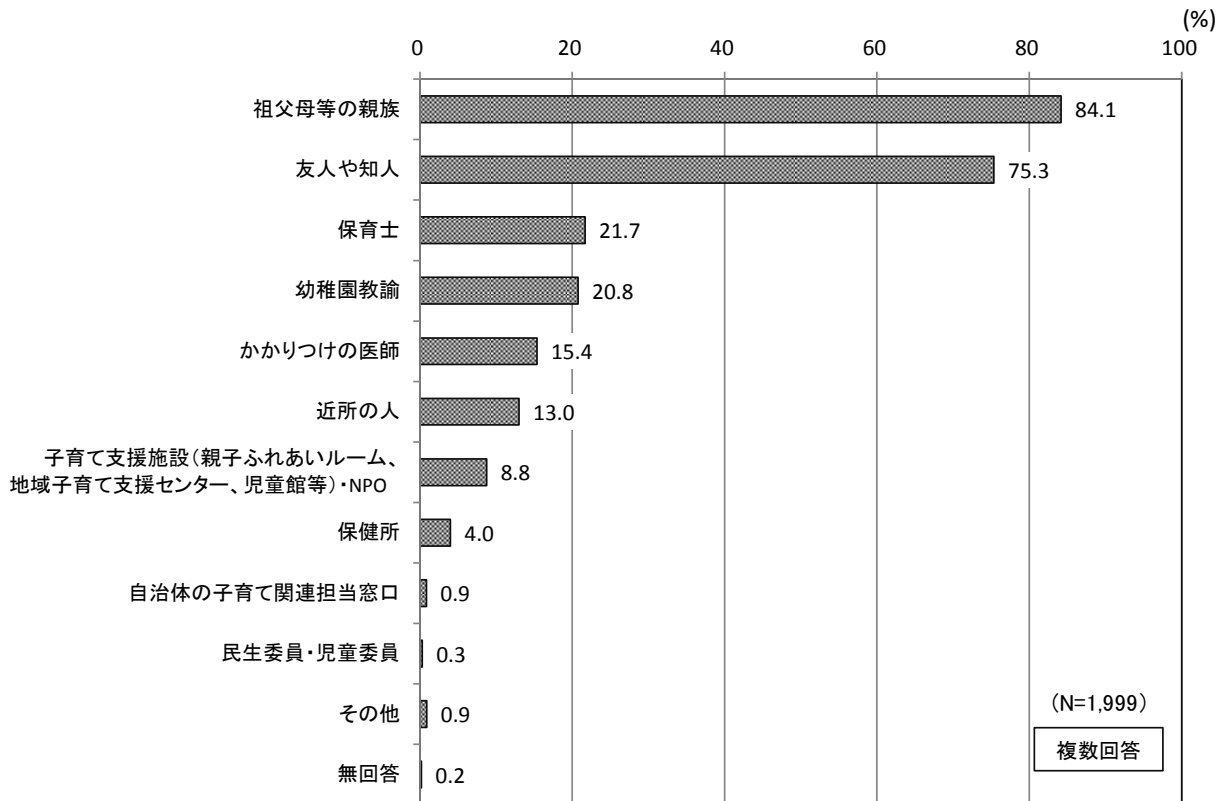
(12) 子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人・場所（問 10）

気軽に相談できる人・場所については、「いる／ある」が 94.9%を占めている。



(13) 子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる先（問 10-1）

(12) で「いる／ある」と回答した人に気軽に相談できる先を尋ねたところ、「祖父母等の親族」84.1%、「友人や知人」75.3%が特に高くなっている。



＜利用している保育サービス別＞

利用している保育サービス別に相談先を見ると、一般的に親族や友人に相談している人の割合が高い。幼稚園や幼稚園の預かり保育を利用している人は「幼稚園教諭」に相談している比率が高く、認可保育所・認定こども園・事業所内保育施設・その他の認可外の保育施設を利用している人は「保育士」に相談している比率が高い。

		サンプル数 (件)	祖父母等の親族	友人や知人	近所の人	複数回答 ターム、子育て支援施設（親子ふれあいセンター）	保健所	保育士
全体		1,999	1,682	1,506	260	175	80	433
		-	84.1	75.3	13.0	8.8	4.0	21.7
利用しているサービス	幼稚園	769	81.8	79.1	16.8	5.5	0.4	1.3
	幼稚園の預かり保育	118	83.1	85.6	19.5	8.5	0.8	0.0
	認可保育所	613	84.2	74.6	8.0	2.4	10.9	59.9
	認定こども園	17	82.4	82.4	23.5	0.0	5.9	41.2
	家庭的保育	3	100.0	66.7	66.7	33.3	33.3	0.0
	事業所内保育施設	15	100.0	93.3	0.0	6.7	26.7	86.7
	その他の認可外の保育施設	36	58.3	58.3	11.1	11.1	2.8	52.8
ほっと子育てふれあいセンター	2	50.0	100.0	0.0	0.0	0.0	50.0	

		幼稚園教諭	民生委員・児童委員	かかりつけの医師	自治体の子育て関連担当窓口	その他	無回答
全体		415	6	307	17	18	4
		20.8	0.3	15.4	0.9	0.9	0.2
利用しているサービス	幼稚園	48.8	0.0	14.0	0.3	0.8	0.4
	幼稚園の預かり保育	61.9	0.0	22.0	1.7	0.8	0.0
	認可保育所	0.8	0.3	17.3	0.3	0.5	0.0
	認定こども園	23.5	0.0	23.5	0.0	5.9	0.0
	家庭的保育	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	事業所内保育施設	13.3	0.0	13.3	0.0	0.0	0.0
	その他の認可外の保育施設	8.3	0.0	11.1	2.8	5.6	0.0
ほっと子育てふれあいセンター	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

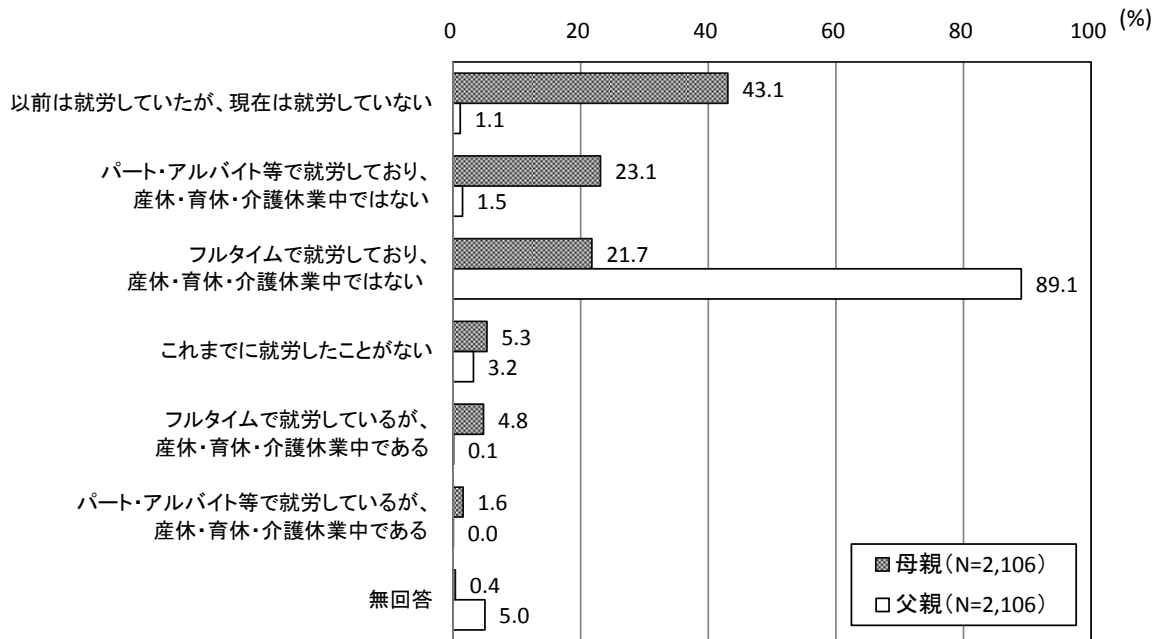
※ 全体の上段は実数、下段は比率。

3. 保護者の就労状況

(14) 現在の就労状況（問 12(1)、問 12(2)）

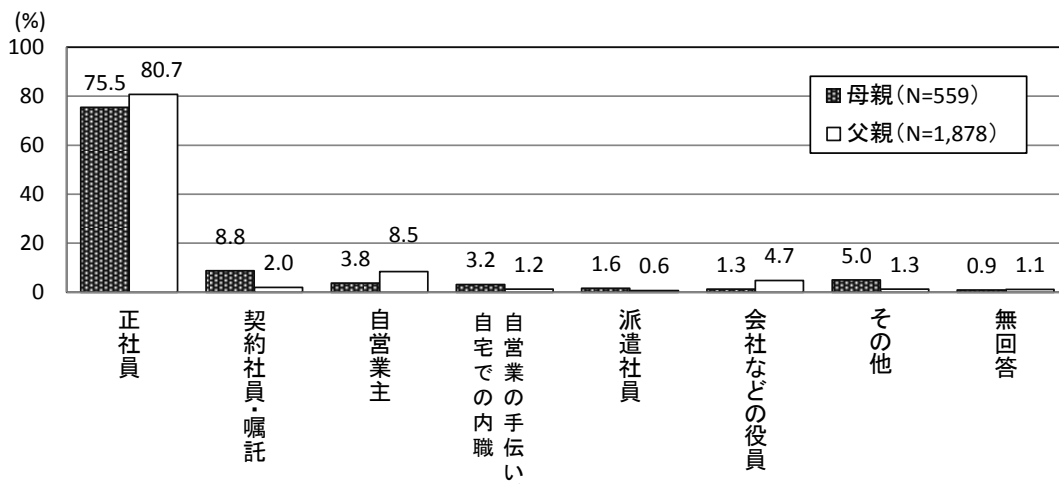
母親の就労状況は、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が 43.1%で最も高く、次いで「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」23.1%、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」21.7%となっている。

父親は、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」89.1%が特に高くなっている。



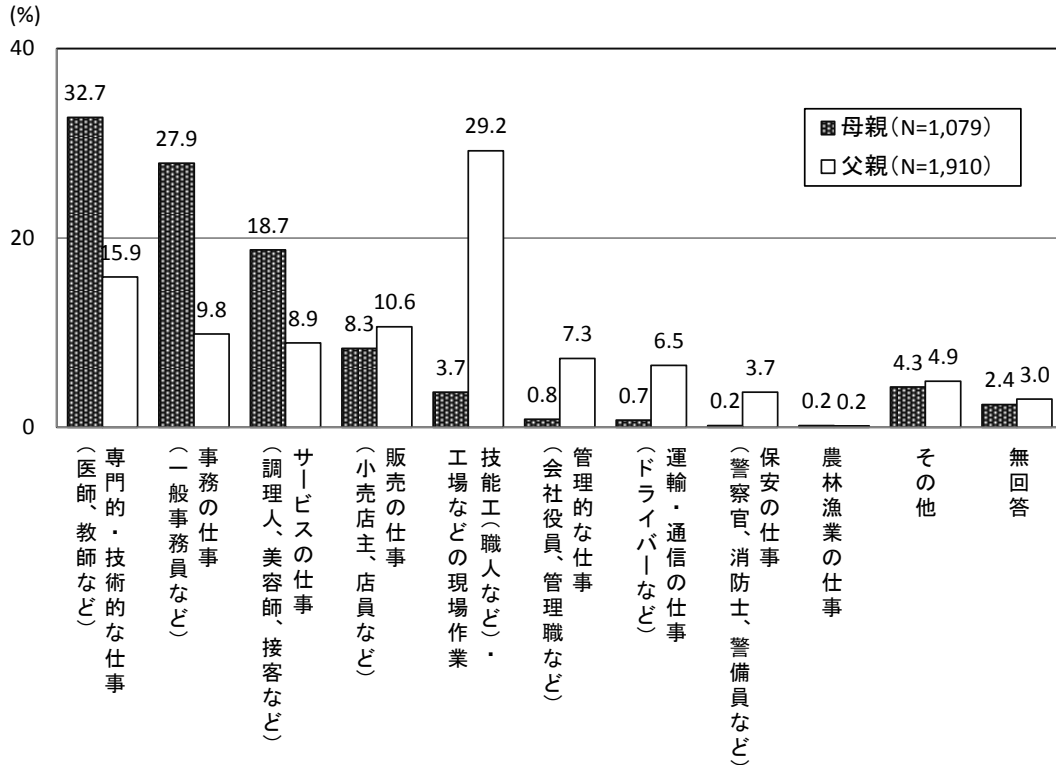
(15) 現在の就労形態（問 12(1)-1、問 12(2)-1）

母親の就労形態は、「正社員」75.5%が特に高く、父親も「正社員」80.7%が特に高くなっている。



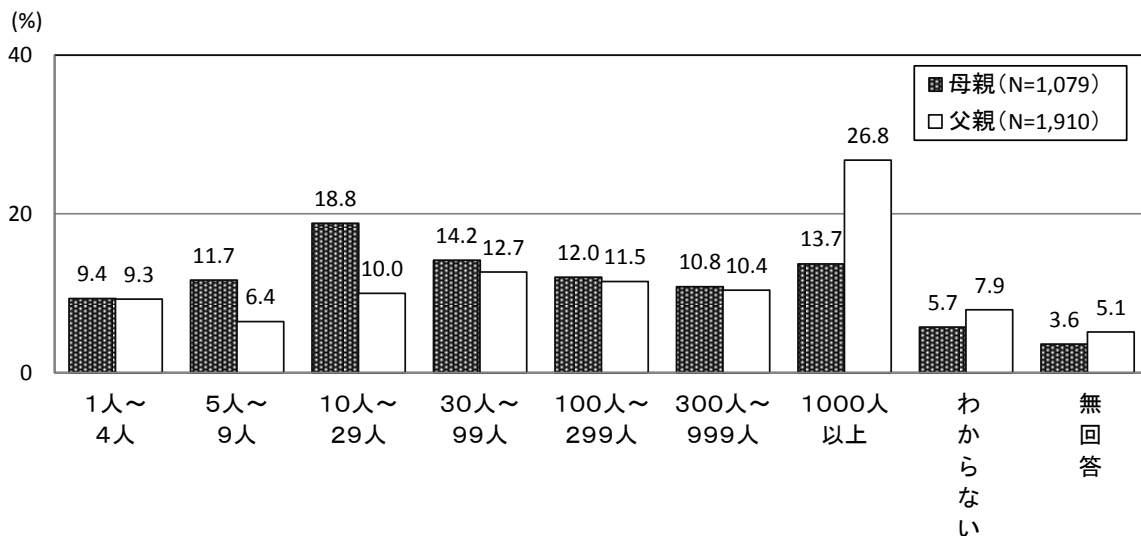
(16) 現在の就労先での職種（問 12(1)-2、問 12(2)-2）

母親の就労先での職種は「専門的・技術的な仕事（医師、教師など）」が 32.7%で最も高く、次いで「事務の仕事（一般事務員など）」27.9%、「サービスの仕事（調理人、美容師、接客など）」18.7%となっている。父親は「技能工（職人など）・工場などの現場作業」が 29.2%で最も高く、次いで「専門的・技術的な仕事（医師、教師など）」15.9%、「販売の仕事（小売店主、店員など）」10.6%となっている。



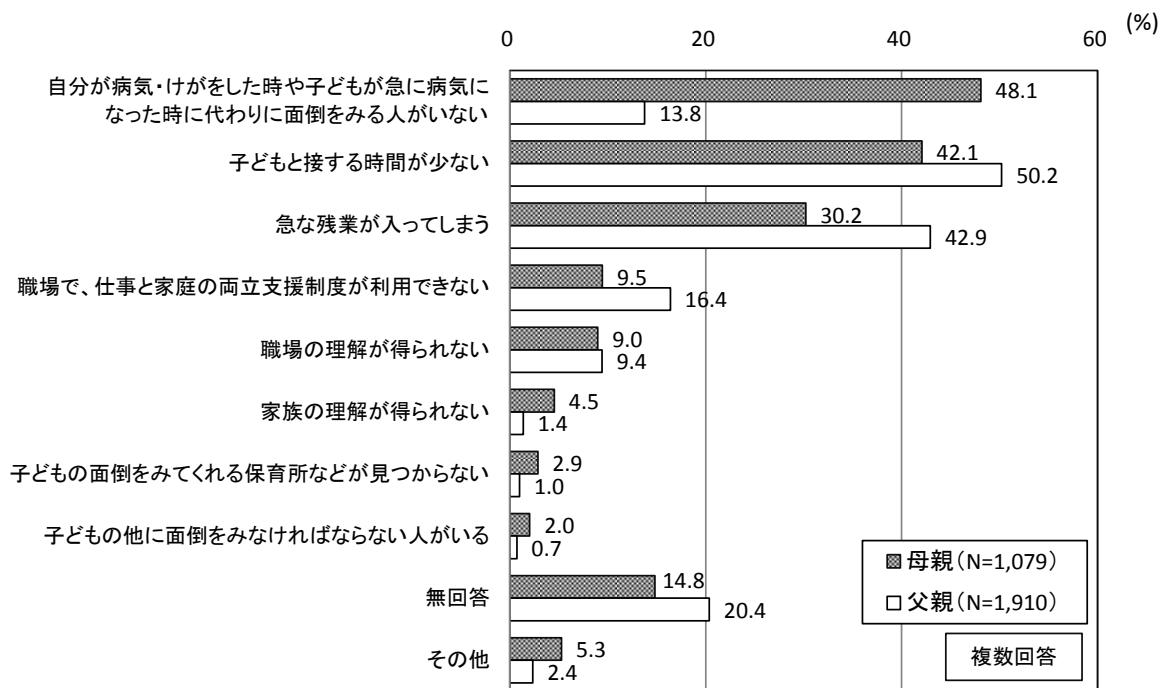
(17) 現在の就労先の従業員規模（問 12(1)-3、問 12(2)-3）

母親の就労先の従業員規模は、「10人～29人」が 18.8%で最も高く、次いで「30人～99人」14.2%、「1000人以上」13.7%となっている。父親は、「1000人以上」が 26.8%で最も高く、「30人～99人」12.7%、「100人～299人」11.5%となっている。



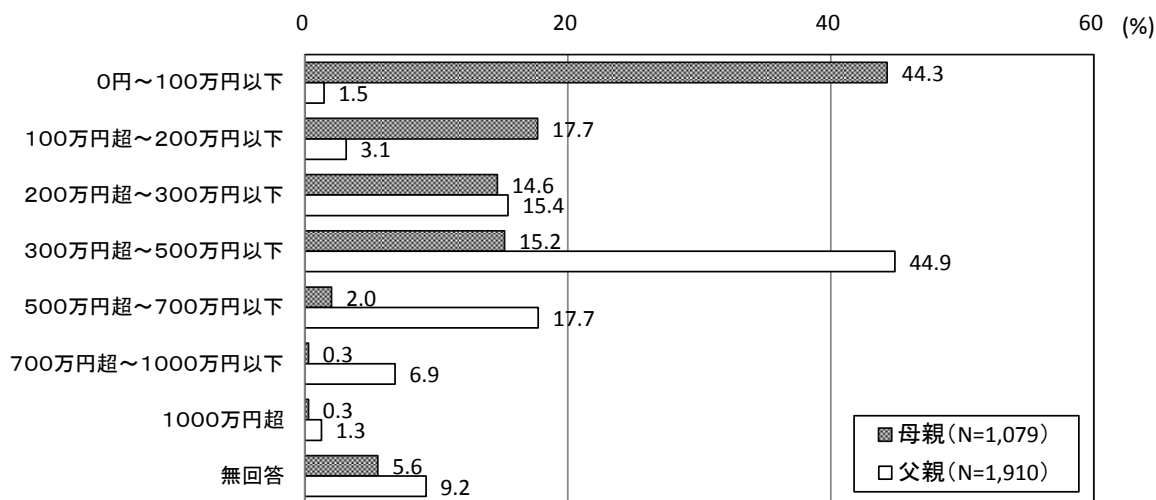
(18) 仕事と子育てを両立させる上で大変だと感じること（問12(1)-4、問12(2)-4）

仕事と子育てを両立させる上で大変だと感じることを尋ねたところ、母親は、「自分が病気・けがをした時や子どもが急に病気になった時に代わりに面倒をみる人がいない」が48.1%で最も高く、次いで「子どもと接する時間が少ない」42.1%、「急な残業が入ってしまう」30.2%となっている。父親は、「子どもと接する時間が少ない」が50.2%で最も高く、次いで「急な残業が入ってしまう」42.9%、「職場で、仕事と家庭の両立支援制度が利用できない」16.4%となっている。



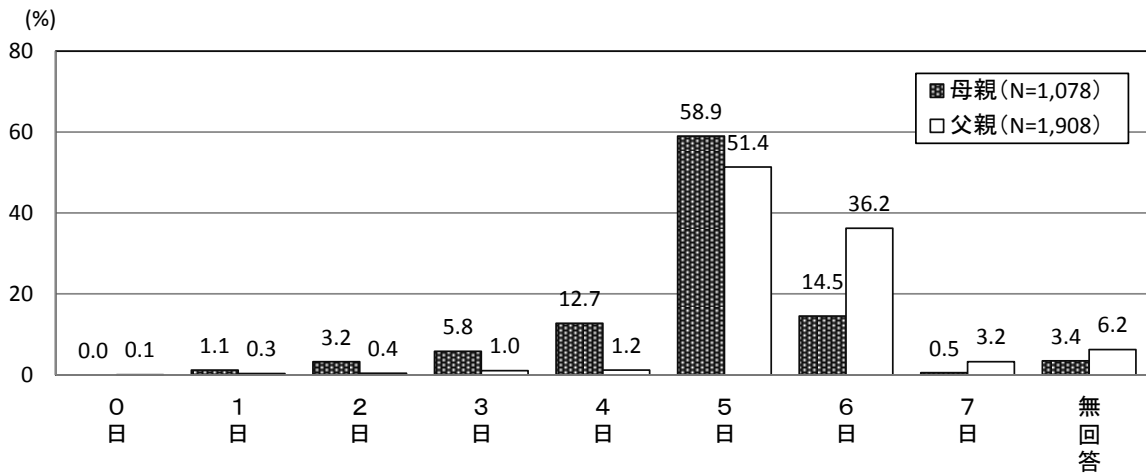
(19) 保護者の年収（問12(1)-5、問12(2)-5）

母親の年収は、「0円～100万円以下」が44.3%で最も高く、次いで「100万円超～200万円以下」17.7%、「300万円超～500万円以下」15.2%となっている。父親は、「300万円超～500万円以下」が44.9%で最も高く、「500万円超～700万円以下」17.7%、「200万円超～300万円以下」15.4%となっている。



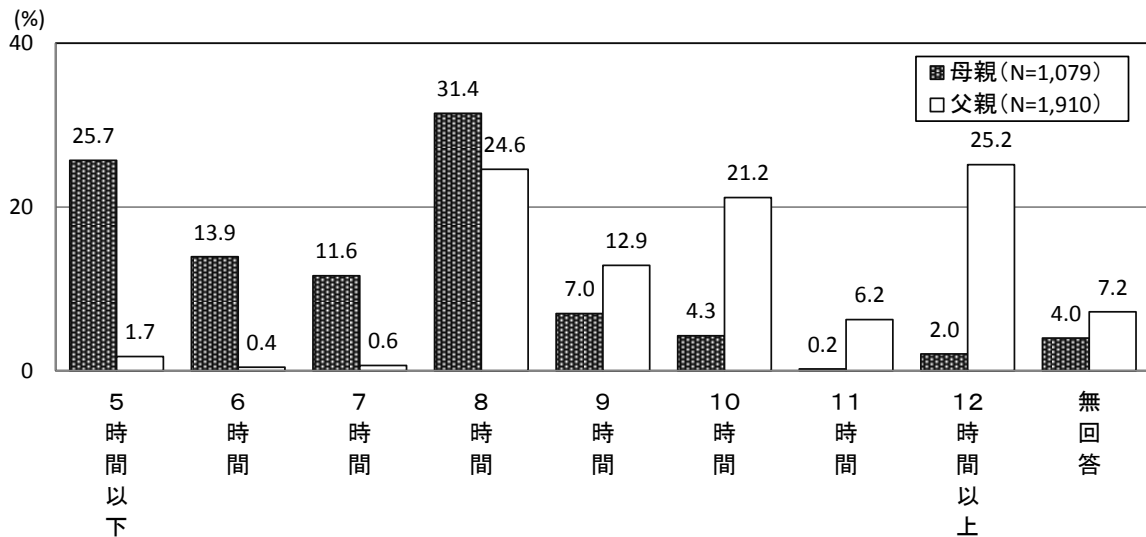
(20) 保護者の1週当たりの就労日数（問12(1)-6、問12(2)-6）

母親の1週当たりの就労日数は、「5日」が58.9%で最も高く、次いで「6日」14.5%、「4日」12.7%となっている。父親は、「5日」が51.4%で最も高く、次いで「6日」36.2%、「7日」3.2%となっている。



(21) 保護者の1日当たりの就労時間（残業時間を含む）（問12(1)-6、問12(2)-6）

母親の1日当たりの就労時間（残業時間を含む）は、「8時間」が31.4%で最も高く、次いで「5時間以下」25.7%、「6時間」13.9%となっている。父親は、「12時間以上」が25.2%で最も高く、次いで「8時間」24.6%、「10時間」21.2%となっている。

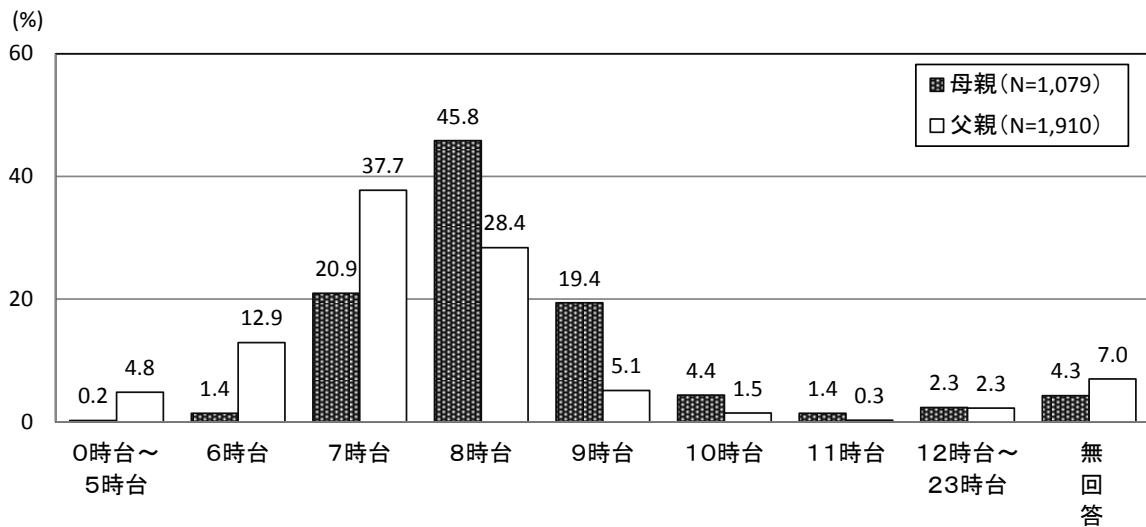


(22) 保護者が家を出る時刻と帰宅時刻（問 12(1)-7、問 12(2)-7）

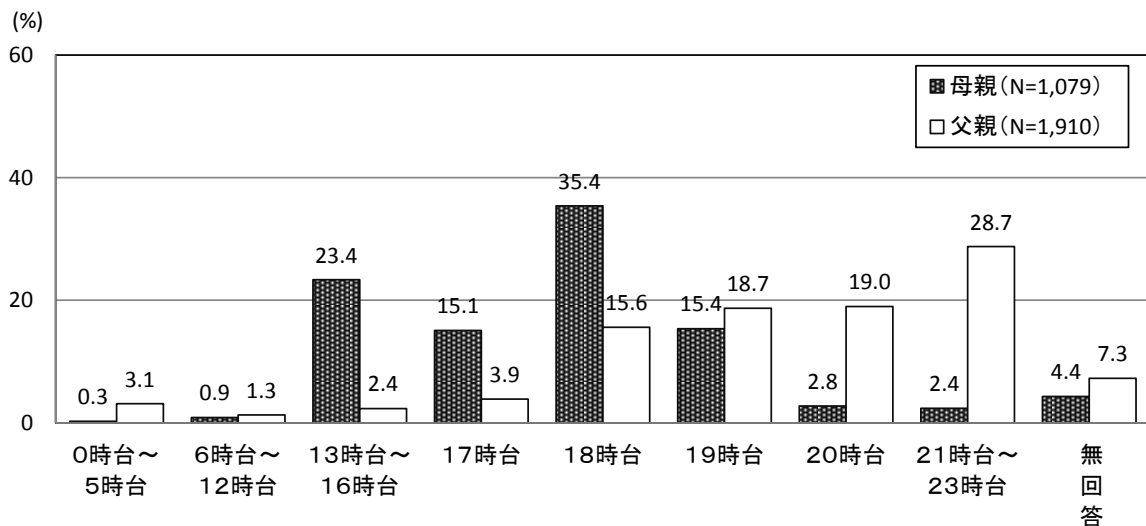
母親が家を出る時刻は、「8時台」45.8%で最も高く、次いで「7時台」20.9%、「9時台」19.4%となっている。帰宅時刻は、「18時台」が35.4%で最も高く、次いで「13時台～16時台」23.4%、「19時台」15.4%となっている。

父親が家を出る時刻は、「7時台」が37.7%で最も高く、次いで「8時台」28.4%、「6時台」12.9%となっている。帰宅時刻は、「21時台～23時台」が28.7%で最も高く、次いで「20時台」19.0%、「19時台」18.7%となっている。父親が家を早く出て、遅く帰宅する傾向が見られる。

家を出る時刻



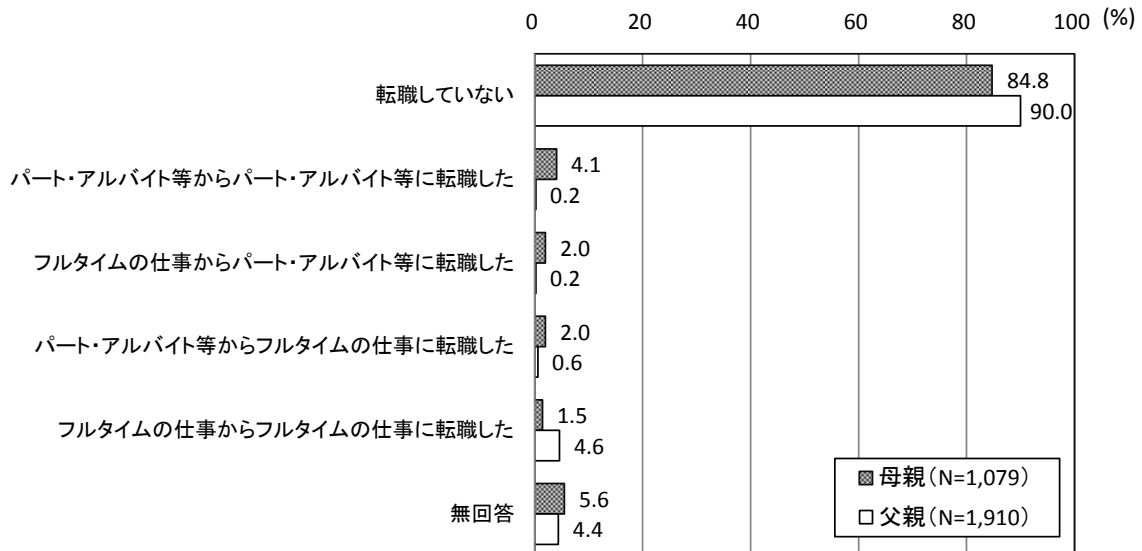
帰宅時刻



(23) 平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日間の転職状況（問 13(1)、問 13(2)）

母親の転職状況は、「転職していない」が 84.8%で最も高く、次いで「パート・アルバイト等からパート・アルバイト等に転職した」が 4.1%、「フルタイムの仕事からパート・アルバイト等に転職した」と「パート・アルバイト等からフルタイムの仕事に転職した」が同率の 2.0%となっている。

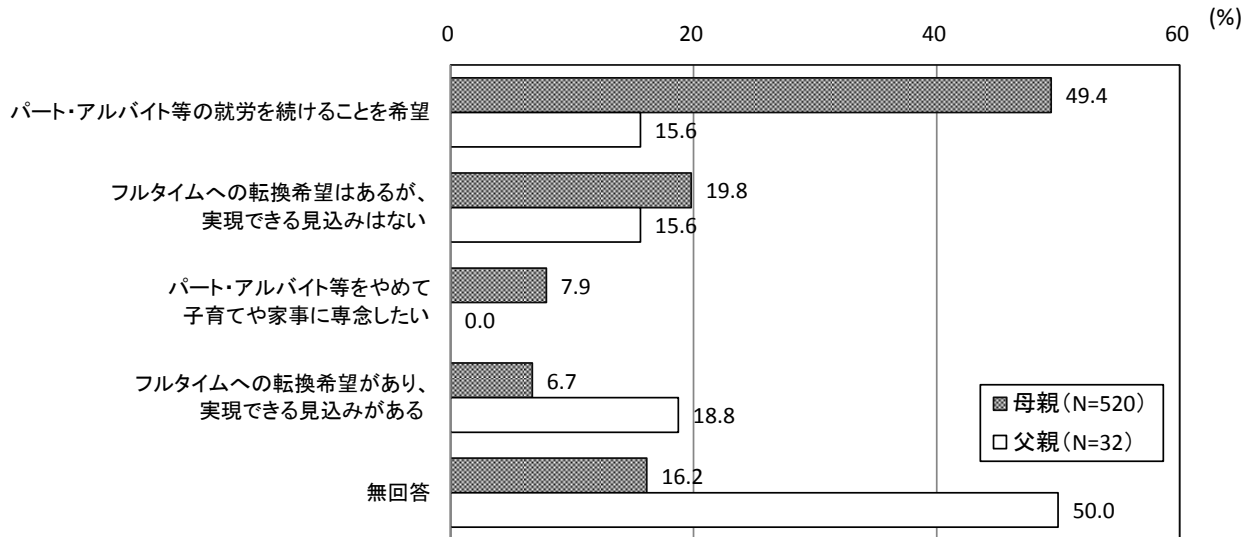
父親は、「転職していない」が 90.0%で最も高く、次いで「フルタイムの仕事からフルタイムの仕事に転職した」4.6%、「パート・アルバイト等からフルタイムの仕事に転職した」0.6%となっている。



(24) パート・アルバイトからフルタイムへの転換希望（問 14(1)、問 14(2)）

(14) でパート・アルバイト等で就労していると回答した人にフルタイムへの転換希望を尋ねたところ、母親は「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が 49.4%と最も高く、次いで「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」19.8%、「パート・アルバイト等をやめて子育てや家事に専念したい」7.9%となっている。

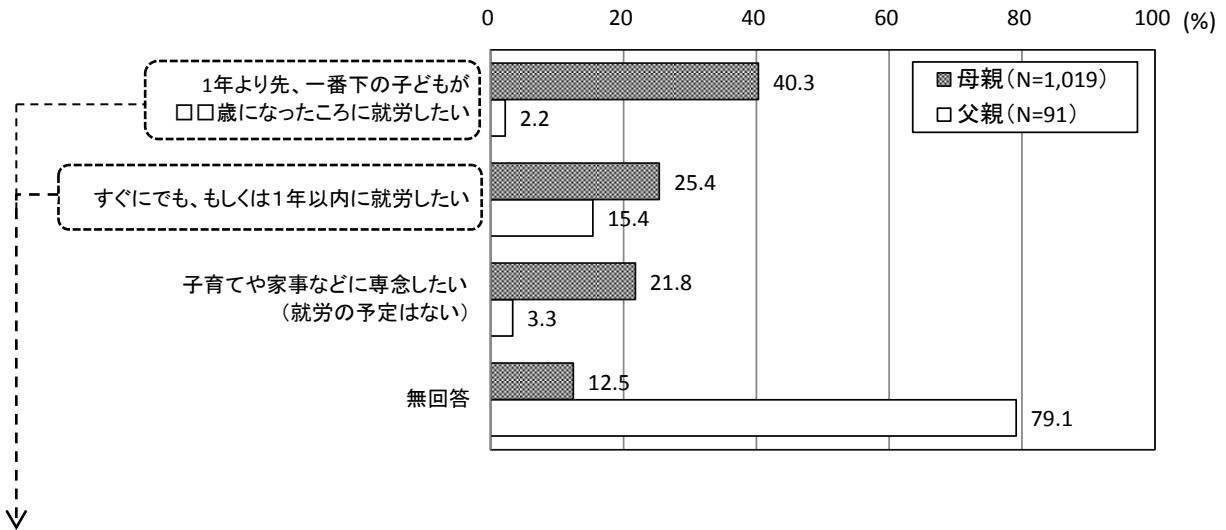
父親は、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」が 18.8%で最も高く、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」と「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が同率の 15.6%となっている。



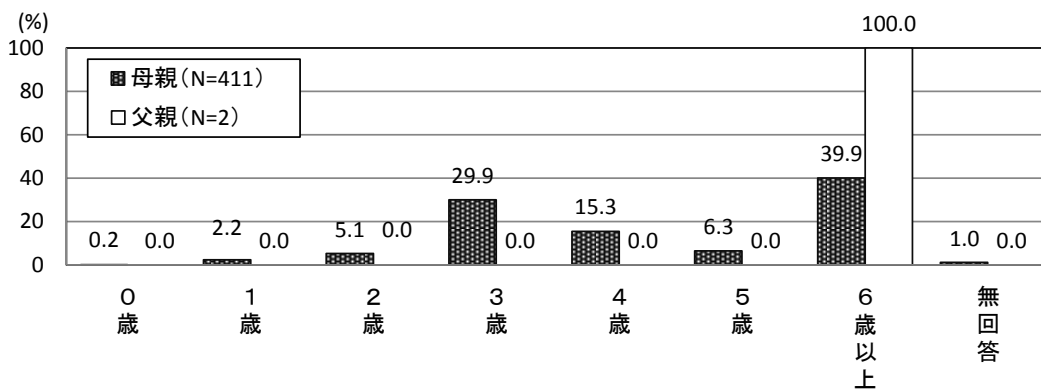
(25) 今後の就労希望（問 15(1)、問 15(2)）

(14) で就労していない、就労したことがないと回答した人に今後の就労希望を尋ねたところ、母親は、「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったところに就労したい」が 40.3%で最も高く、次いで「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」25.4%、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」21.8%となっている。

父親は、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が 15.4%で最も高く、次いで「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」3.3%、「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったところに就労したい」2.2%となっている。

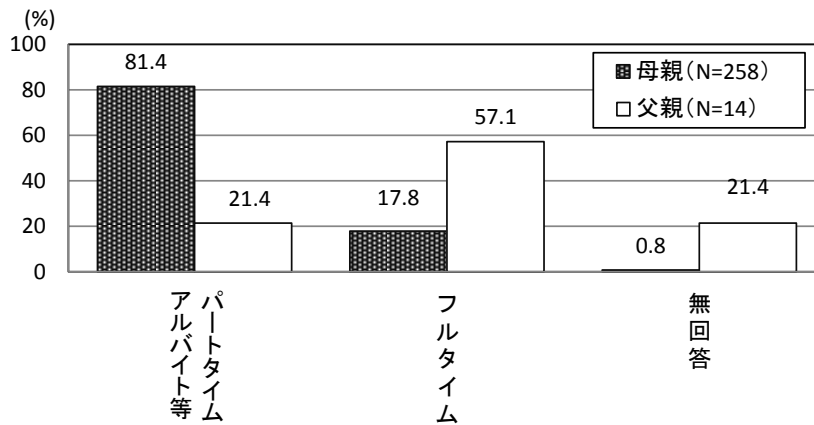


「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったところに就労したい」と回答した人に具体的な年齢を尋ねたところ、母親は「6歳以上」が 39.9%で最も高く、次いで「3歳」29.9%、「4歳」15.3%となっている。

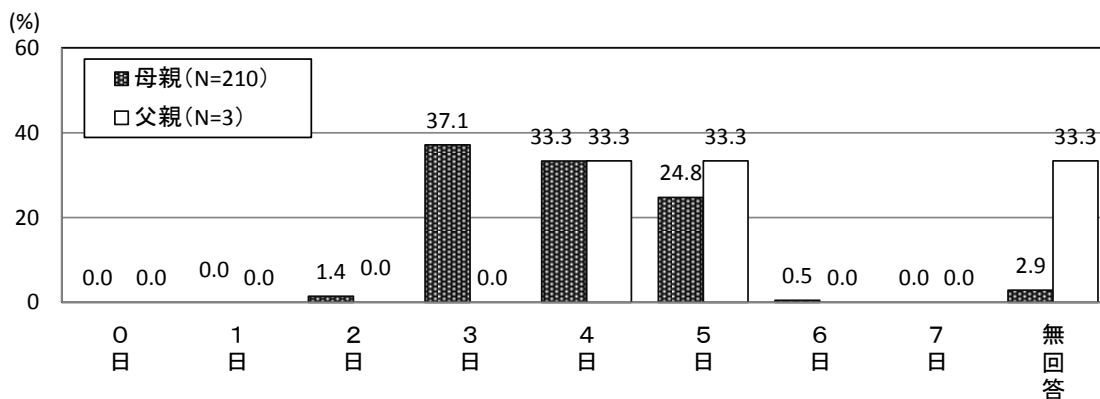


【就学前児童の保護者（調査票A）】

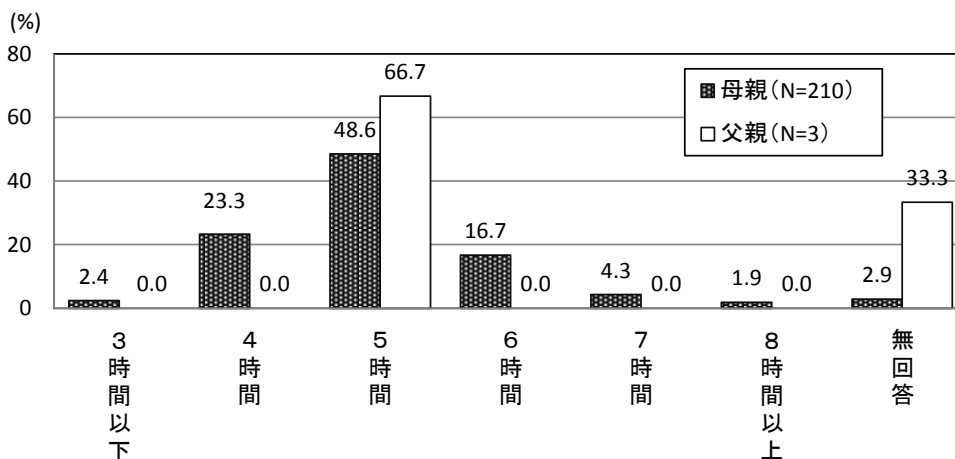
次に、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した人に希望する就労形態を尋ねたところ、母親は「パートタイム・アルバイト等」が81.4%と高い割合を占めた。父親は、「フルタイム」が57.1%と高い割合を占めた。



「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答し、希望する就労形態を「パートタイム・アルバイト等」と回答した人に、希望する1週当たりの就労日数を尋ねたところ、母親は「3日」が37.1%で最も高く、次いで「4日」33.3%、「5日」24.8%となっている。



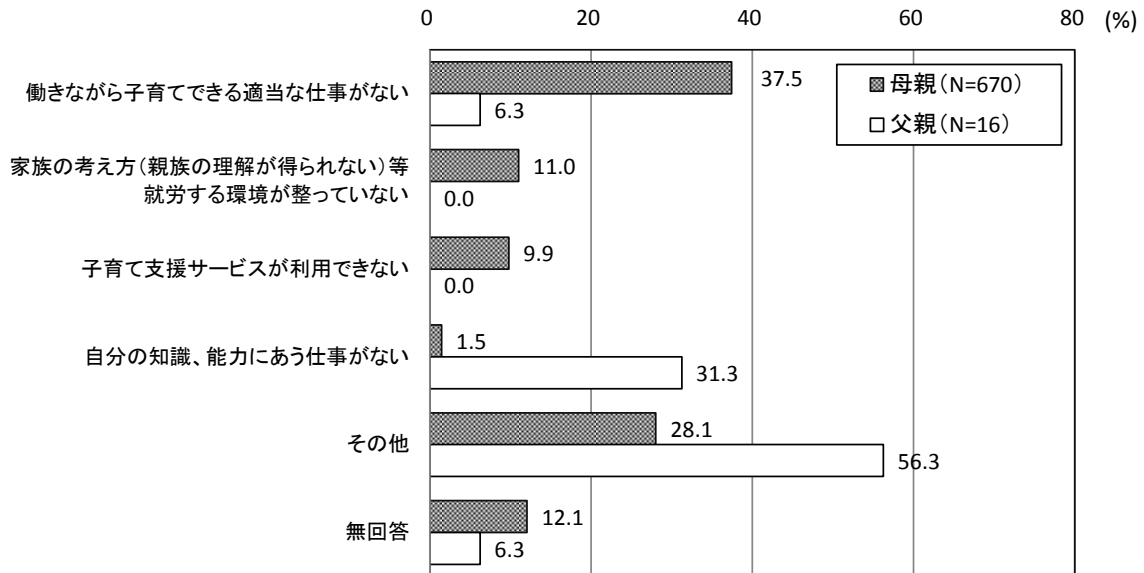
同じく「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答し、希望する就労形態を「パートタイム・アルバイト等」と回答した人に、希望する1日当たりの就労時間を尋ねたところ、母親は「5時間」が48.6%で最も高く、次いで「4時間」23.3%、「6時間」16.7%となっている。



(26) 就労希望がありながら現在働いていない理由（問 15-1(1)、問 15-1(2)）

(25) で就労したいと回答した人に現在働いていない理由を尋ねたところ、母親は「働きながら子育てできる適当な仕事がない」が 37.5%で最も高く、次いで「その他」28.1%、「家族の考え方（親族の理解が得られない）等就労する環境が整っていない」11.0%となっている。

父親は、「その他」が 56.3%で最も高く、次いで「自分の知識、能力にあう仕事がない」31.3%、「働きながら子育てできる適当な仕事がない」6.3%となっている。

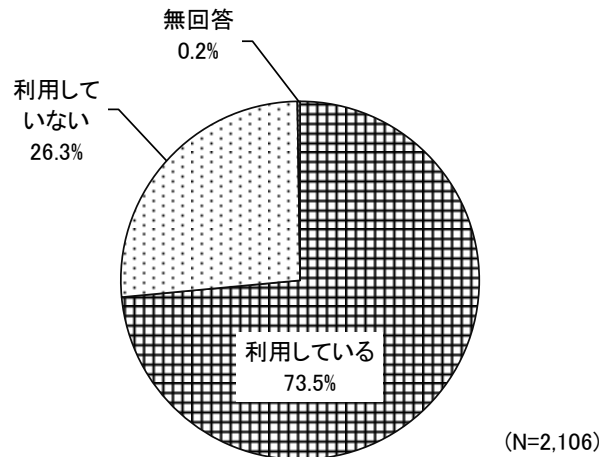


4. 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況

※「定期的な教育・保育事業」とは、月単位で定期的に利用している事業を指します。具体的には、幼稚園や保育所など(28)の図表に示した事業が含まれます。

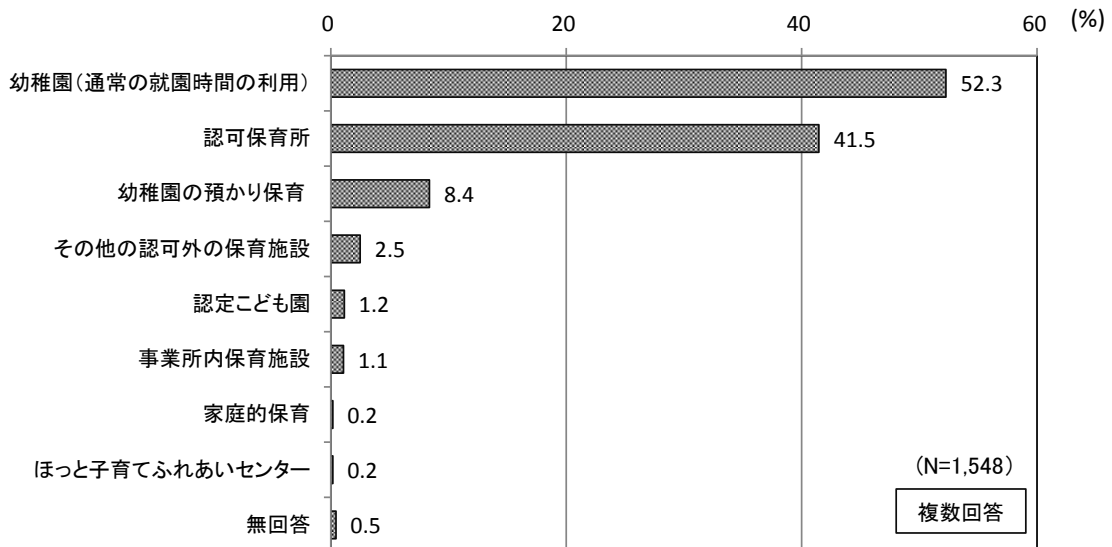
(27) 定期的な教育・保育事業の利用状況（問 16）

定期的な教育・保育事業を「利用している」が73.5%、「利用していない」が26.3%となっている。



(28) 平日に定期的に利用している教育・保育事業（問 16-1）

利用している教育・保育事業は、「幼稚園（通常の就園時間の利用）」52.3%、「認可保育所」41.5%の2つが特に高い割合を占めている。

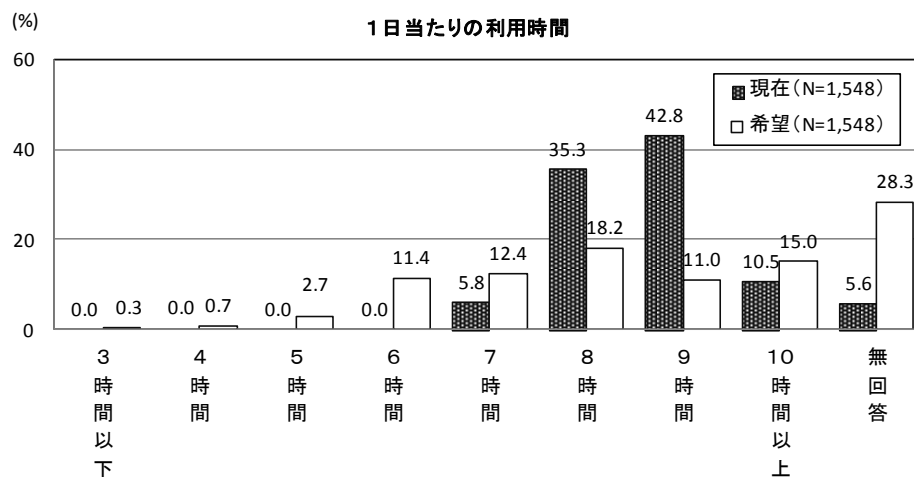
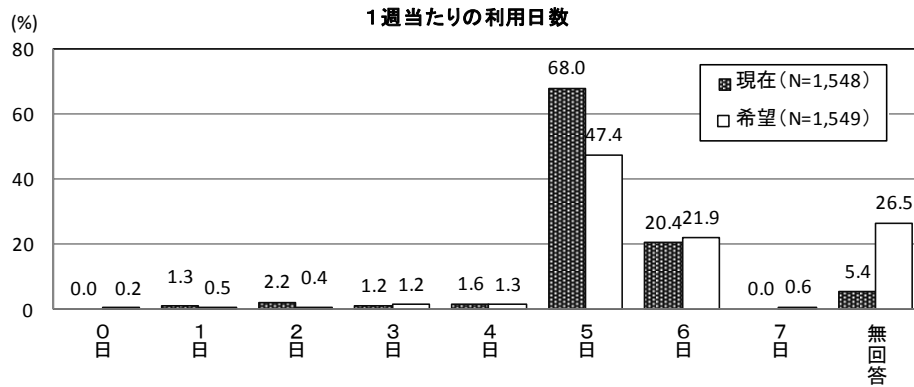


- ※認可保育所…国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けたもの
- ※幼稚園の預かり保育…通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ
- ※認定こども園…幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設
- ※事業所内保育施設…企業が主に従業員用に運営する施設
- ※家庭的保育…保育者の家庭等で子どもを保育する事業
- ※ほっと子育てふれあいセンター…地域住民が子どもを預かる事業

(29) 平日に定期的に利用している教育・保育事業の利用時間と利用希望時間（問16-2）

1週当たりの利用日数は、現在については「5日」が68.0%で最も高く、次いで「6日」20.4%、「2日」2.2%となっている。希望については「5日」が47.4%で最も高く、「6日」21.9%、「4日」1.3%となっている。

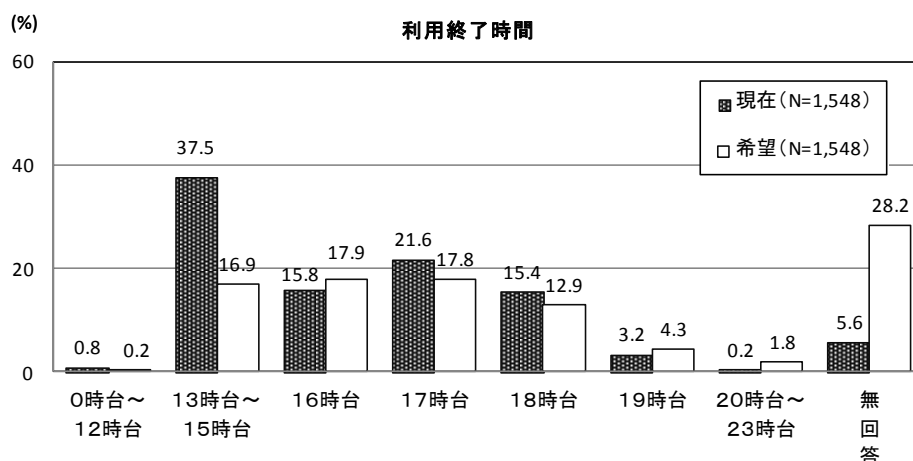
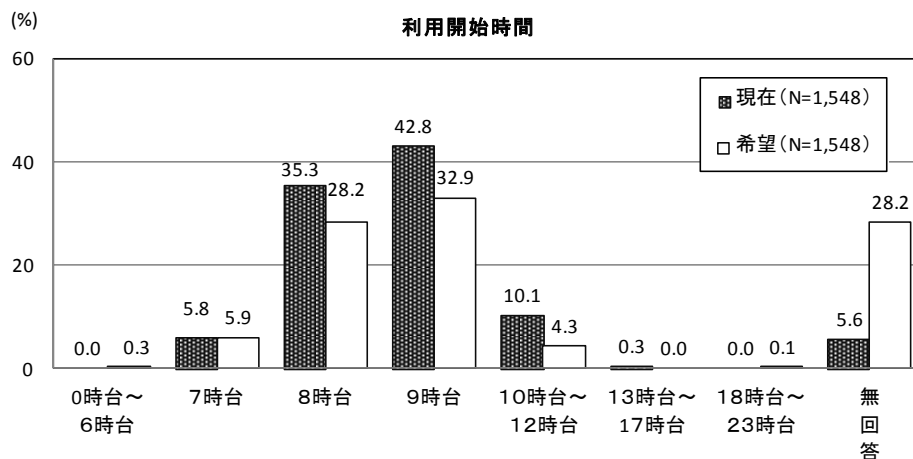
1日当たりの利用時間は、現在については「9時間」が42.8%で最も高く、次いで「8時間」35.3%、「10時間以上」10.5%となっている。希望については「8時間」が18.2%で最も高く、次いで「10時間以上」15.0%、「7時間」12.4%となっている。



【就学前児童の保護者（調査票A）】

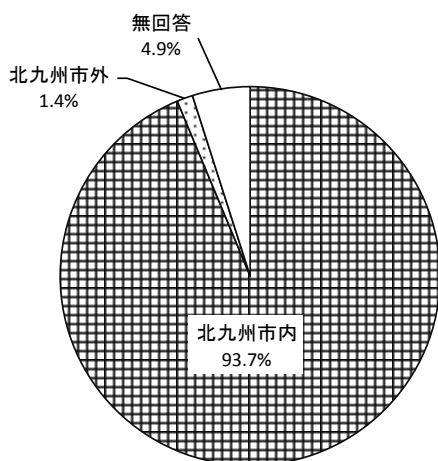
利用開始時間は、現在については「9時台」が42.8%で最も高く、次いで「8時台」35.3%、「10時台～12時台」10.1%となっている。希望については、「9時台」が32.9%で最も高く、次いで「8時台」28.2%、「7時台」5.9%となっている。

利用終了時間は、現在については「13時台～15時台」が37.5%で最も高く、次いで「17時台」21.6%、「16時台」17.9%となっている。希望については「16時台」が17.9%で最も高く、次いで僅差で「17時台」17.8%、「13時台～15時台」16.9%となっている。



(30) 平日に定期的に利用している教育・保育事業の実施場所（問16-3）

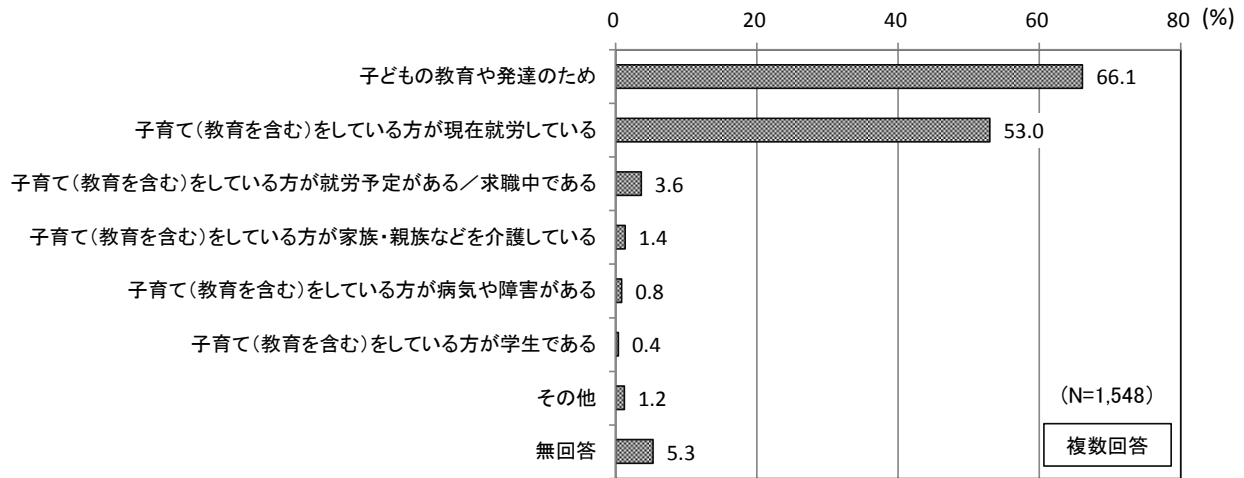
定期的に利用している教育・保育事業の実施場所は、「北九州市内」が93.7%を占めている。



(N=1,548)

(31) 平日に定期的に教育・保育事業を利用している理由（問 16-4）

定期的に教育・保育事業を利用している理由は、「子どもの教育や発達のため」が66.1%で最も高く、次いで「子育て（教育を含む）をしている方が現在就労している」が53.0%で、この2つの割合が特に高くなっている。



<利用している保育サービス別>

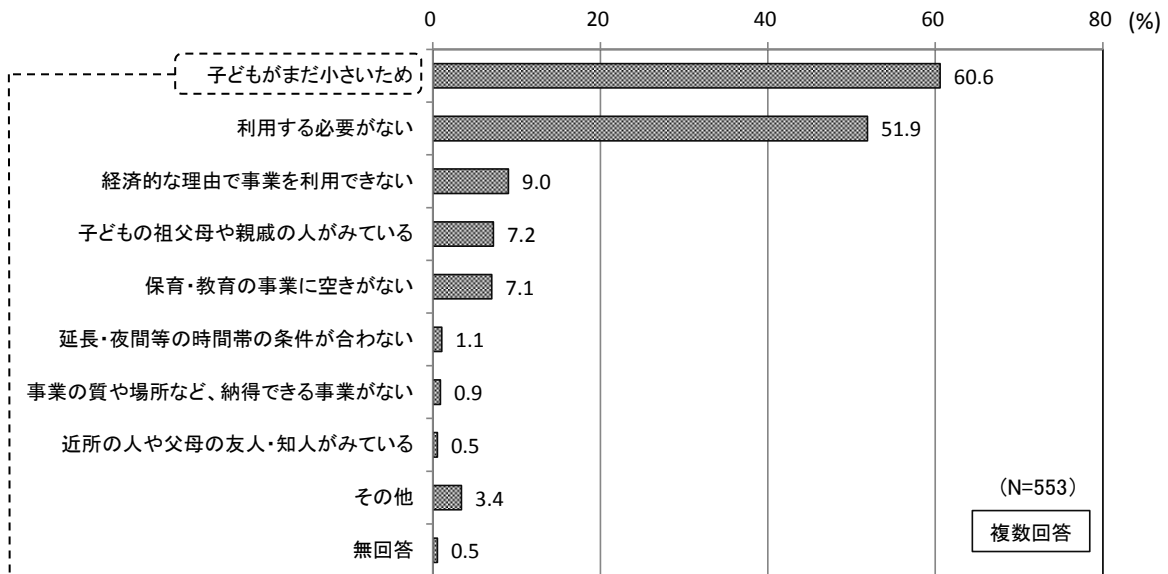
利用している保育サービス別に理由を見ると、幼稚園は「子どもの教育や発達のため」が87.1%で特に高い。一方、認可保育所は「子育て（教育を含む）をしている方が現在就労している」が90.2%で特に高い。幼稚園の預かり保育・認定こども園・その他の認可外の保育施設は、「子どもの教育や発達のため」と「子育て（教育を含む）をしている方が現在就労している」がともに5割以上となっている。

		複数回答	(%)								
		サンプル数 (件)	子どもの教育や発達のため	子育て(教育を含む)をしている	子育て(教育を含む)をしている方が現在就労している	子育て(教育を含む)をしている方が就労予定がある/求職中	子育て(教育を含む)をしている方が家族・親族などを介護している	子育て(教育を含む)をしている方が病気や障害がある	子育て(教育を含む)をしている方が学生である	その他	無回答
全体		1,548	1,023	820	56	21	13	6	19	82	
		-	66.1	53.0	3.6	1.4	0.8	0.4	1.2	5.3	
保 用 サ ー ビ ス	幼稚園	809	87.1	22.4	3.3	0.9	0.2	0.0	1.1	8.9	
	幼稚園の預かり保育	130	83.8	71.5	3.1	1.5	0.0	0.8	0.0	2.3	
	認可保育所	642	39.3	90.2	4.2	1.6	1.4	0.8	1.2	1.1	
	認定こども園	18	83.3	50.0	0.0	11.1	0.0	0.0	5.6	0.0	
	家庭的保育	3	33.3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	事業所内保育施設	17	58.8	88.2	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	その他の認可外の保育施設	39	74.4	64.1	2.6	5.1	2.6	0.0	0.0	0.0	
ほっと子育てふれあいセンター	3	33.3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

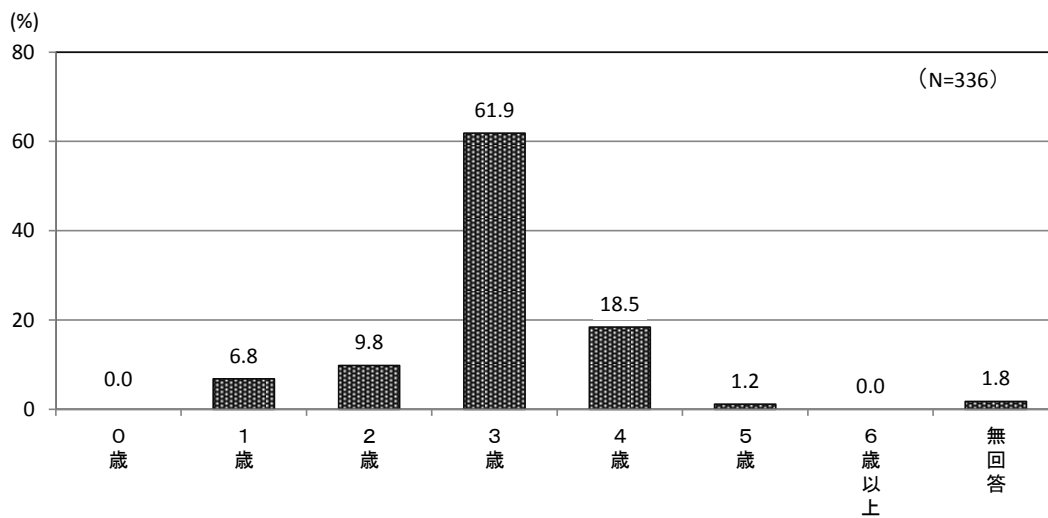
※ 全体の上段は実数、下段は比率。

(32) 平日に定期的に教育・保育事業を利用していない理由（問 16-5）

(27) で「利用していない」と回答した人にその理由を尋ねたところ、「子どもがまだ小さいため」が 60.6%で最も高く、次いで「利用する必要がない」51.9%、「利用したいが、経済的な理由で事業を利用できない」9.0%となっている。

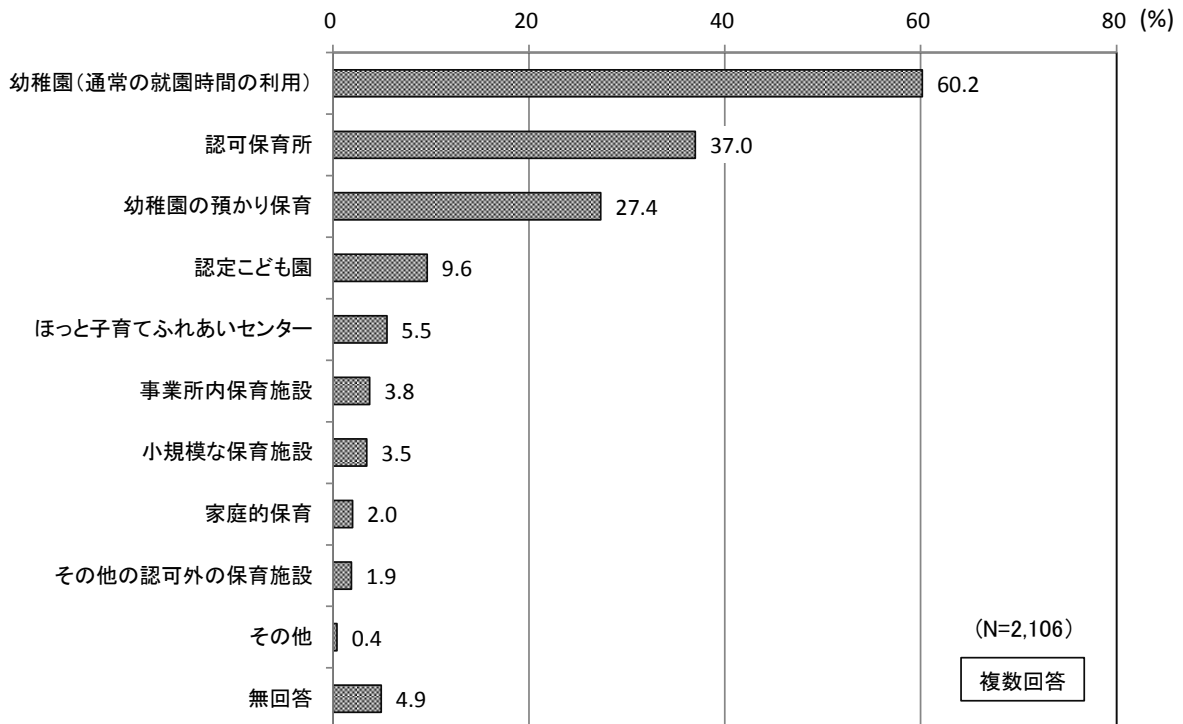


また、「子どもがまだ小さいため」と回答した人に利用したいと思う年齢を尋ねたところ、「3歳」が 61.9%で最も高く、次いで「4歳」18.5%、「2歳」9.8%となっている。



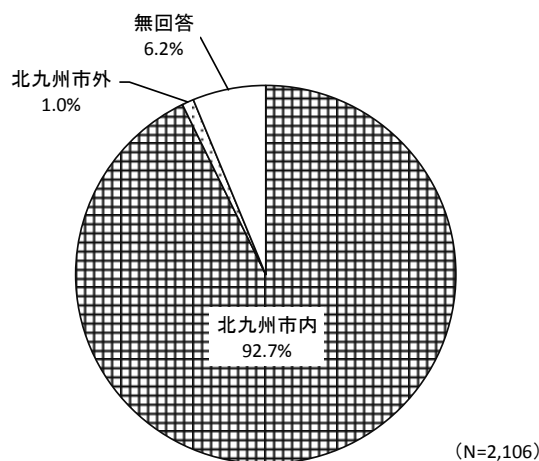
(33) 平日の教育・保育の事業として「定期的に」利用したいと考える事業（問17）

定期的に利用したいと考える事業は、「幼稚園（通常の就園時間の利用）」が60.2%で最も高く、次いで「認可保育所」37.0%、「幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ）」27.4%となっている。



(34) 教育・保育事業を利用したい場所（問17-1）

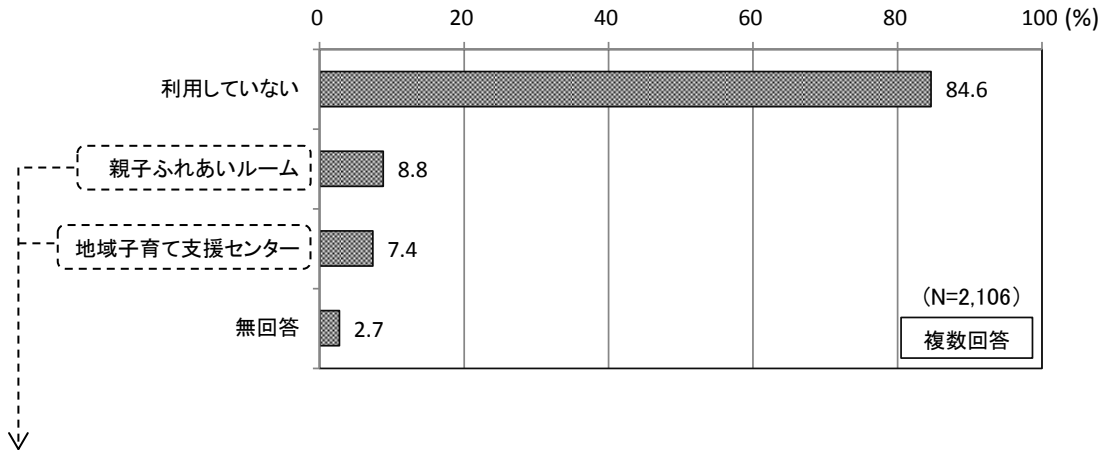
利用したい場所は、「北九州市内」が92.7%と特に高く、「北九州市外」は1.0%にとどまっている。



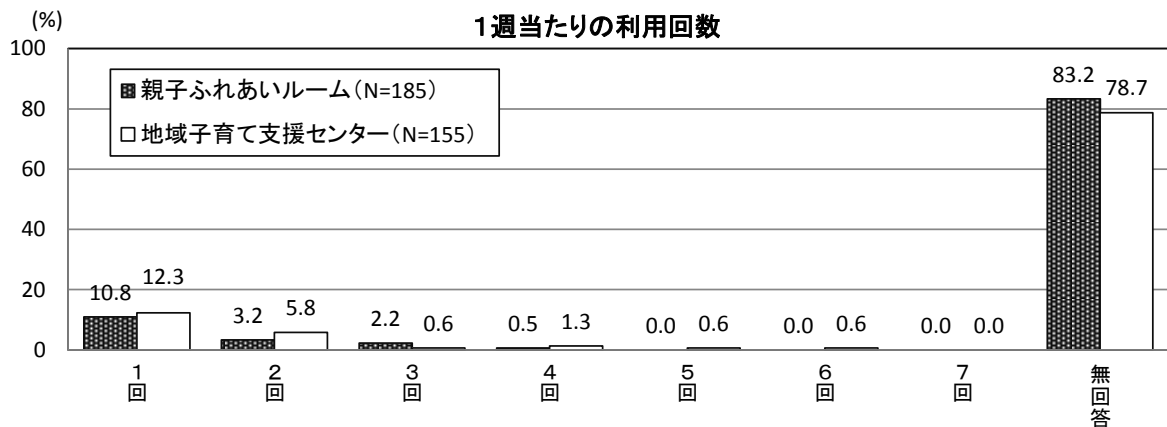
5. 地域の子育て支援事業の利用状況

(35) 現在の「親子ふれあいルーム」と「地域子育て支援センター」の利用状況（問 18）

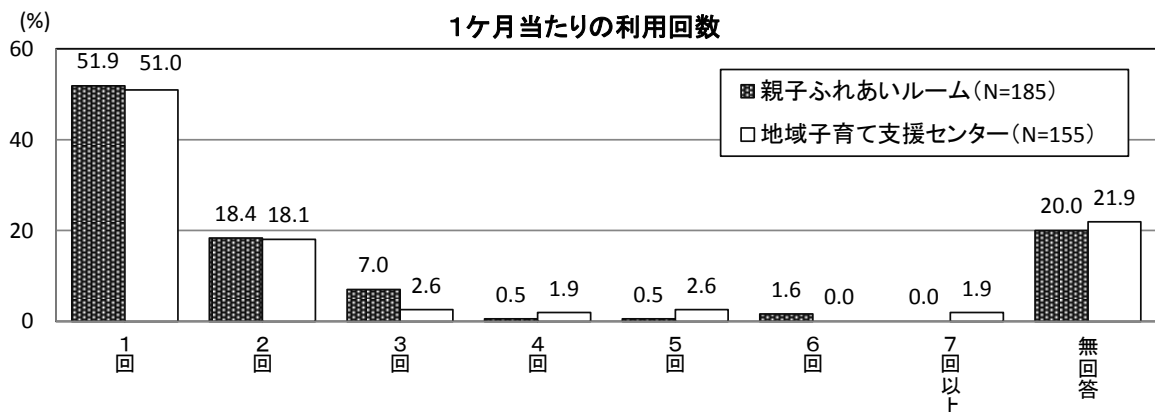
いずれの施設も「利用していない」が84.6%を占めている。



「親子ふれあいルーム」もしくは「地域子育て支援センター」を利用している人に、1週当たりの利用回数を尋ねたところ、利用回数としては、親子ふれあいルームは「1回」10.8%が最も高く、地域子育て支援センターも「1回」12.3%が最も高かった。

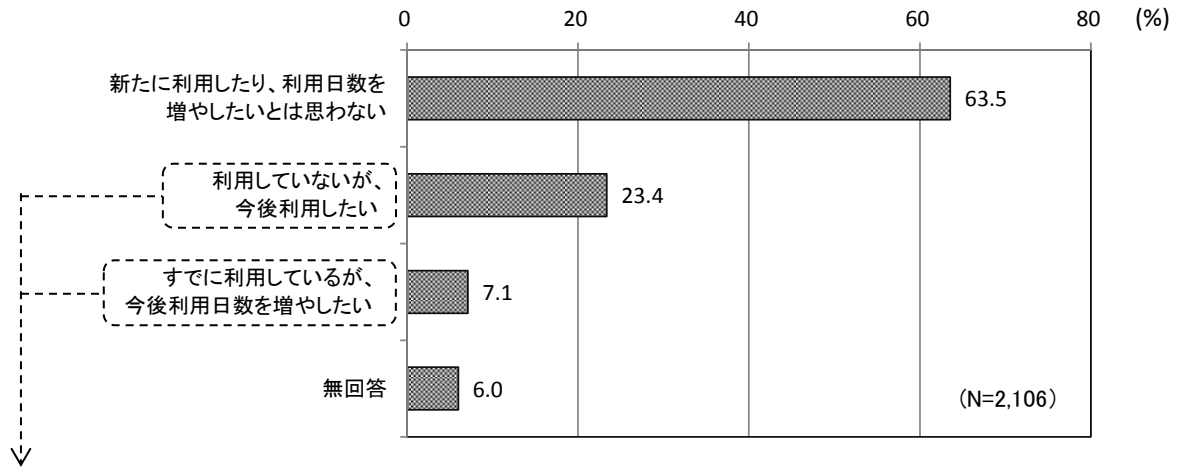


また、1ヶ月当たりの利用回数を尋ねたところ、利用回数としては、親子ふれあいルームは「1回」51.9%が最も高く、地域子育て支援センターも「1回」51.0%が最も高かった。

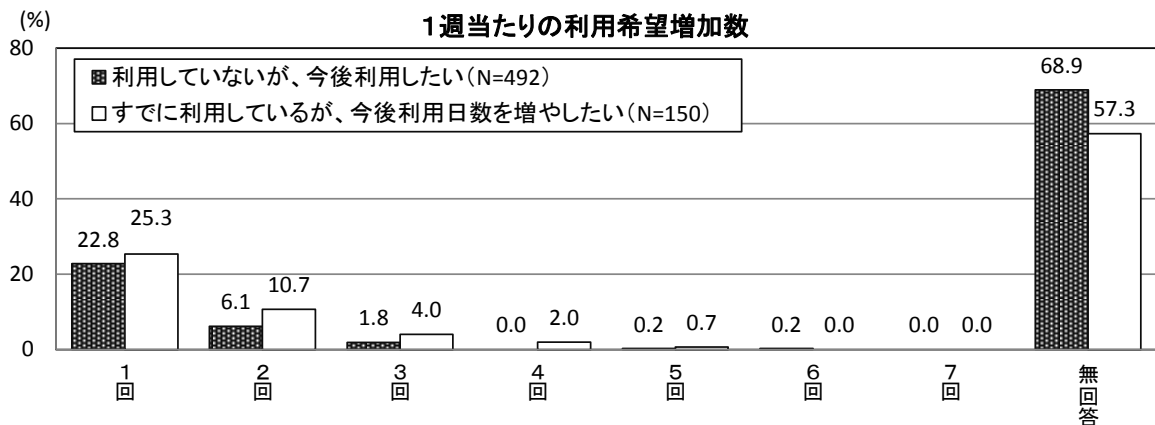


(36) 今後の「親子ふれあいルーム」と「地域子育て支援センター」の利用希望（問19）

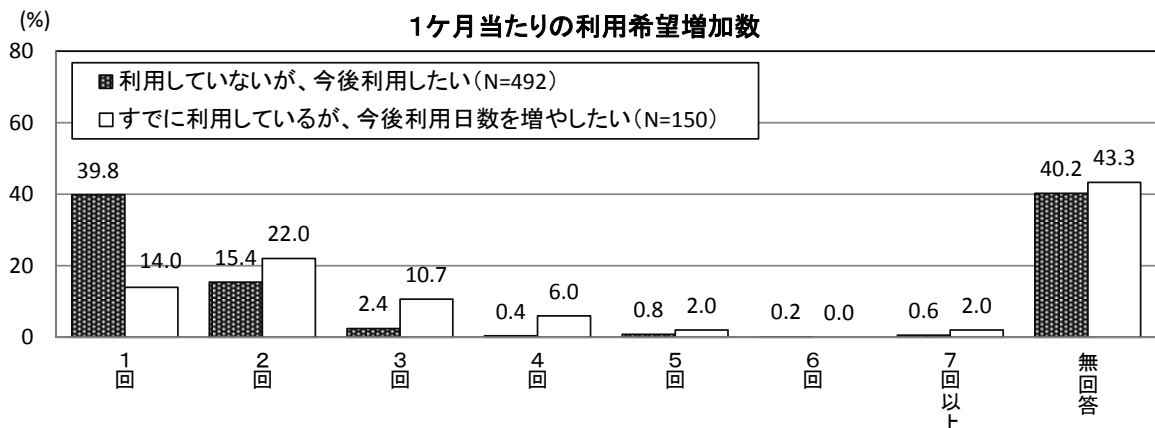
利用希望は、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」63.5%が最も高く、次いで「利用していないが、今後利用したい」23.4%となっている。



今後利用したい、利用日数を増やしたいと回答した人に、1週当たりの利用希望回数を尋ねたところ、「利用していないが、今後利用したい」では「1回」22.8%が最も高く、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」でも「1回」25.3%が最も高かった。

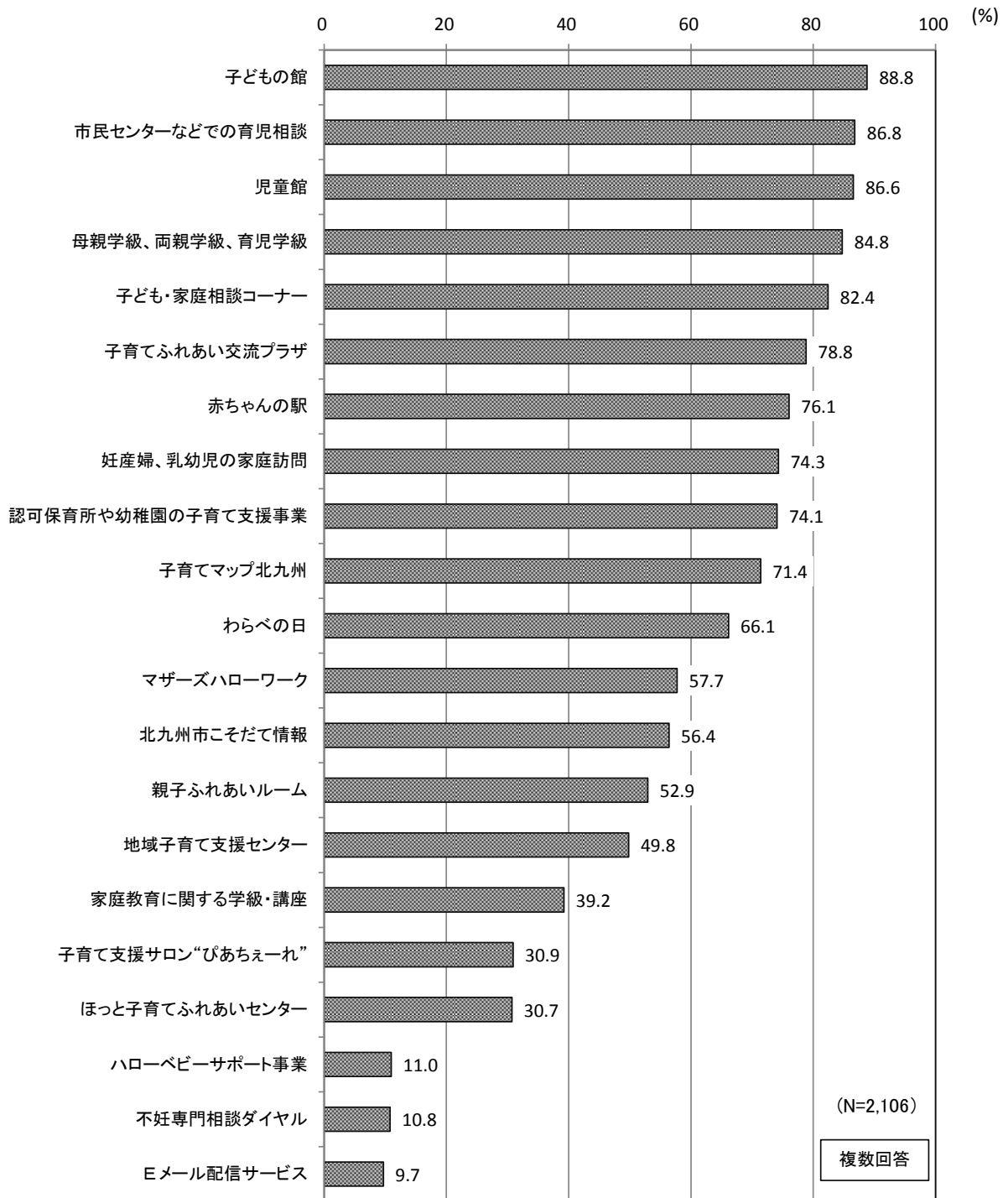


また、1ヶ月当たりの利用希望回数を尋ねたところ、「利用していないが、今後利用したい」では「1回」39.8%が最も高く、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」では「2回」22.0%が最も高かった。



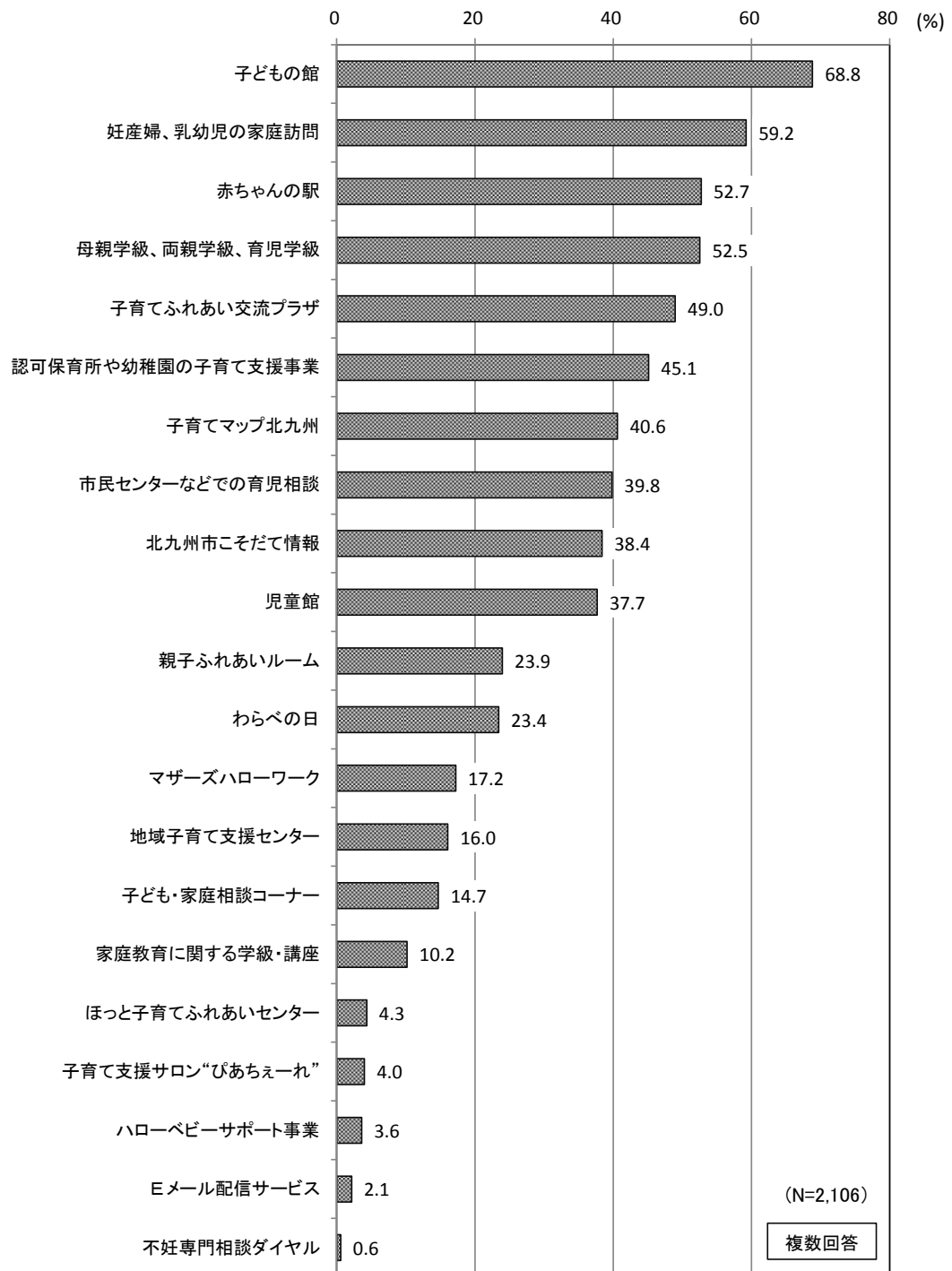
(37) 各種事業の認知度（問 20）

事業の認知度は、「子どもの館」が 88.8%で最も高く、次いで「市民センターなどでの育児相談」86.8%、「児童館」86.6%、「母親学級、両親学級、育児学級」84.8%、「子ども・家庭相談コーナー」82.4%となっている。



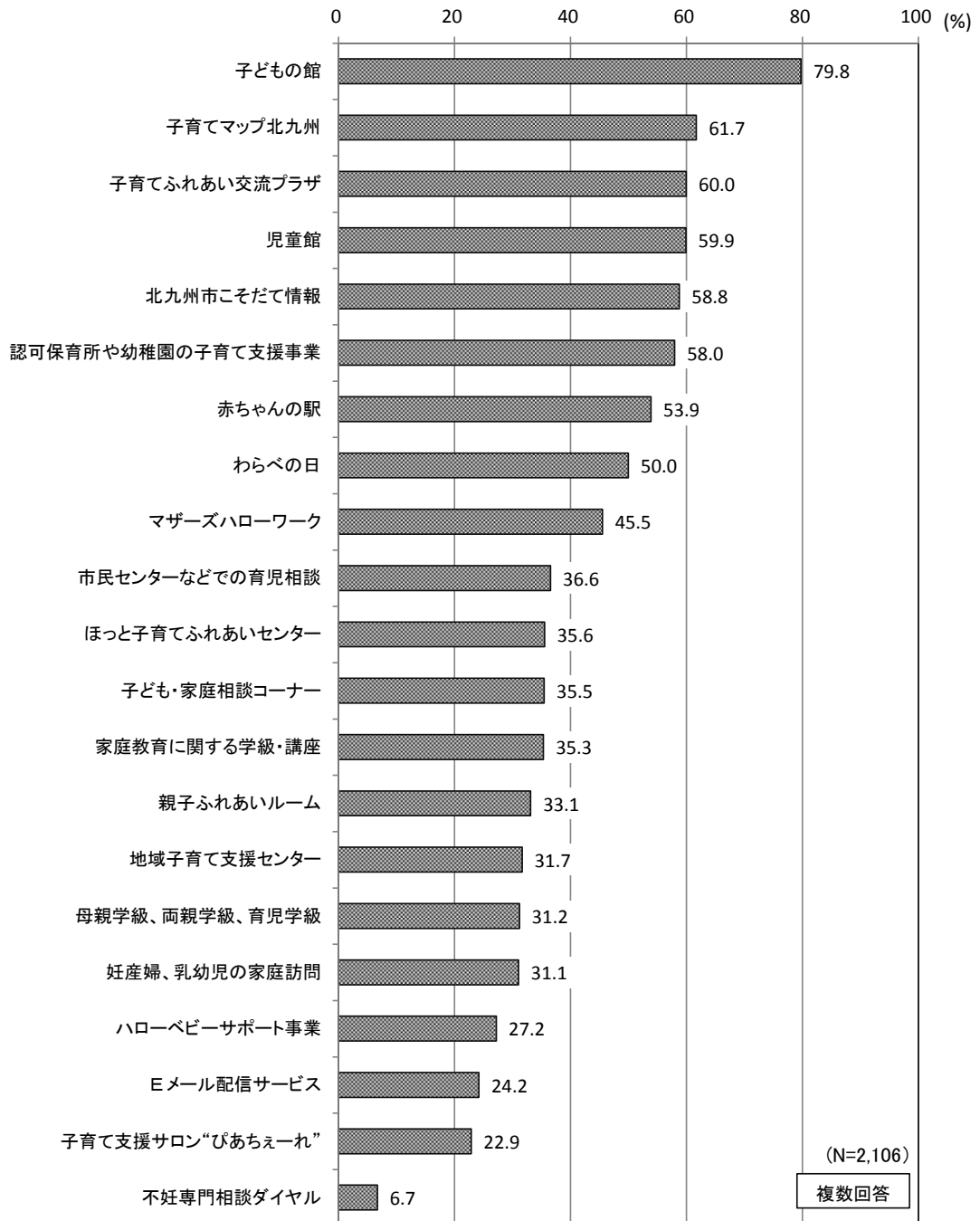
(38) 各種事業の利用経験（問 20）

利用したことがある事業は、「子どもの館」が 68.8%で最も高く、「妊産婦、乳幼児の家庭訪問」59.2%、「赤ちゃんの駅」52.7%、「母親学級、両親学級、育児学級」52.5%、「子育てふれあい交流プラザ」49.0%となっている。



(39) 各種事業の今後の利用希望（問 20）

利用したい事業は「子どもの館」が79.8%で最も高く、「子育てマップ北九州」61.7%、「子育てふれあい交流プラザ」60.0%、「児童館」59.9%、「北九州こそだて情報」58.8%となっている。

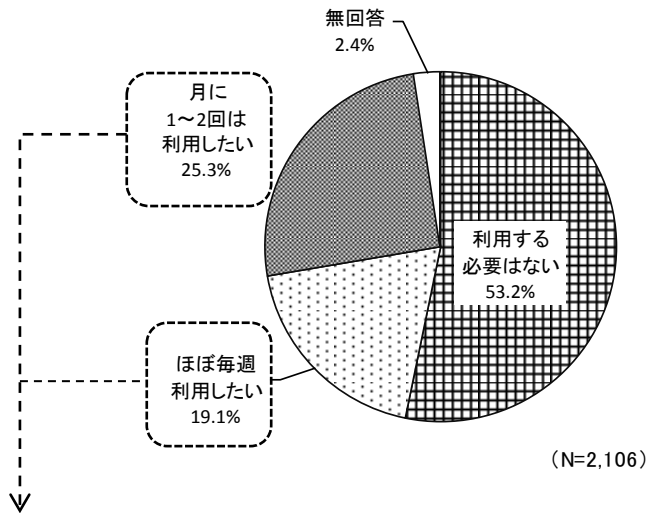


6. 土曜日・休日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用希望

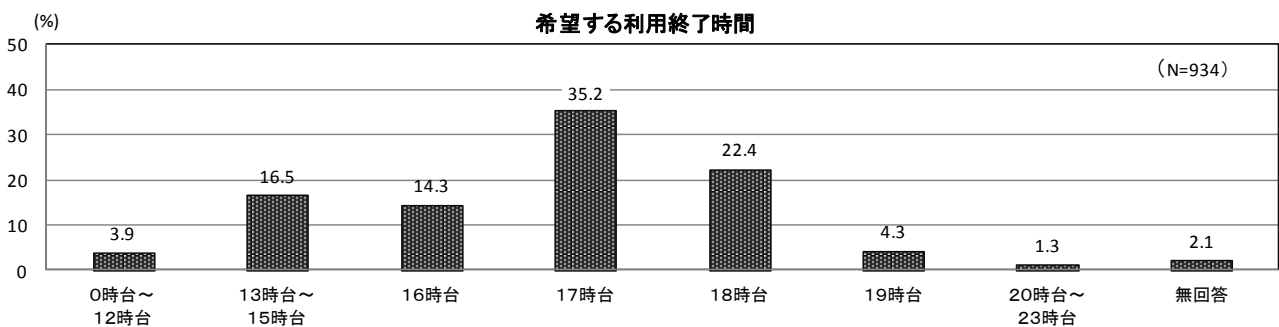
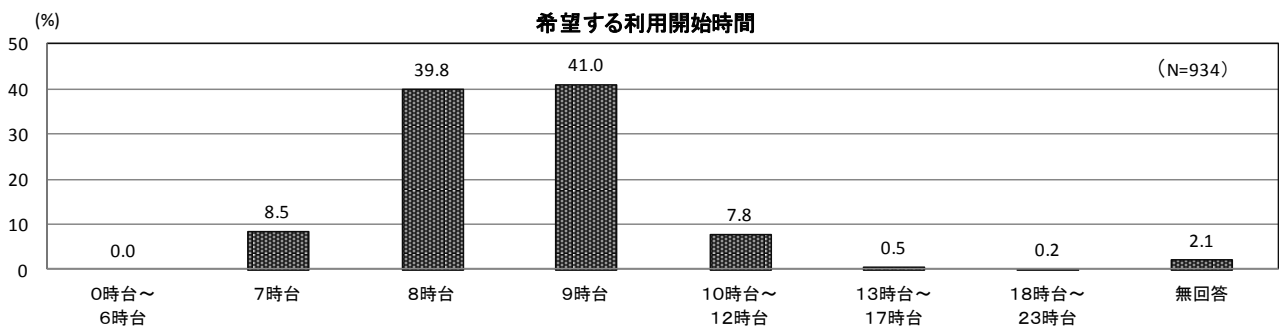
(40) 土曜日と日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望（問 21）

① 土曜日の定期的な教育・保育事業の利用希望

土曜日の利用希望は、「利用する必要はない」が 53.2%で最も高く、次いで「月に1～2回は利用したい」25.3%、「ほぼ毎週利用したい」19.1%となっている。

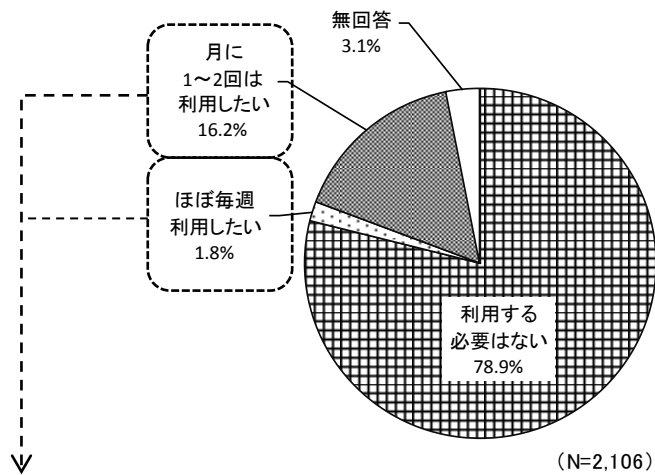


また、希望する利用開始時間は、「9時台」が 41.0%で最も高く、次いで「8時台」39.8%と、この2つに回答が集中している。希望する利用終了時間は、「17時台」が 35.2%で最も高く、次いで「18時台」22.4%となっている。

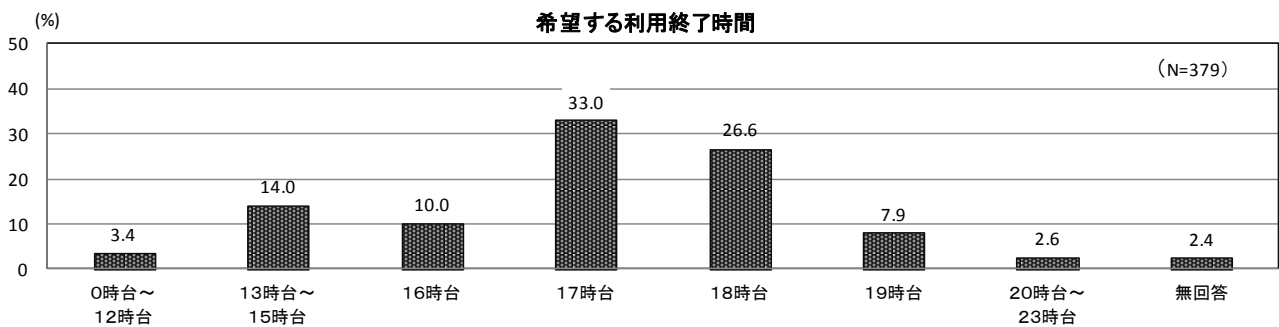
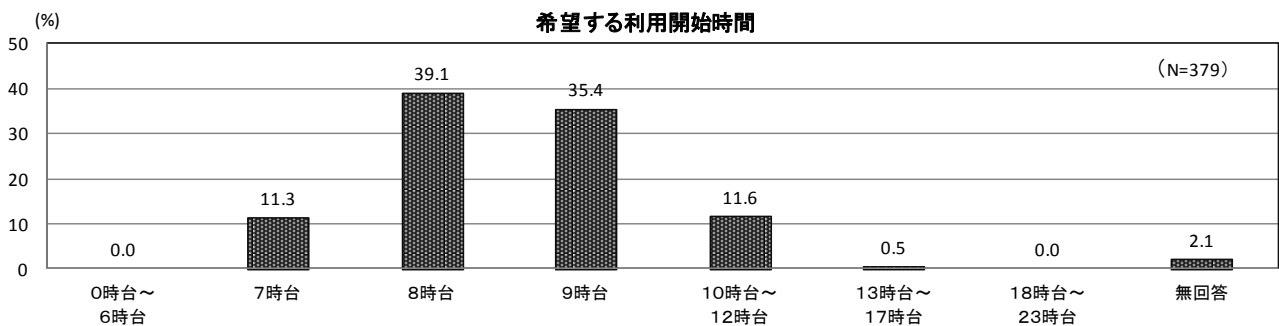


② 日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望

日曜日・祝日の利用希望は、「利用する必要はない」が78.9%で最も高く、「月に1～2回は利用したい」16.2%、「ほぼ毎週利用したい」1.8%となっている。

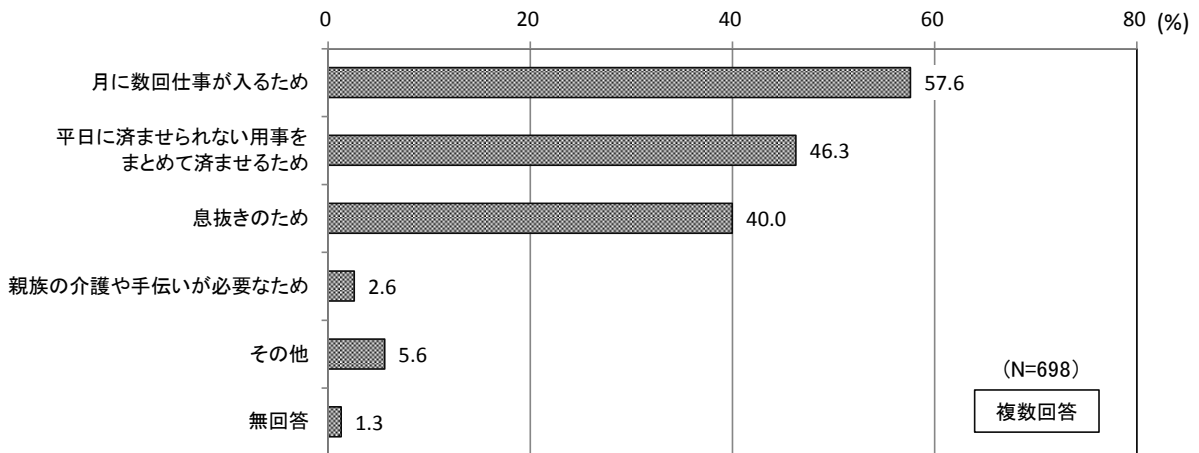


また、希望する利用開始時間は、「8時台」が39.1%で最も高く、次いで「9時台」35.4%と、土曜日と同じくこの2つに回答が集中している。希望する利用終了時間は「17時台」が33.0%で最も高く、次いで「18時台」26.6%と、こちらも土曜日と同じ傾向を示している。



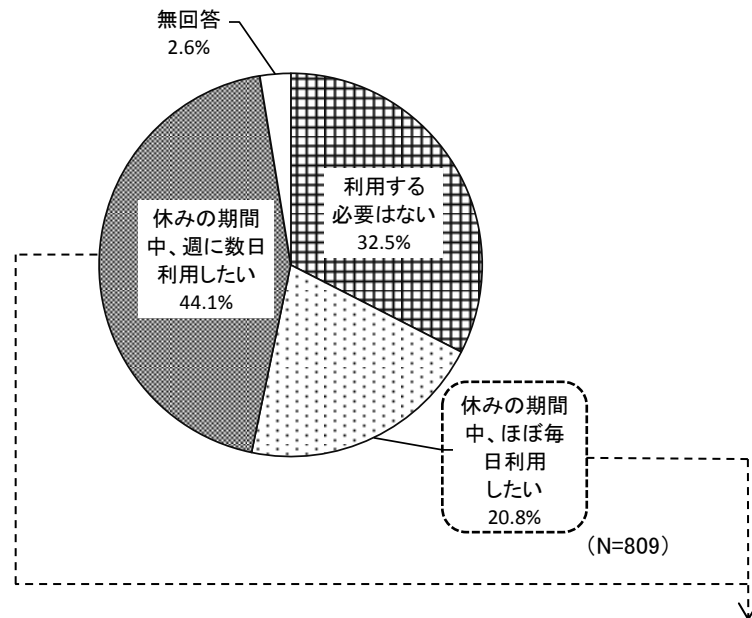
(41) 土曜日もしくは日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業をたまに利用したい理由（問 21-1）

(40) で「月に1～2回は利用したい」と回答した人に、毎週ではなく、たまに利用したい理由を尋ねたところ、「月に数回仕事が入るため」が 57.6%で最も高く、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」46.3%、「息抜きのため」40.0%となっている。

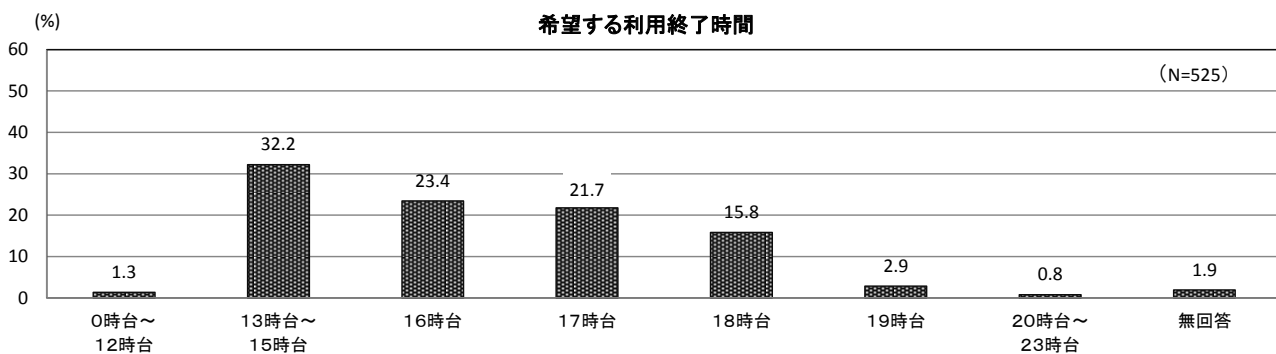
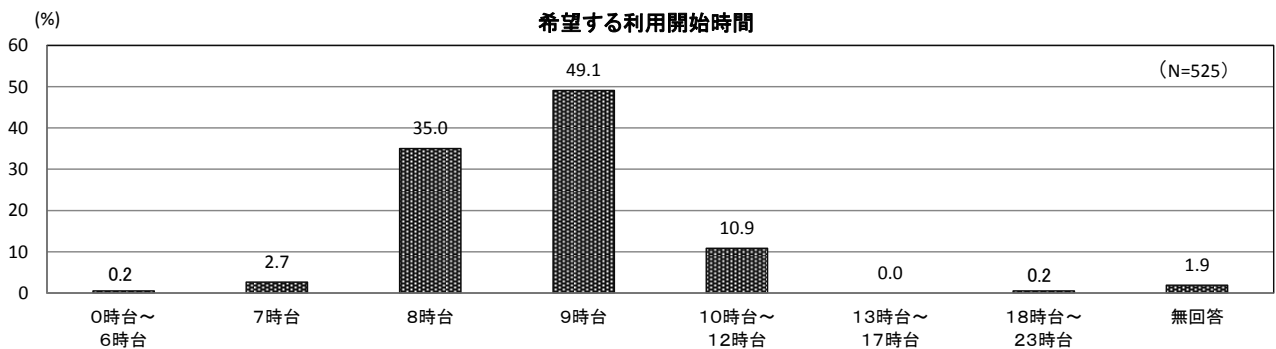


(42) 幼稚園を利用している場合の長期休暇期間中の教育・保育事業の利用希望（問 22）

幼稚園を利用している人の長期休暇期間中の教育・保育事業の利用希望は、「休みの期間中、週に数日利用したい」は44.1%、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」は20.8%となっている。一方、「利用する必要はない」は32.5%であった。

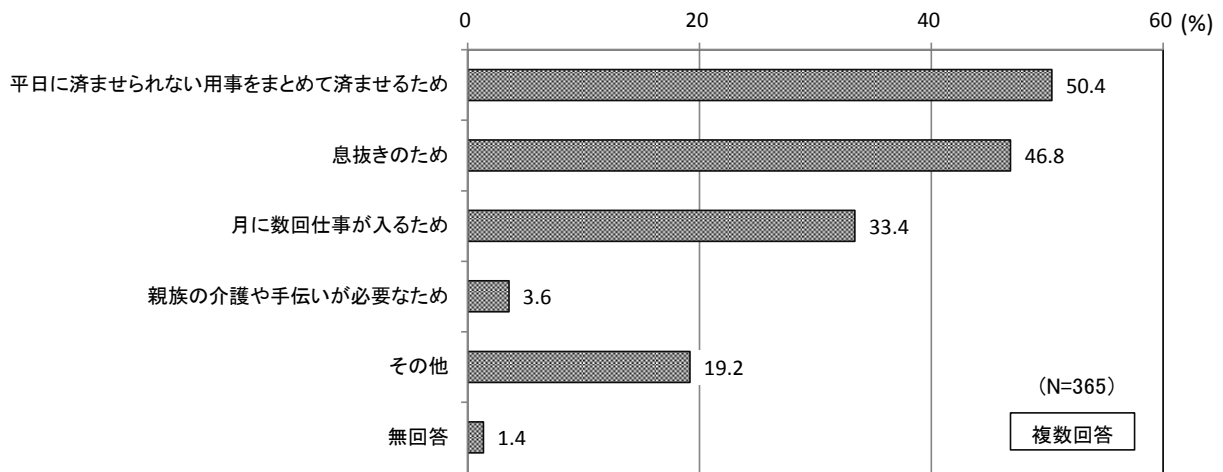


また、希望する利用開始時間は、「9時台」が49.1%で最も高く、「8時台」も35.0%みられ、この2つに回答が集中している。希望する利用終了時間は「13時台～15時台」が32.2%で最も高く、次いで「16時台」23.4%、「17時台」21.7%となっている。



(43) 長期休暇期間中に教育・保育事業をたまに利用したい理由（問 22-1）

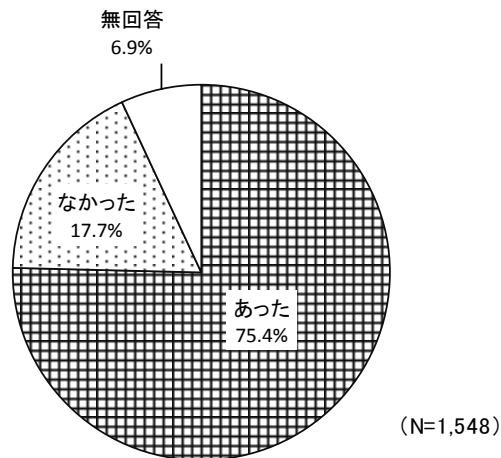
(42) で「週に数日利用したい」と回答した人に、毎日ではなく、たまに利用したい理由を尋ねたところ、「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」が 50.4%で最も高く、次いで「息抜きのため」46.8%、「月に数回仕事が入るため」33.4%となっている。



7. 子どもが病気の際の対応（平日の教育・保育を利用する人のみ）

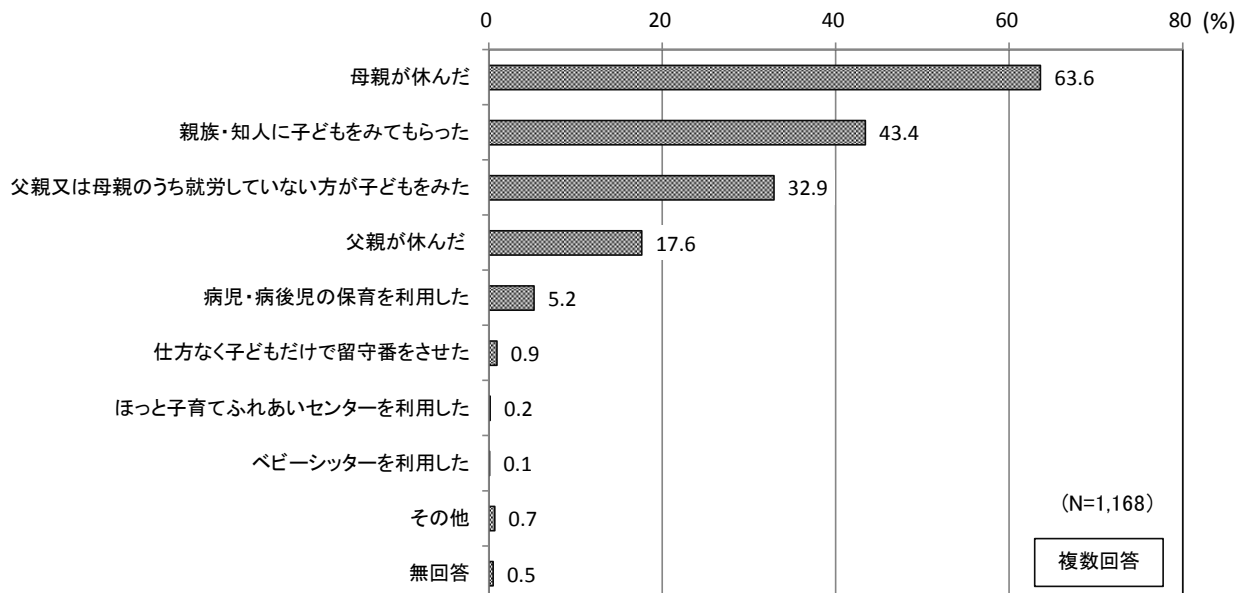
（44）子どもが病気やケガの際の平日の定期的な教育・保育事業の利用（問 23）

（27）で平日の定期的な教育・保育事業を「利用している」と回答した人に、この1年間に子どもが病気やケガで利用出来なかったことがあるか尋ねたところ、「あった」が75.4%にのぼった。



（45）子どもの病気やケガで平日の定期的な教育・保育事業の利用できなかった場合の対処方法（問 23-1）

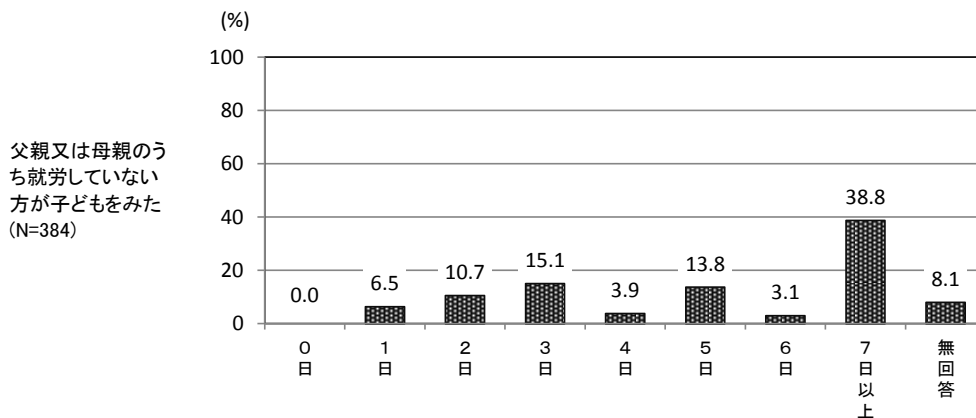
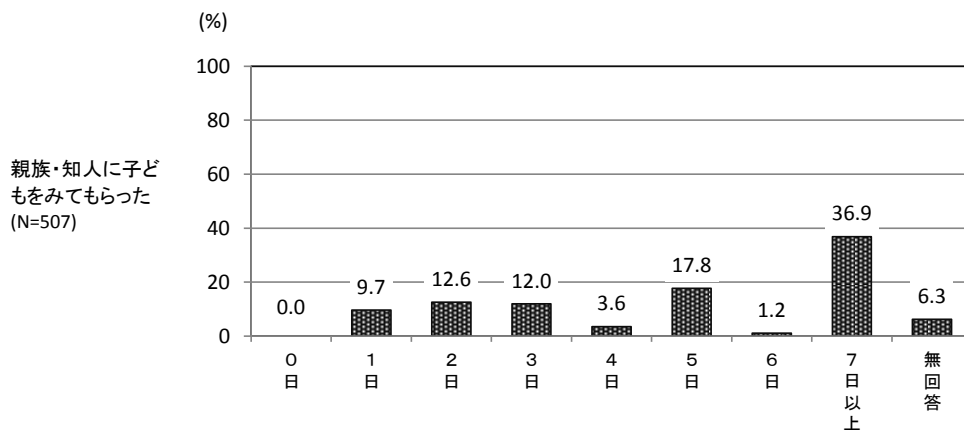
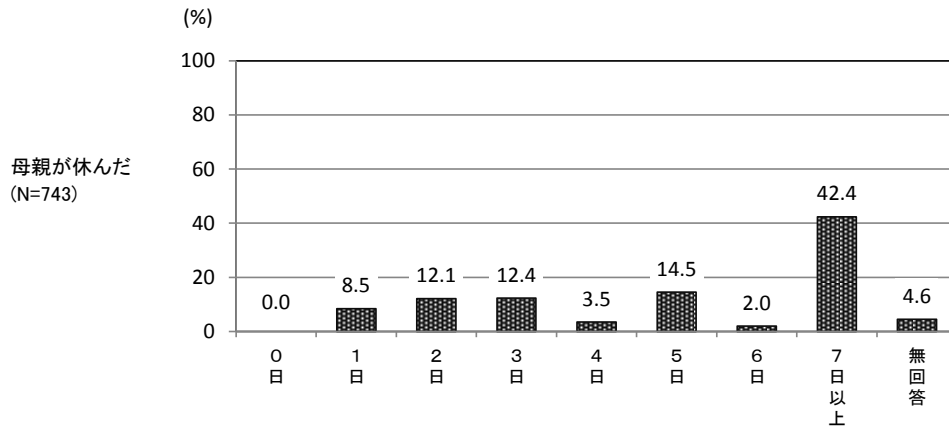
子どもの病気やケガで教育・保育事業が利用できなかった場合の対処方法は、「母親が休んだ」が63.6%で最も高く、次いで「親族・知人に子どもをみてもらった」43.4%、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた」32.9%となっている。



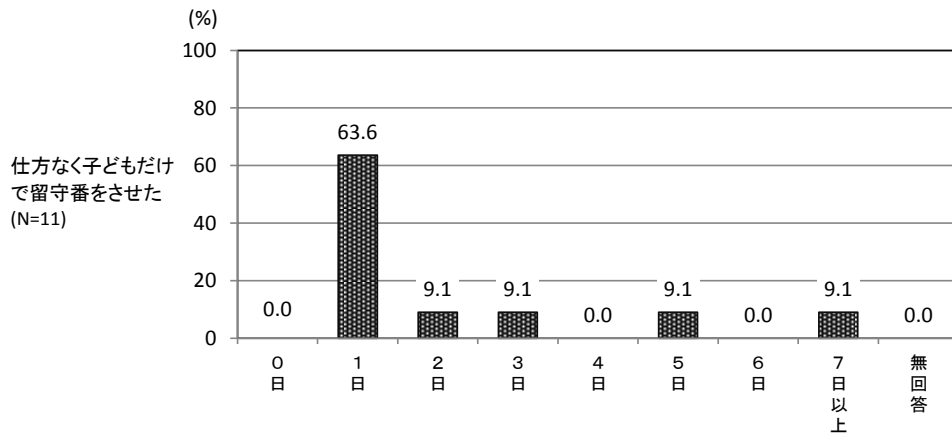
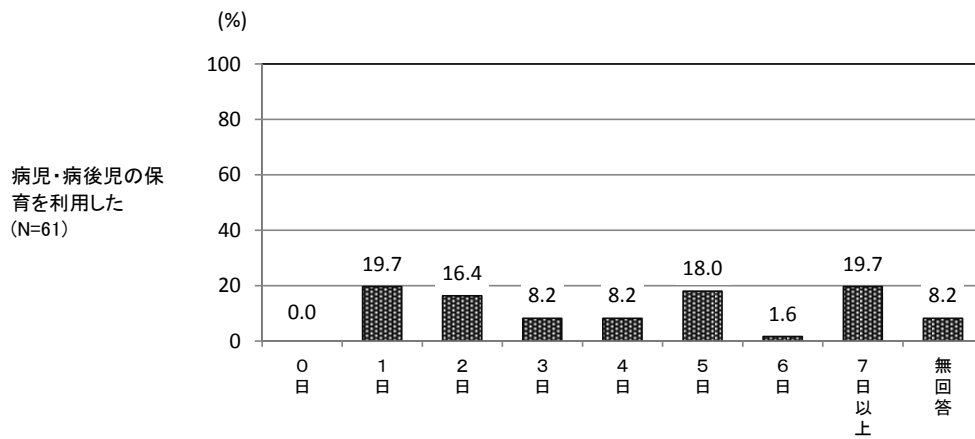
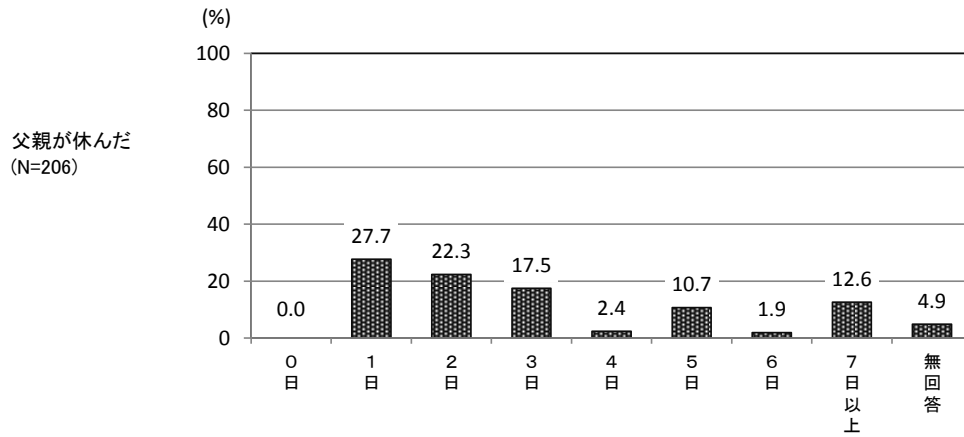
「母親が休んだ」日については、「7日以上」が42.4%で最も高く、次いで「5日」14.5%、「3日」12.4%となっている。

「親族・知人に子どもをみてもらった」日については、「7日以上」36.9%、「5日」17.8%、「2日」12.6%となっている。

また、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた」日については、「7日以上」38.8%、「3日」15.1%、「5日」13.8%となっている。



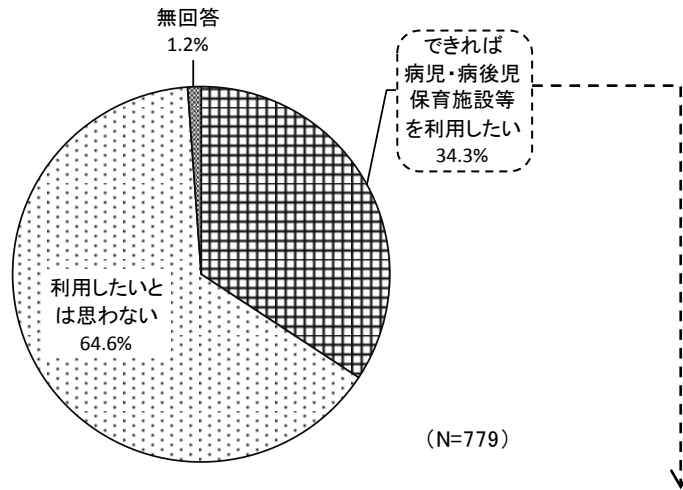
【就学前児童の保護者（調査票A）】



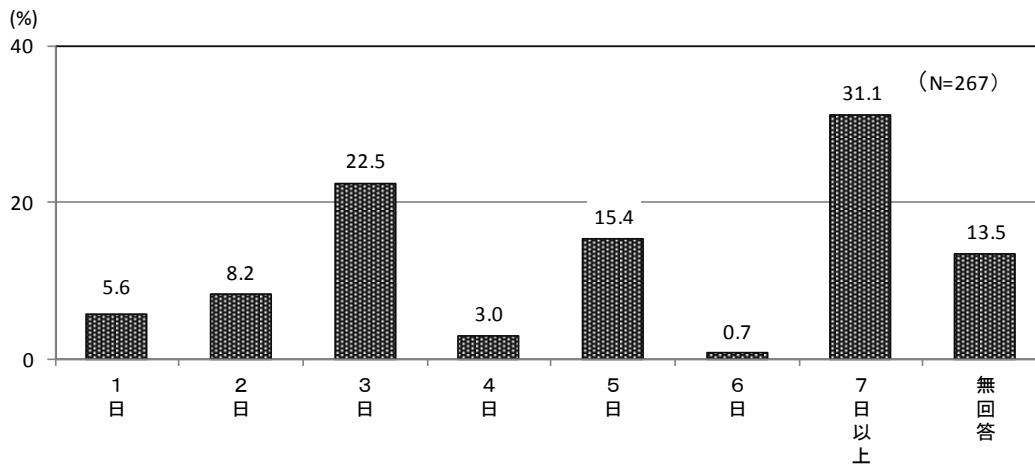
[注] 「ほっと子育てふれあいセンターを利用した」「ベビーシッターを利用した」「その他」については、回答数が9件以下のため、図表は表記していない。

(46) 病児・病後児のための保育施設等の利用希望（問 23-2）

(45) で「父親が休んだ」もしくは「母親が休んだ」と回答した人に、病児・病後児のための保育施設等を利用したいと思うか尋ねたところ、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」は 34.3%にとどまり、「利用したいとは思わない」が 64.6%にのぼっている。

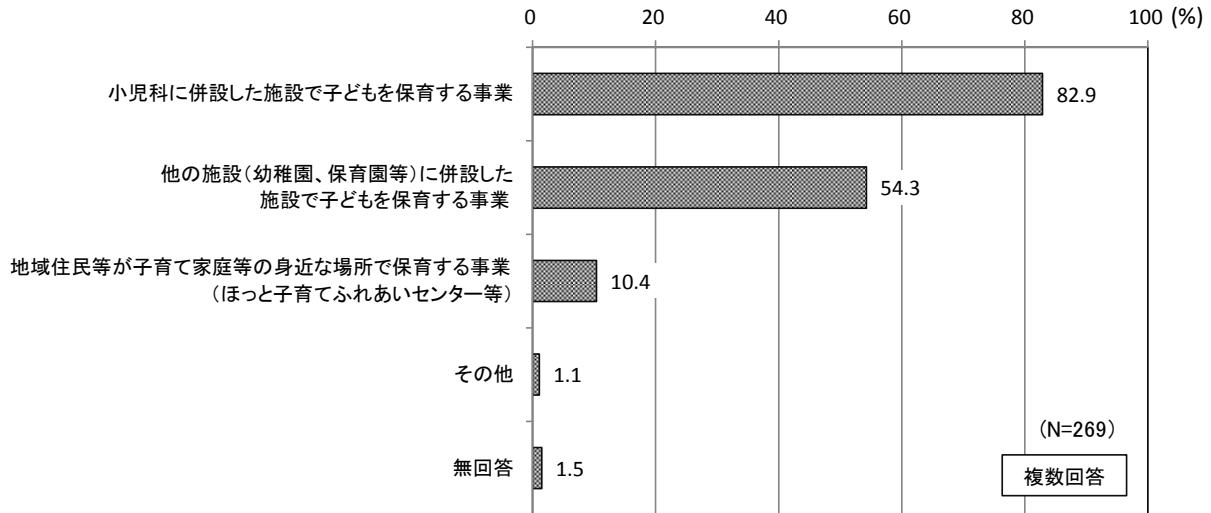


また、利用したい日数は、「7日以上」が 31.1%で最も高く、次いで「3日」22.5%、「5日」15.4%となっている。



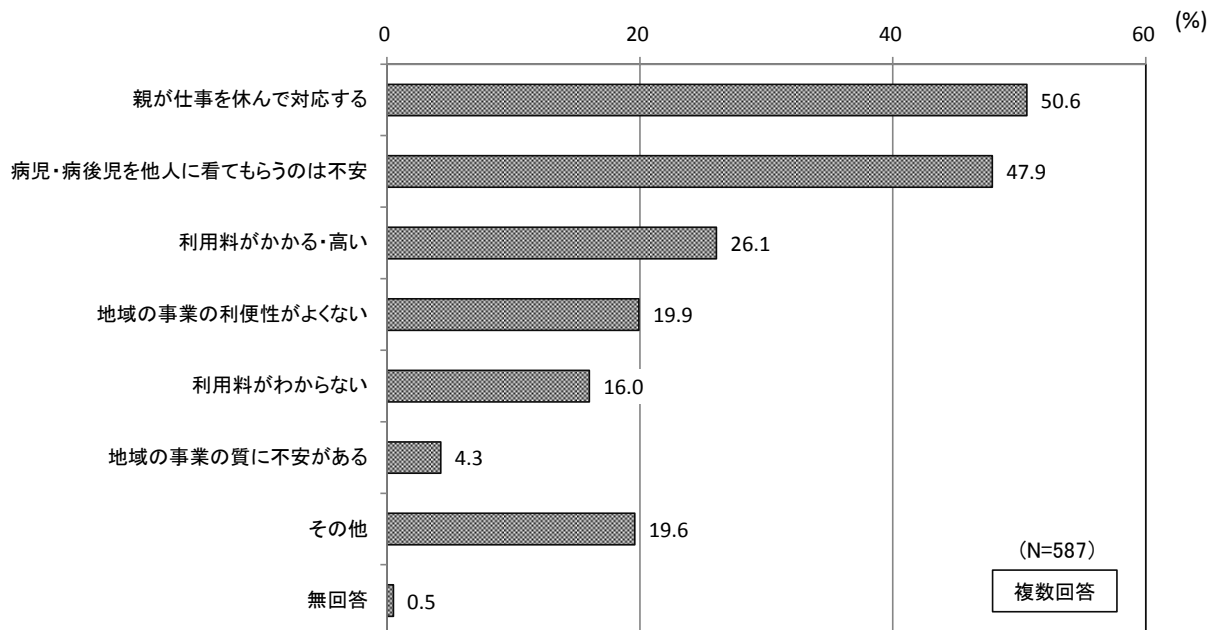
(47) 病児・病後児のための保育施設等を利用する場合、希望する事業形態（問 23-3）

病児・病後児保育で希望する事業形態は、「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」が 82.9%で最も高く、次いで「他の施設（幼稚園、保育所等）に併設した施設で子どもを保育する事業」54.3%、「地域住民等が子育て家庭等の身近な場所で保育する事業（ほっと子育てふれあいセンター等）」10.4%となっている。



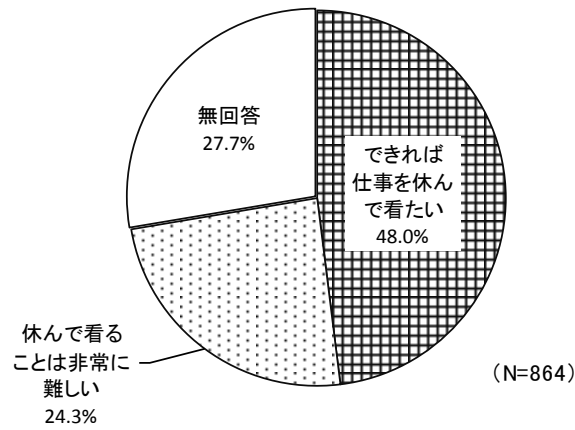
(48) 病児・病後児のための保育施設等を利用したいと思わない理由（問 23-4）

(46) で「利用したいとは思わない」と回答した人にその理由を尋ねたところ、「親が仕事を休んで対応する」が 50.6%で最も高く、次いで「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」47.9%、「利用料がかかる・高い」26.1%となっている。

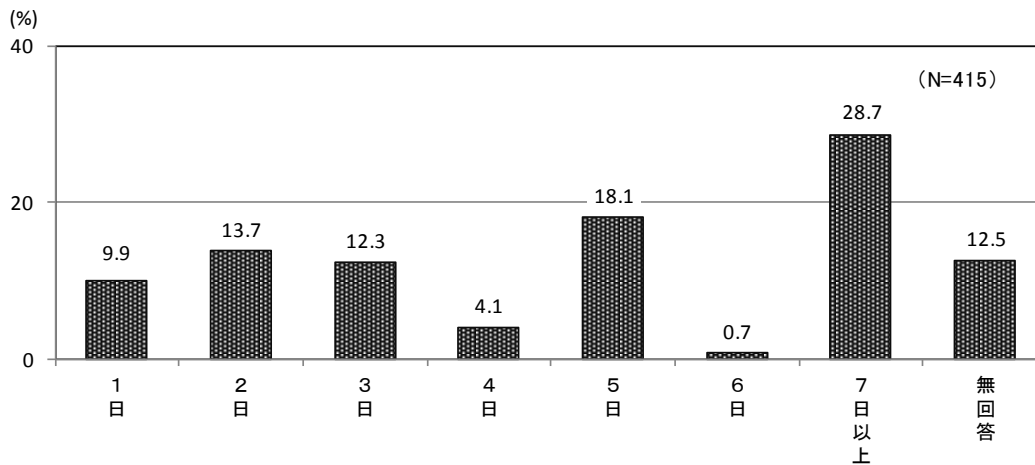


(49) 子どもの看病のために父親または母親が仕事を休むことの希望（問 23-5）

(45) で、「父親が休んだ」または「母親が休んだ」以外を回答した人に、できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たいと思ったか尋ねたところ、「できれば仕事を休んで看たい」は 48.0%、「休んで看することは非常に難しい」は 24.3%であった。

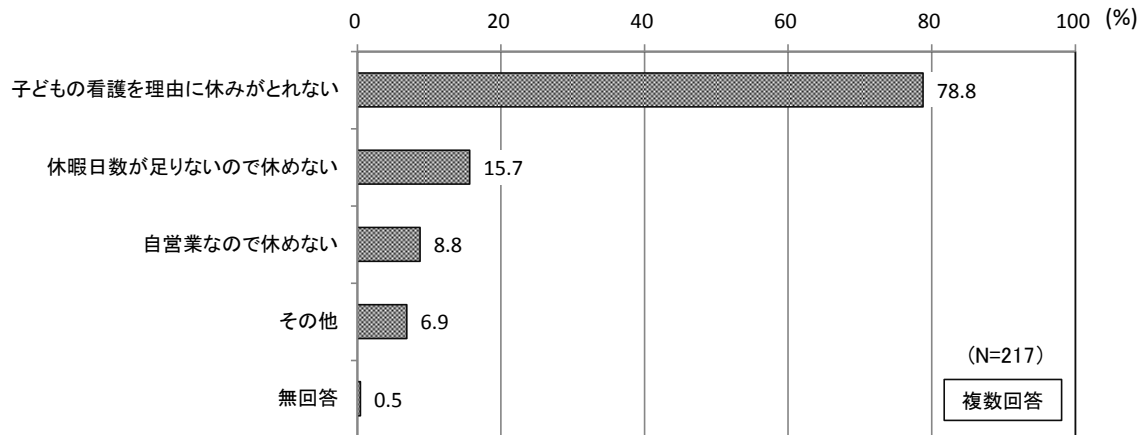


また、仕事を休んで見たかった日数は、「7日以上」が 28.7%で最も高く、次いで「5日」18.1%、「2日」13.7%となっている。



(50) 子どもの看病のために父親または母親が仕事を休めない理由（問 23-6）

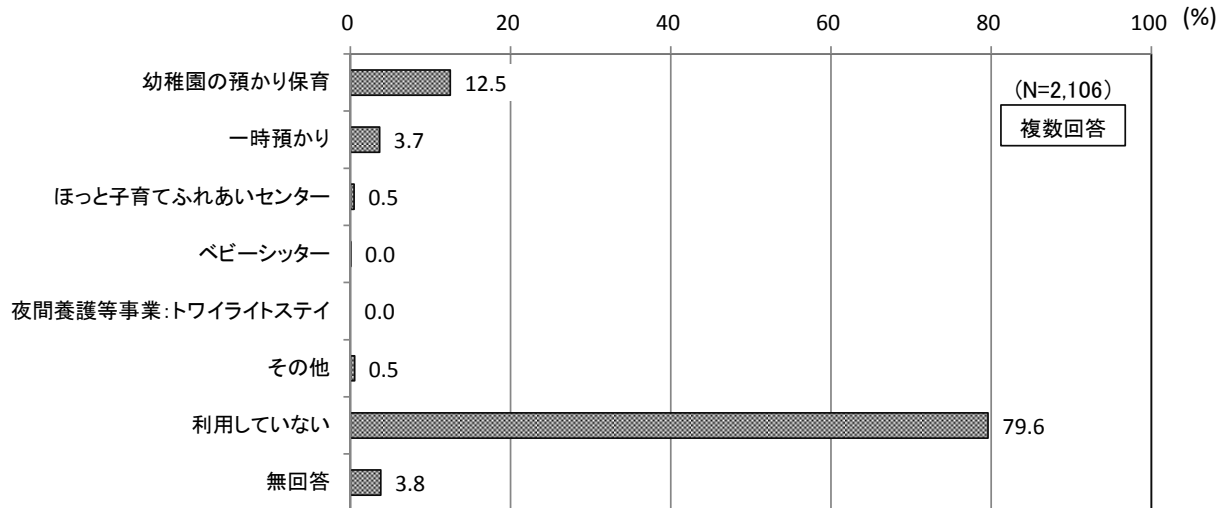
(49) で「休んで見ることは非常に難しい」と回答した人にその理由を尋ねたところ、「子どもの看護を理由に休みがとれない」が 78.8%で最も高く、次いで「休暇日数が足りないので休めない」15.7%、「自営業なので休めない」8.8%となっている。



8. 不定期的な教育・保育事業の利用や宿泊を伴う一時預かり等の利用

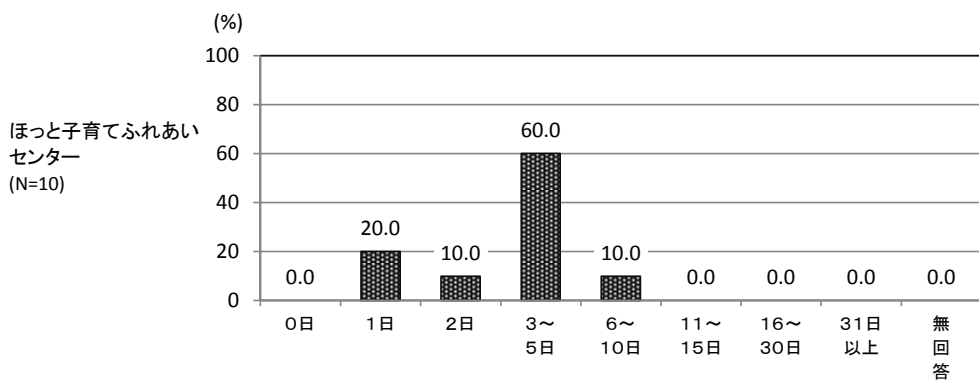
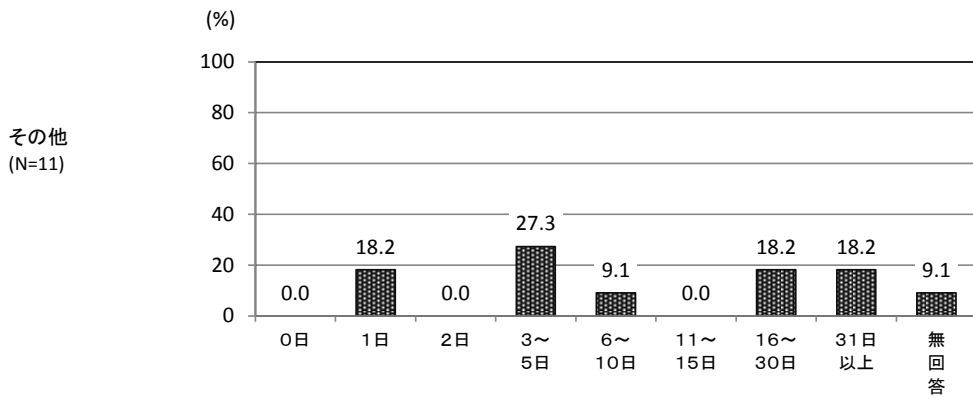
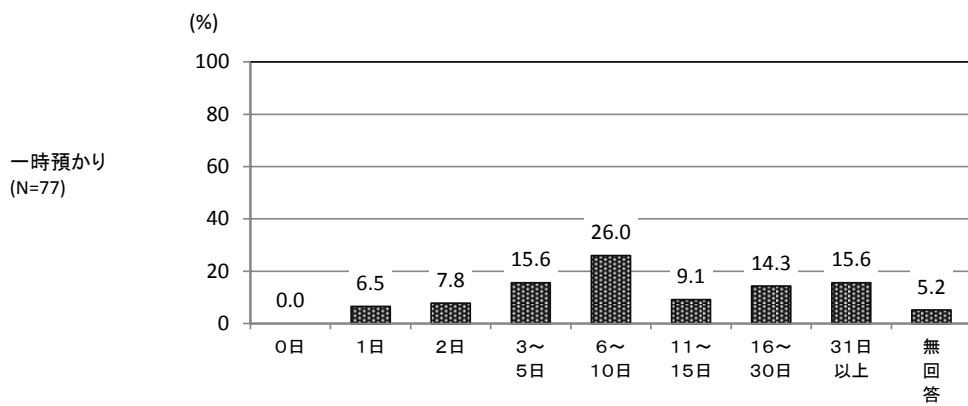
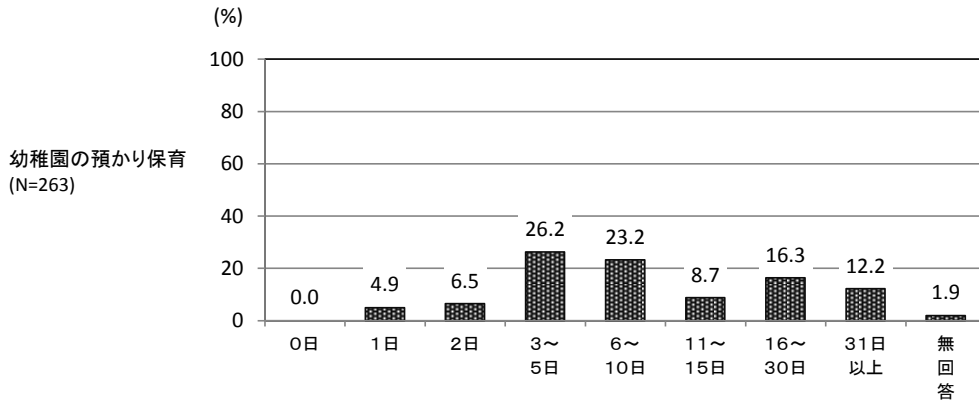
(51) 不定期的な教育・保育等の利用状況（問 24）

不定期的な教育・保育事業等の利用状況は、「利用していない」が 79.6%で最も高く、次いで「幼稚園の預かり保育」12.5%、「一時預かり」3.7%、「ほっと子育てふれあいセンター」0.5%となっている。



【就学前児童の保護者（調査票A）】

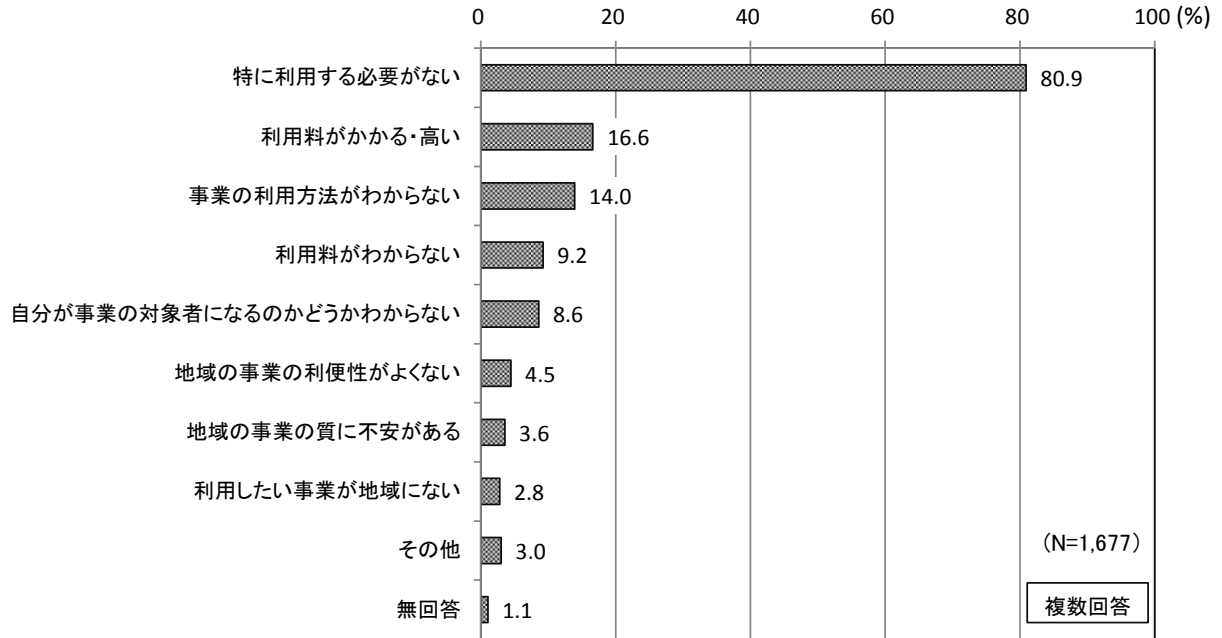
また、1年間の利用日数については、「幼稚園の預かり保育」では、「3～5日」が26.2%で最も高く、次いで「6～10日」23.2%、「16～30日」16.3%となっている。一方、「一時預かり」では、「6～10日」が26.0%で最も高く、次いで「3～5日」と「31日以上」が同率の15.6%となっている。



[注] 「ベビーシッター」については、回答数が9件以下のため、図表は表記していない。

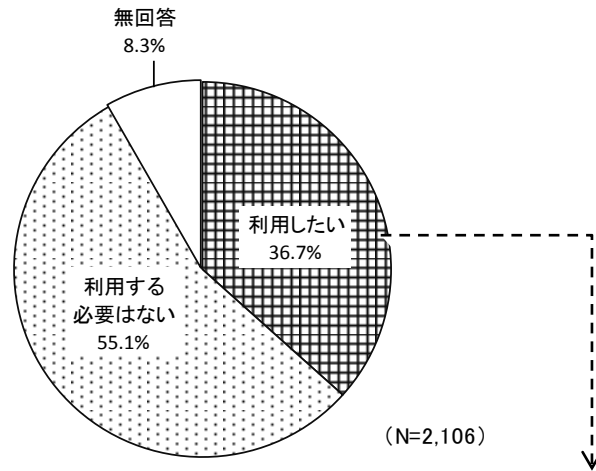
(52) 不定期の教育・保育事業等を利用していない理由（問 24-1）

(51) で「利用していない」と回答した人にその理由を尋ねたところ、「特に利用する必要がない」が 80.9%で最も高く、次いで「利用料がかかる・高い」16.6%、「事業の利用方法がわからない」14.0%となっている。

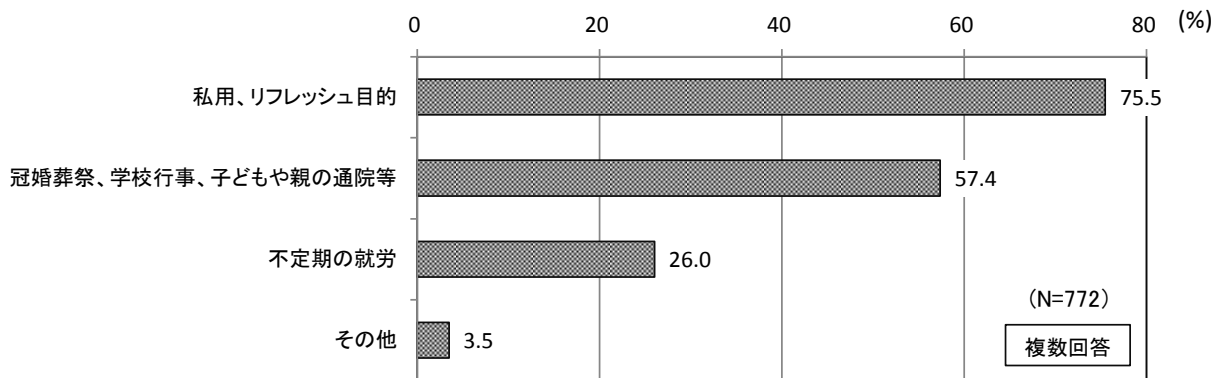


(53) 不定期の教育・保育等の事業の利用希望（問 25）

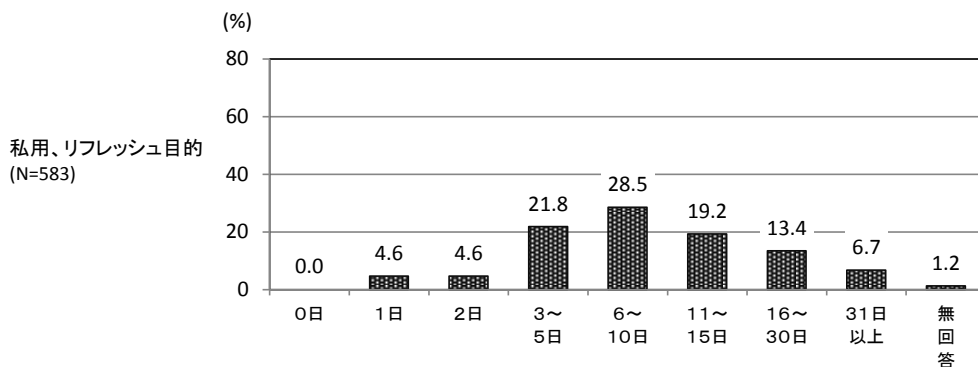
利用希望を尋ねたところ、「利用したい」は 36.7%で、「利用する必要はない」は 55.1%であった。

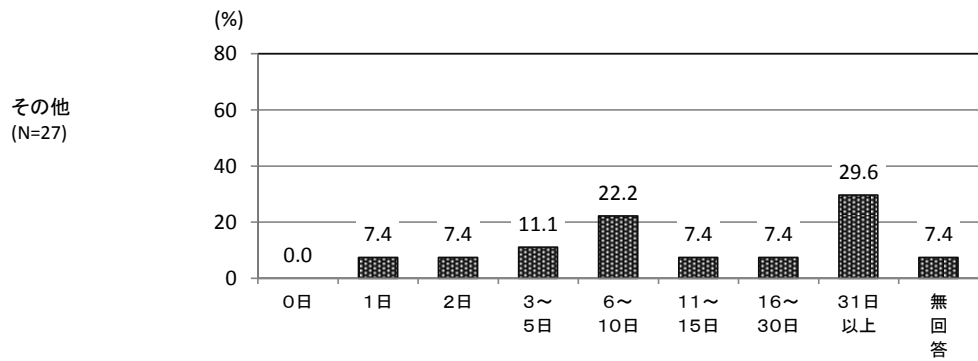
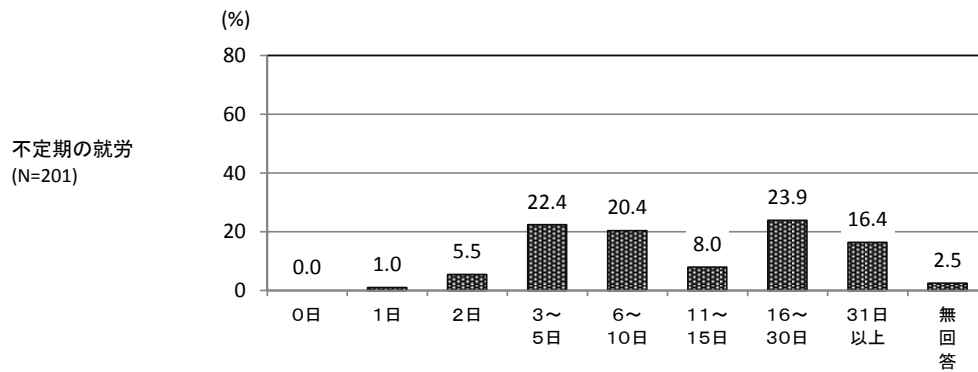
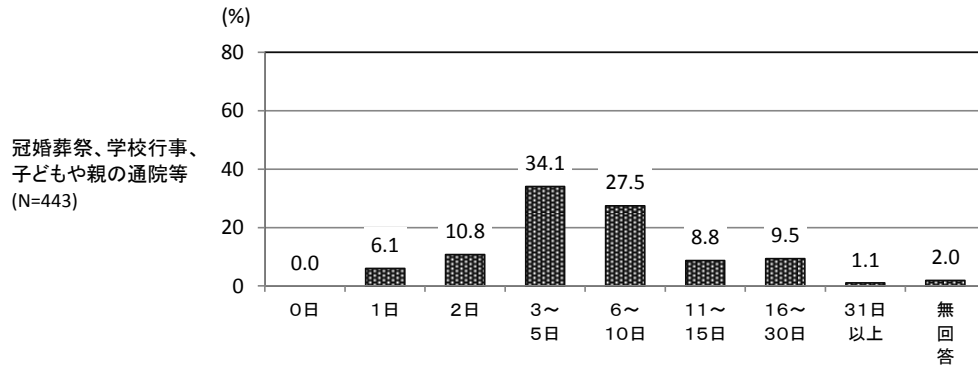


また、「利用したい」と回答した人の利用目的は、「私用、リフレッシュ目的」が 75.5%で最も高く、次いで「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等」が 57.4%、「不定期の就労」が 26.0%であった。



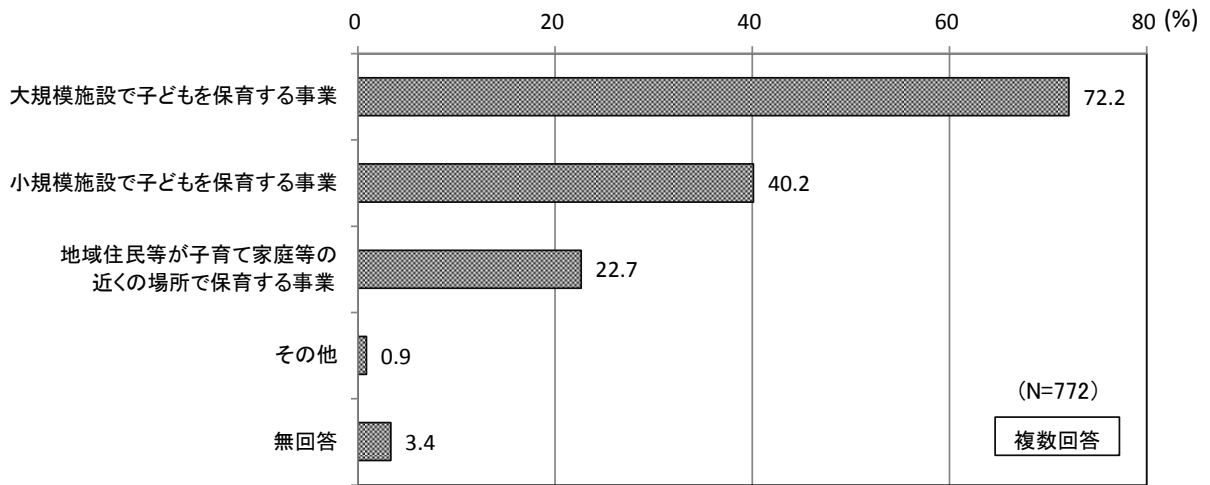
利用希望の日数については、『私用、リフレッシュ目的』では「6～10日」が 28.5%で最も高く、『冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等』では「3～5日」が 34.1%で最も高い。一方、『不定期の就労』では「16～30日」が 23.9%で最も高く、他の目的に比べて利用希望の日数が多くなっている。





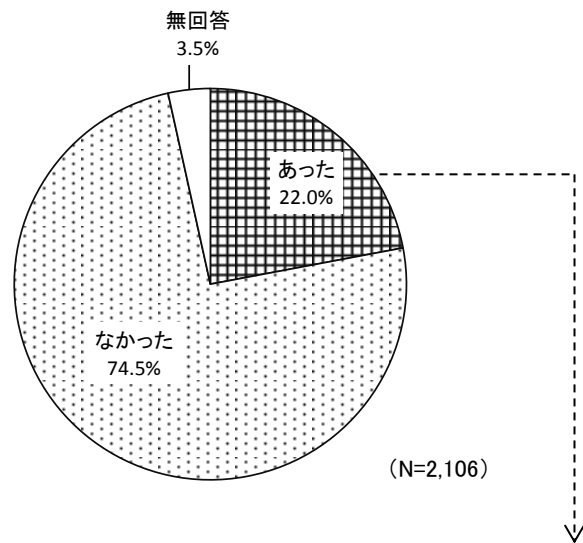
(54) 不定期の教育・保育事業等を利用する場合の希望する事業形態（問 25-1）

(53) で「利用したい」と回答した人に希望する事業形態を尋ねると、「大規模施設で子どもを保育する事業」が 72.2%で最も高く、次いで「小規模施設で子どもを保育する事業」40.2%、「地域住民等が子育て家庭等の近くの場所で保育する事業」22.7%となっている。

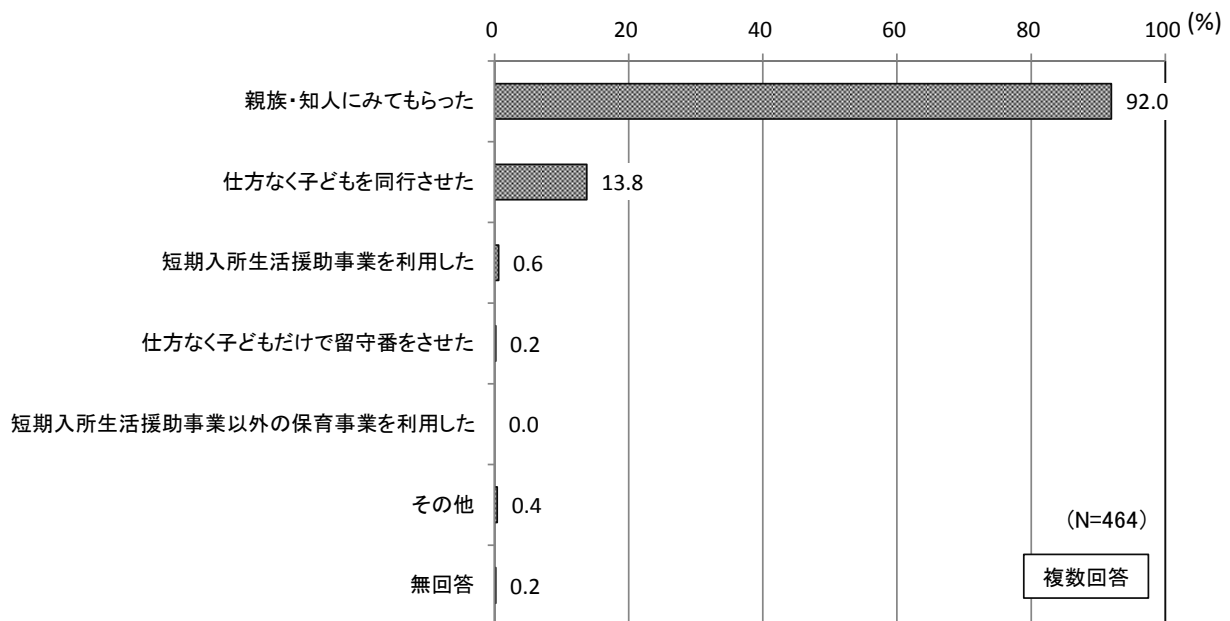


(55) 子どもを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならなかった日の有無と日数（問 26）

子どもを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならなかった日が「あった」22.0%、「なかった」74.5%であった。



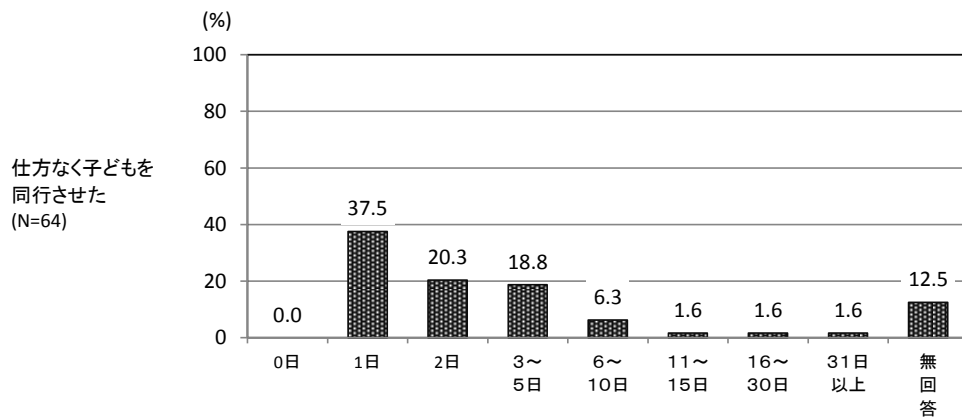
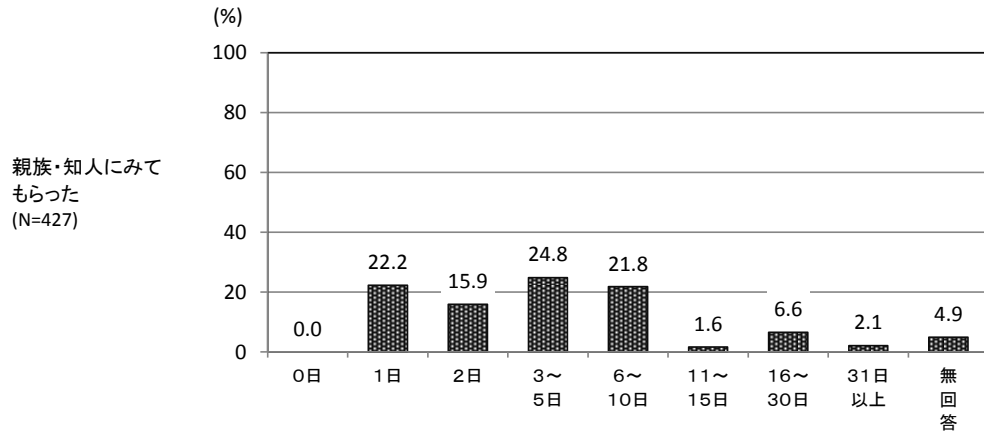
「あった」と回答した人に対処方法を尋ねたところ、「親族・知人にみてもらった」が92.0%で最も高く、次いで「仕方なく子どもを同行させた」が13.8%であった。



※ 選択肢(ウ)「短期入所生活援助事業（ショートステイ）以外の保育事業（認可外保育所、ベビーシッター等）」を利用したとする回答は無かった。

【就学前児童の保護者（調査票A）】

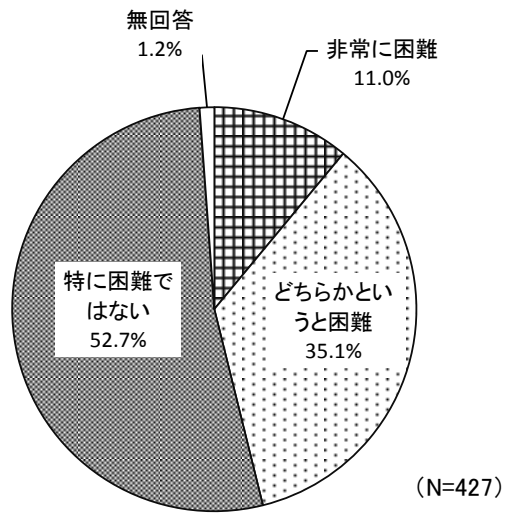
また、子どもを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならなかった日数については、『親族・知人にみてもらった』では「3～5日」が24.8%で最も多く、『仕方なく子どもを同行させた』では、「1日」が37.5%で最も多かった。



[注] 「短期入所生活援助事業を利用した」「仕方なく子どもだけで留守番をさせた」「その他」については、回答数が9件以下のため、図表は表記していない。

(56) 子どもを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならなかった場合の困難度（問 26-1）

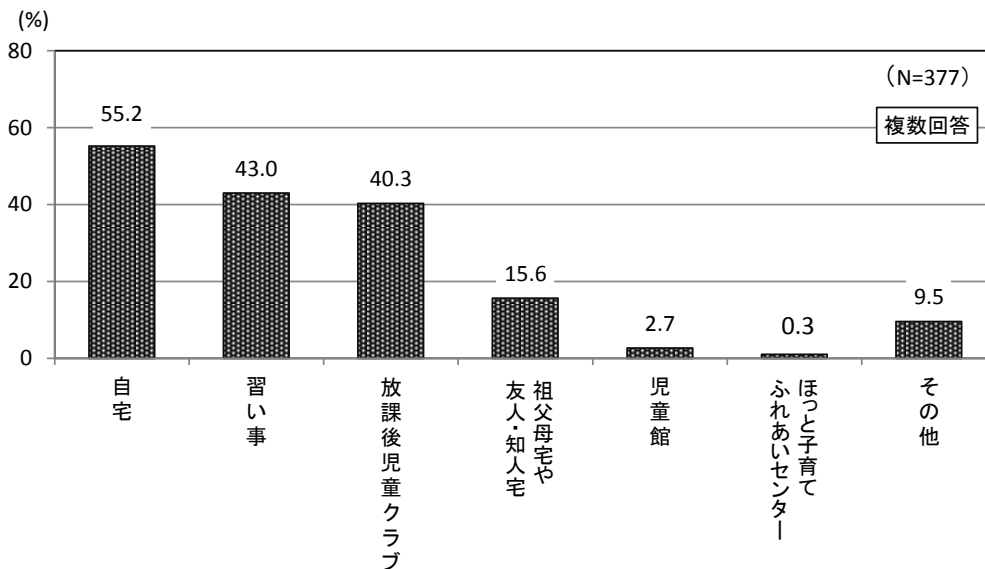
(55) で「親族・知人にみてもらった」と回答した人にその困難度を尋ねると、「特に困難ではない」が 52.7%で最も高く、「どちらかという困難」は 35.1%、「非常に困難」は 11.0%であった。



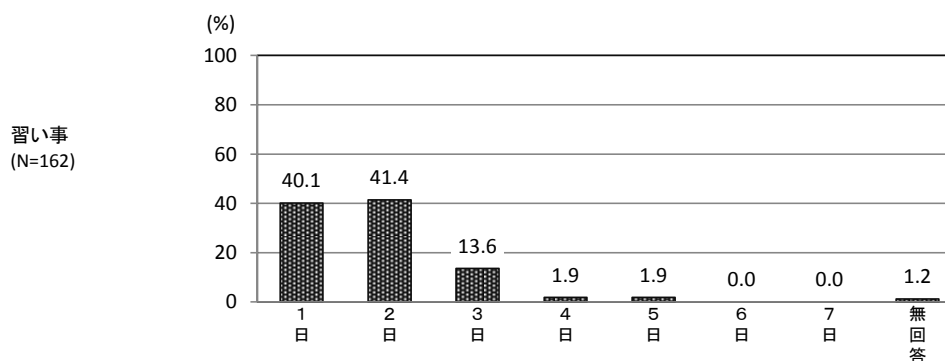
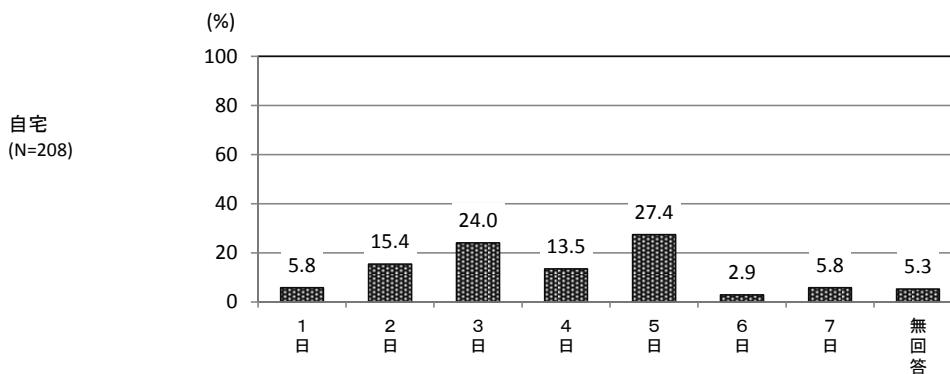
9. 小学校就学後の放課後の過ごし方

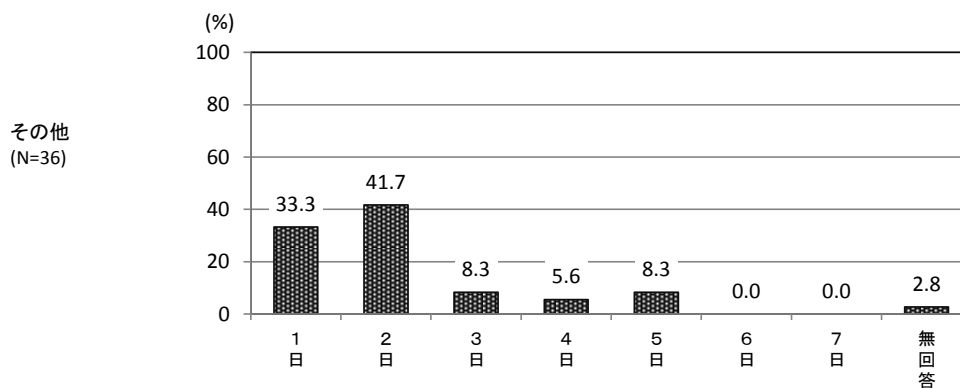
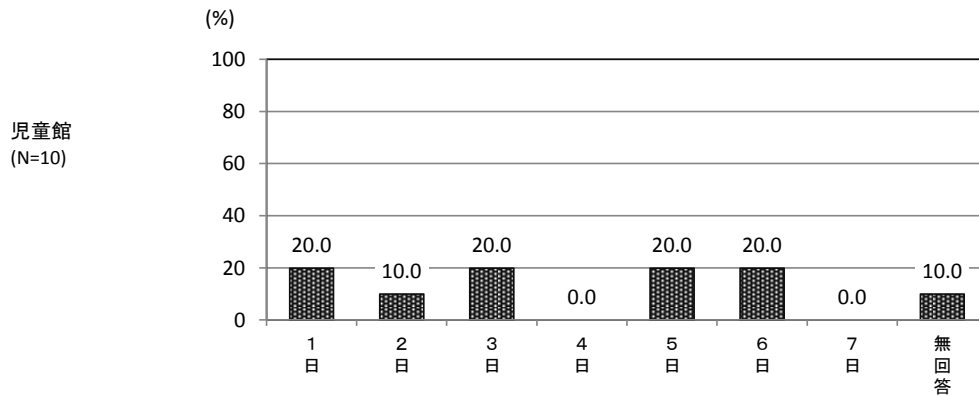
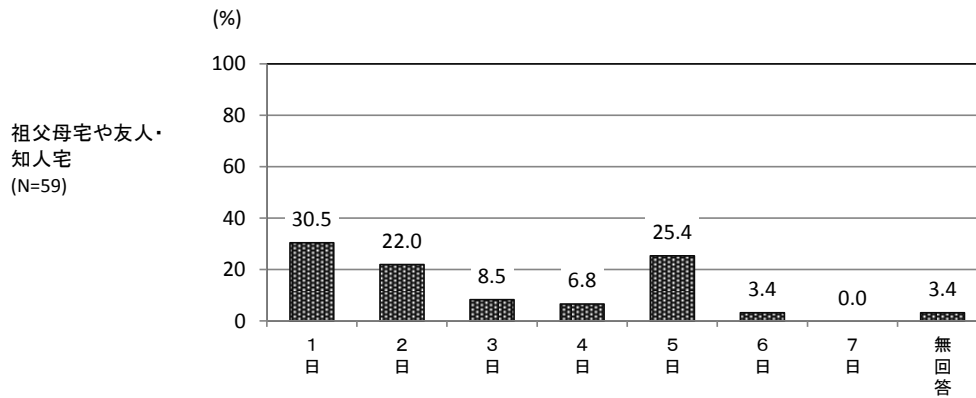
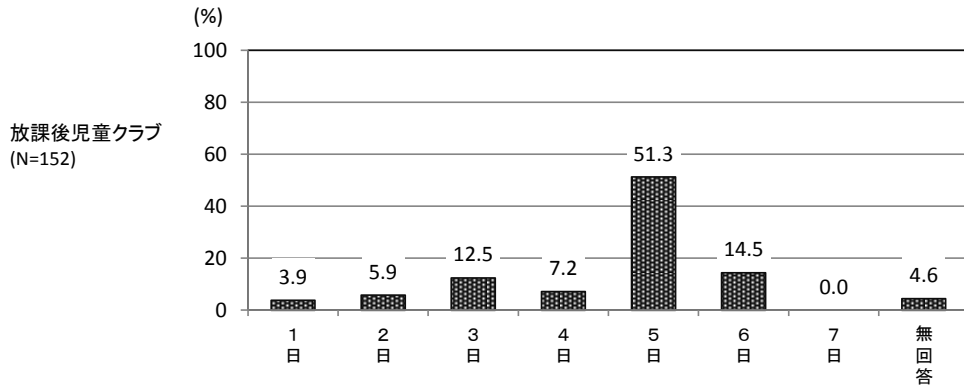
(57) 子どもが小学校低学年（1～3年生）になった時に、放課後の時間を過ごさせたい場所（問27）

子どもが5歳以上の保護者に、子どもが小学校低学年になった時に、放課後の時間を過ごさせたい場所を尋ねたところ、「自宅」が55.2%で最も高く、次いで「習い事」43.0%、「放課後児童クラブ」40.3%となっている。



また、希望する1週当たりの日数については、『自宅』では「5日」27.4%、「3日」24.0%、「2日」15.4%となっている。一方、『習い事』では「2日」41.4%、「1日」40.1%、「3日」13.6%、『放課後児童クラブ』では「5日」51.3%、「6日」14.5%、「3日」12.5%となっている。

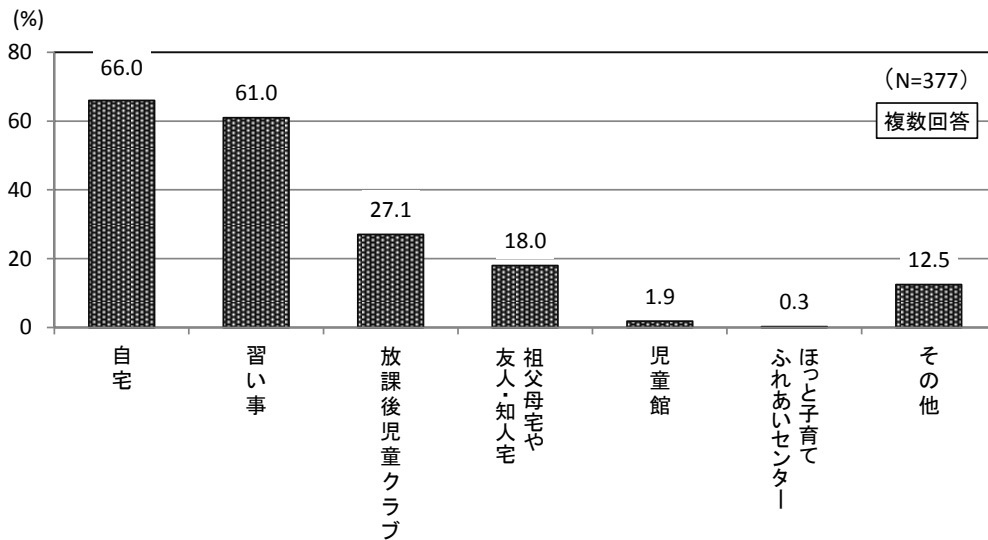




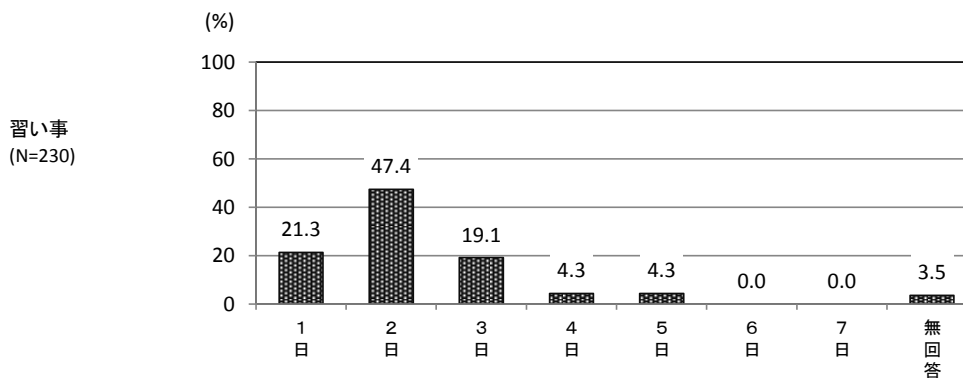
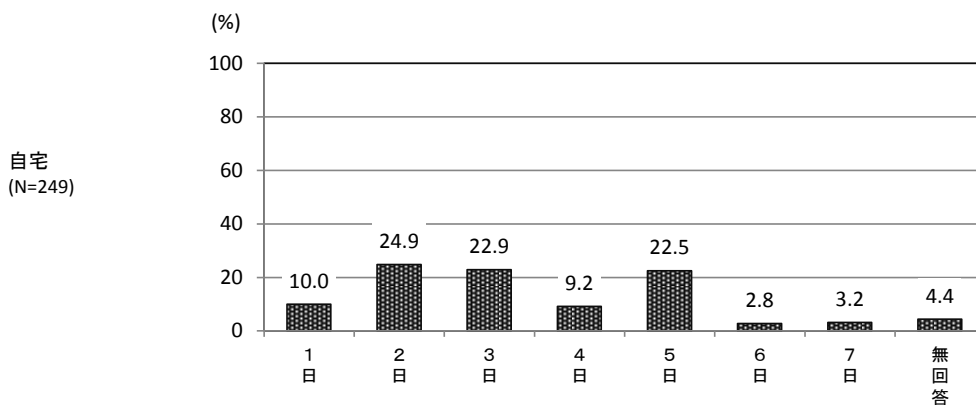
[注] 「ほっと子育てふれあいセンター」については、回答数が9件以下のため、図表は表記していない。

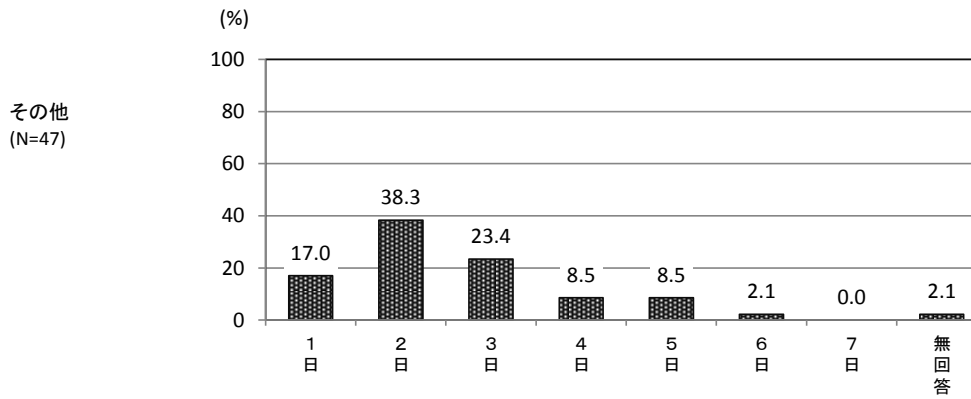
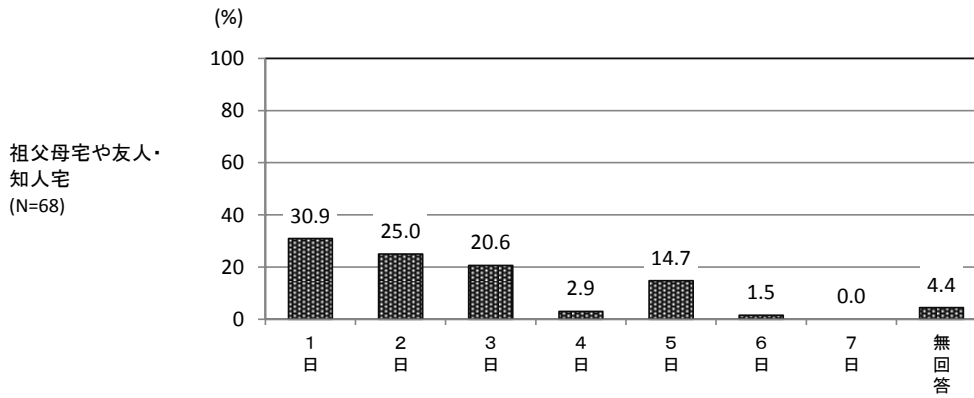
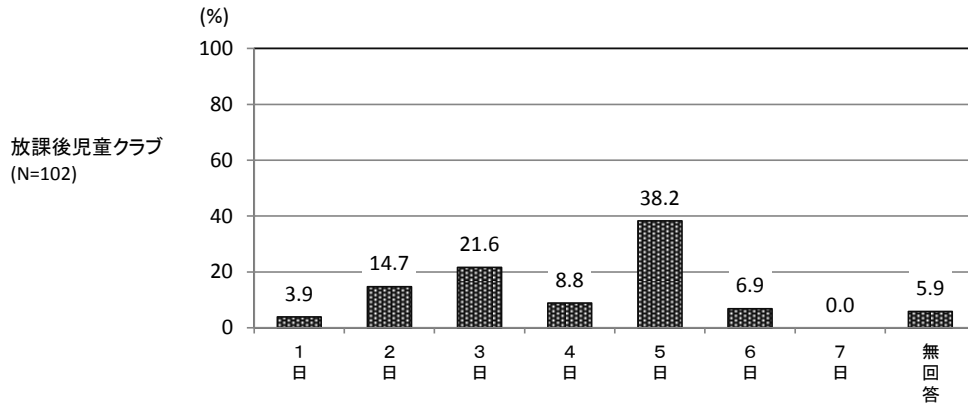
(58) 子どもが小学校高学年（4～6年生）になった時に、放課後の時間を過ごさせたい場所
(問 28)

子どもが5歳以上の保護者に、子どもが小学校高学年になった時に、放課後の時間を過ごさせたい場所を尋ねたところ、小学校低学年と同様に「自宅」が66.0%で最も高く、「習い事」61.0%、「放課後児童クラブ」27.1%となっている。



また、希望する1週当たりの日数では、『自宅』では「2日」24.9%、「3日」22.9%、「5日」22.5%、『習い事』では「2日」47.4%、「1日」21.3%、「3日」19.1%、『放課後児童クラブ』では「5日」38.2%、「3日」21.6%、「2日」14.7%の順となっている。



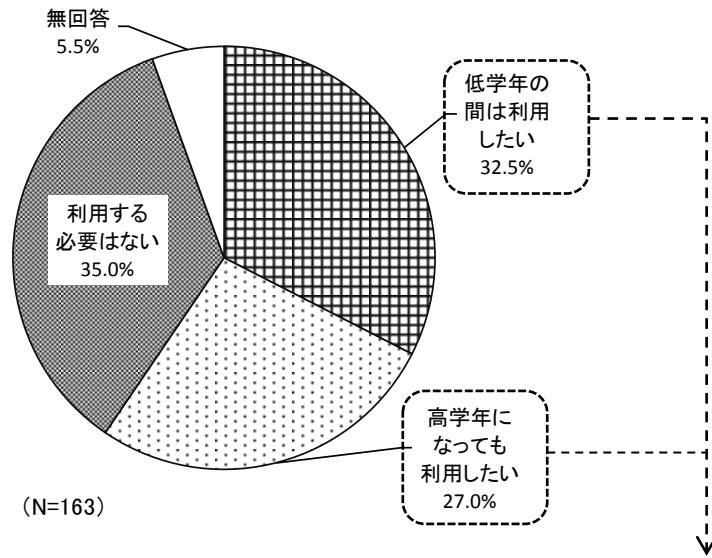


[注] 「児童館」「ほっと子育てふれあいセンター」については、回答数が9件以下のため、図表は表記していない。

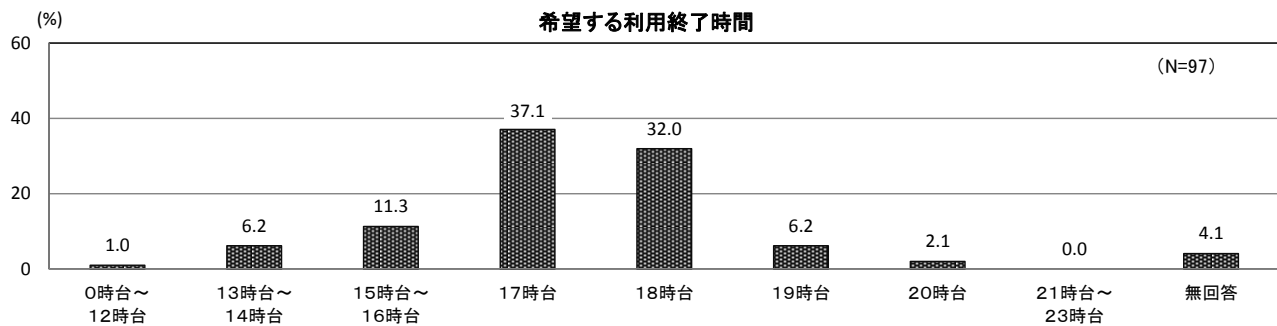
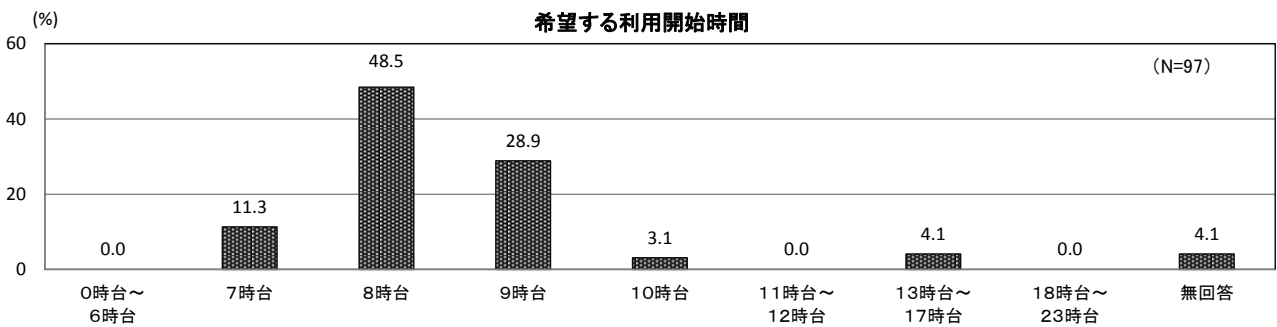
(59) 土曜日と日曜日・祝日の放課後児童クラブの利用希望（問 29）

① 土曜日

(57) または (58) で「放課後児童クラブ」と回答した人に、土曜日の利用希望を尋ねたところ、「利用する必要はない」35.0%が最も高く、次いで「低学年の間は利用したい」32.5%、「高学年になっても利用したい」27.0%であった。

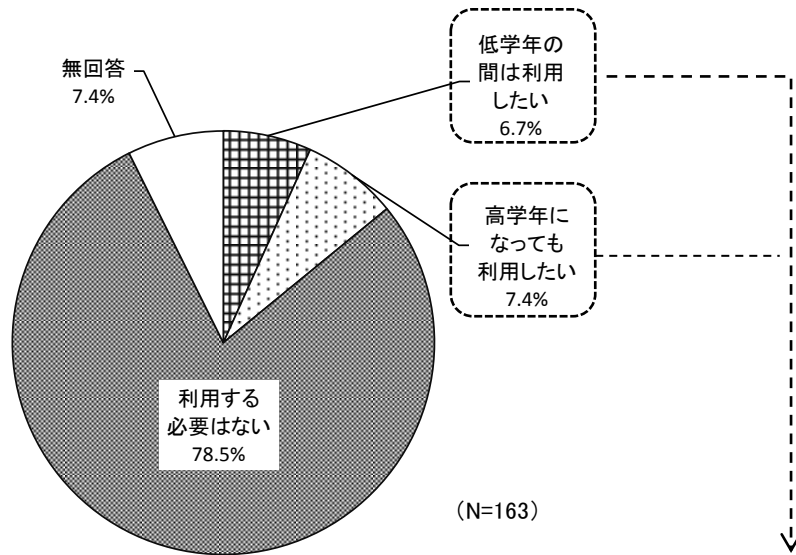


また、希望する利用開始時刻では、「8時台」が48.5%で最も多く、次いで「9時台」28.9%となっている。希望する利用終了時刻では、「17時台」が37.1%で最も多く、次いで「18時台」32.0%となっている。

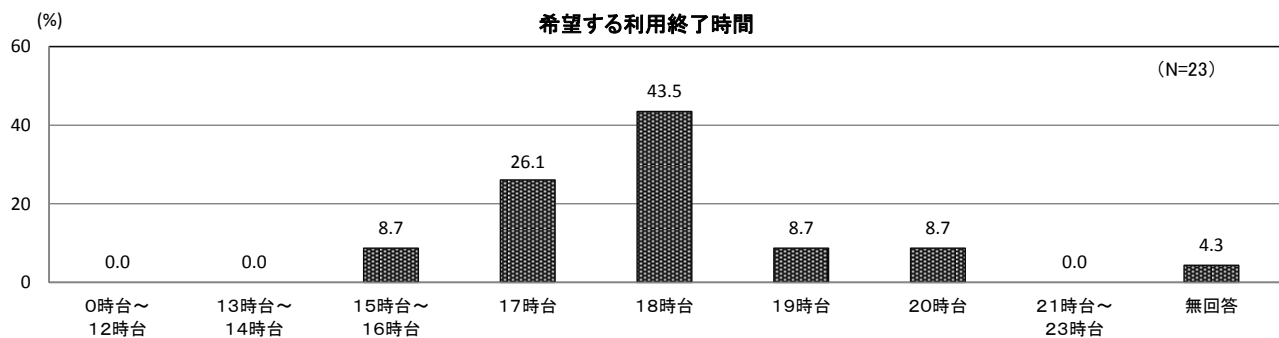
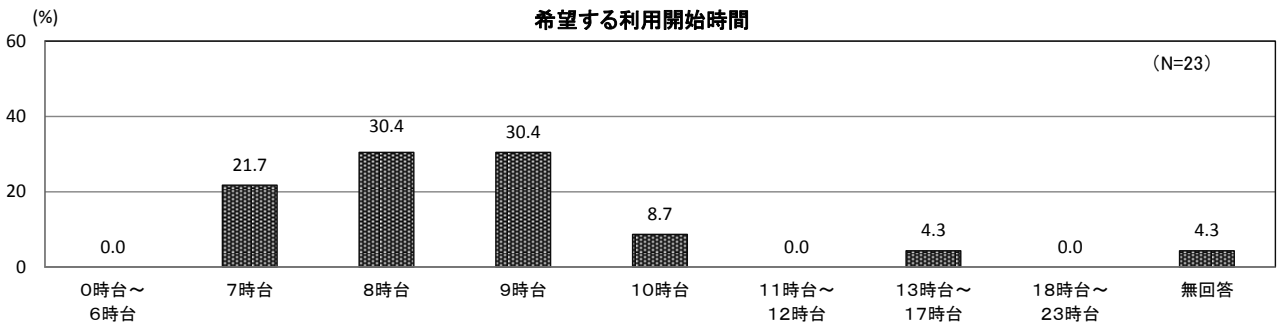


② 日曜日・祝日

(57) または (58) で「放課後児童クラブ」と回答した人に、日曜日・祝日の利用希望を尋ねたところ、「利用する必要はない」が78.5%と高い割合を占めた。次いで「高学年になっても利用したい」7.4%、「低学年の間は利用したい」6.7%であった。

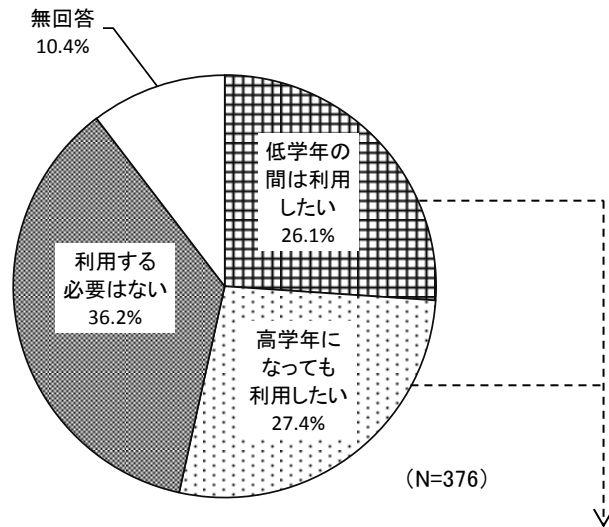


また、希望する利用開始時刻では、「8時台」と「9時台」が同率の30.4%で並び、次いで「7時台」21.7%となっている。希望する利用終了時刻では、「18時台」が43.5%で最も高く、次いで「17時台」26.1%となっている。

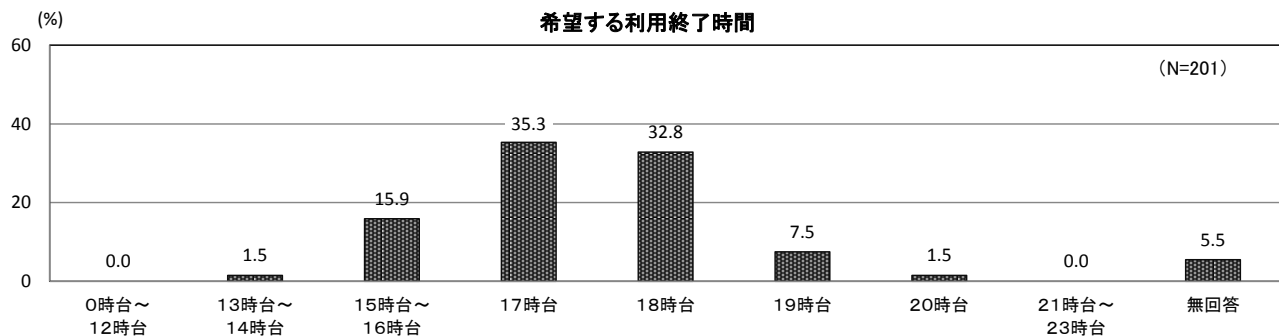
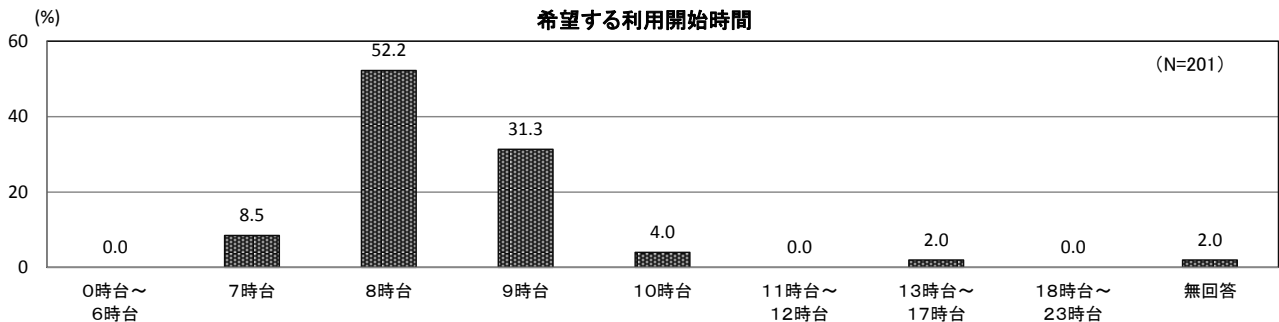


(60) 長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望（問 30）

子どもが5歳以上の保護者に、長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望を尋ねたところ、「利用する必要はない」が36.2%で最も高く、次いで「高学年になっても利用したい」27.4%、「低学年の間は利用したい」26.1%であった。



また、希望する利用開始時刻では、「8時台」は52.2%で最も高く、次いで「9時台」31.3%と、この2つに回答が集中している。希望する利用終了時刻では、「17時台」が35.3%で最も多く、次いで「18時台」32.8%、「15時台～16時台」15.9%となっている。

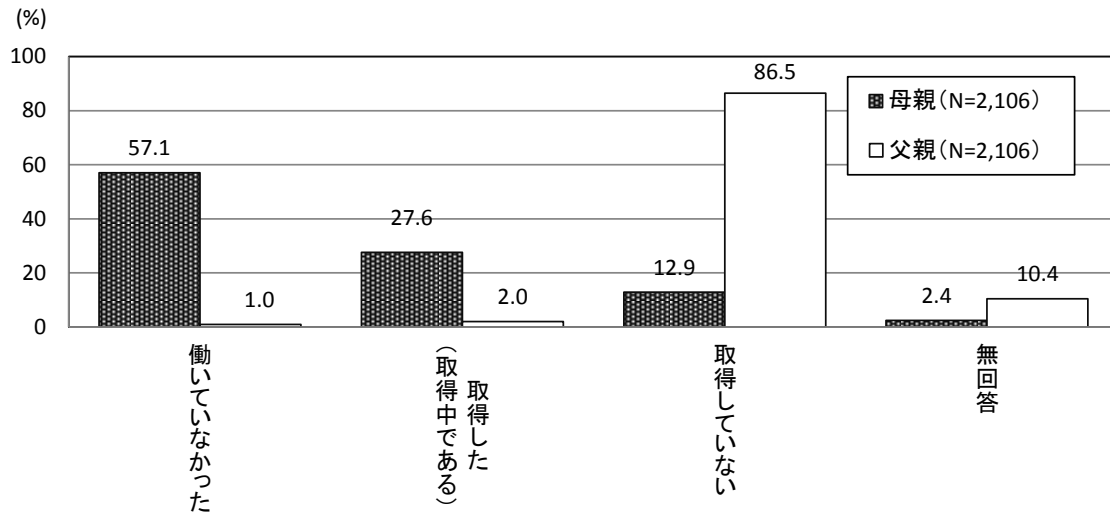


10. 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度

(61) 育児休業の取得状況（問 31）

母親の育児休業の取得状況は、「働いていなかった」が 57.1%で最も多く、次いで「取得した（取得中である）」27.6%、「取得していない」12.9%であった。

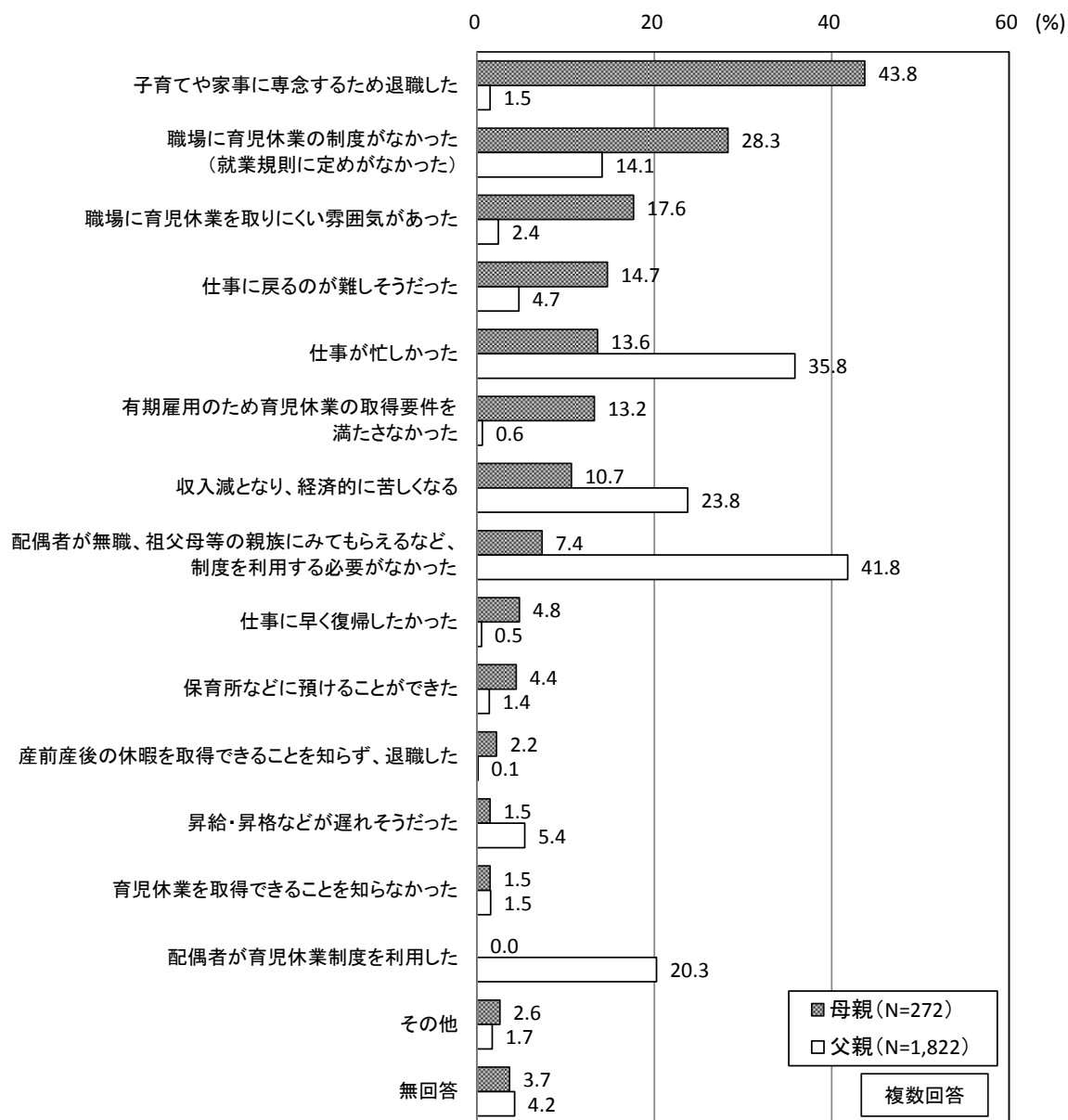
これに対して、父親は、「取得していない」が 86.5%と高い割合を占め、「取得した（取得中である）」は 2.0%、「働いていなかった」は 1.0%にとどまった。



【就学前児童の保護者（調査票A）】

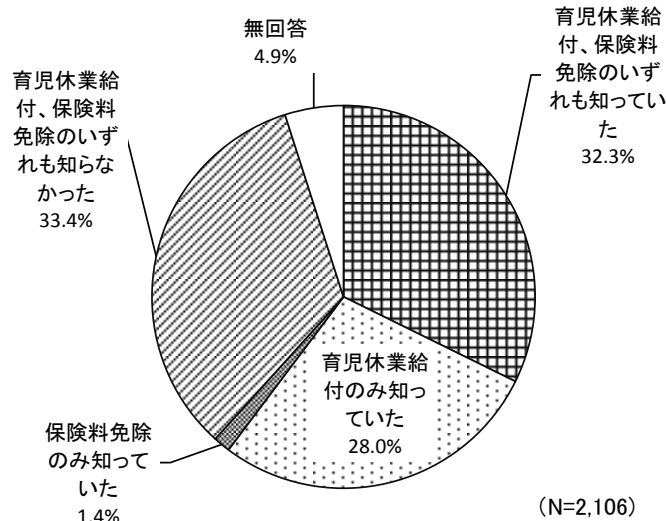
取得していないと回答した人に理由を尋ねたところ、母親は、「子育てや家事に専念するため退職した」が 43.8%で最も高く、次いで「職場に育児休業の制度がなかった」28.3%、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」17.6%となっている。

父親は、「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」41.8%、「仕事が忙しかった」35.8%、「収入減となり、経済的に苦しくなる」23.8%となっている。また、父親の20.3%が「配偶者が育児休業制度を利用した」のに対し、母親では0%となっていることから、育児休業制度の利用が母親に偏っている状況がうかがえる。



(62) 育児休業給付や保険料免除の認知度（問 31-1）

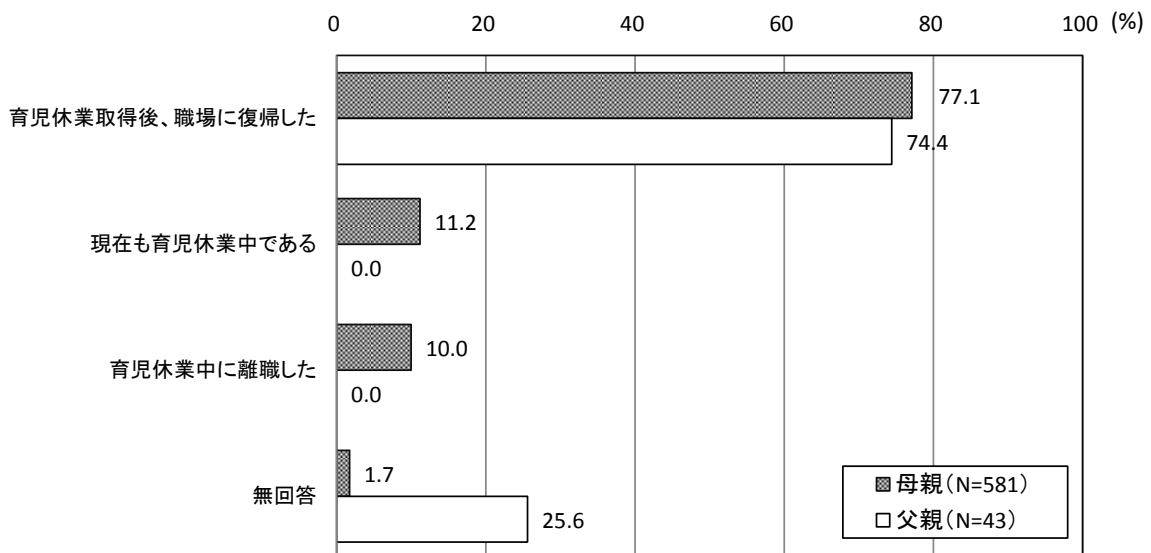
両制度の認知度は、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」が 33.4%で最も多く、次いで僅差で「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」が 32.3%、「育児休業給付のみ知っていた」28.0%、「保険料免除のみ知っていた」1.4%であった。



(63) 育児休業後の職場への復帰状況（問 31-2）

(61)で「取得した（取得中である）」と回答した人に職場への復帰状況を尋ねたところ、母親は、「育児休業取得後、職場に復帰した」が 77.1%で最も高く、次いで「現在も育児休業中である」11.2%、「育児休業中に離職した」10.0%であった。

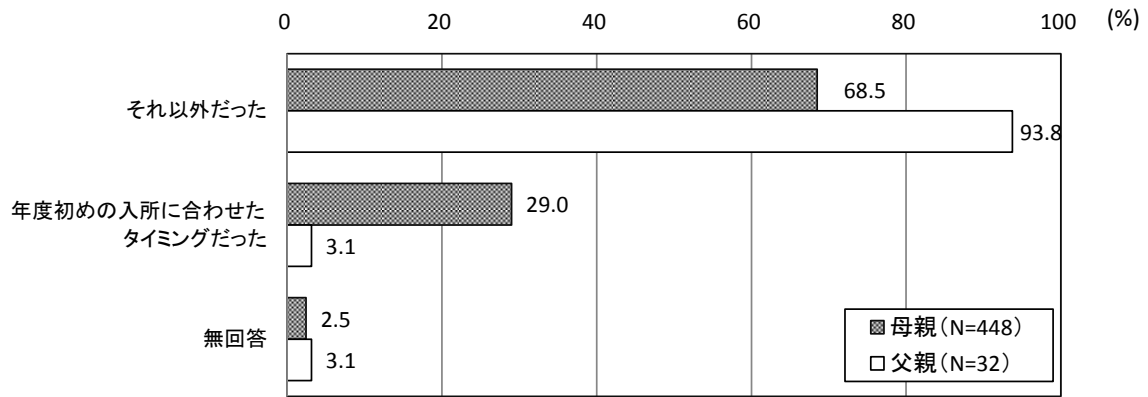
父親も、「育児休業取得後、職場に復帰した」が 74.4%で最も高かった。



(64) 育児休業後に職場への復帰したタイミング（問 31-3）

(63) で「育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した人に、職場への復帰タイミングを尋ねたところ、母親は、「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」は 29.0%にとどまり、「それ以外だった」が 68.5%となっている。

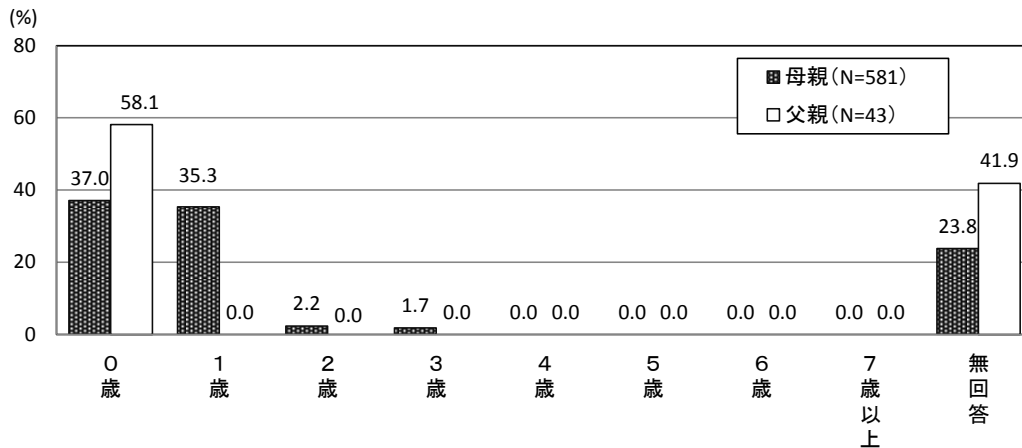
父親は、「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」は 3.1%に過ぎず、「それ以外だった」が 93.8%にのぼっている。



(65) 育児休業後に職場への復帰した時の子どもの年齢（問 31-4）

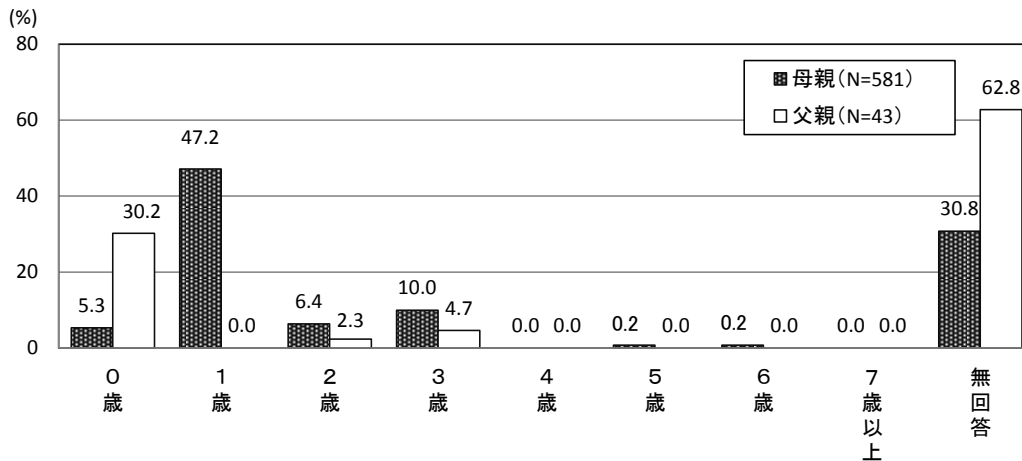
① 実際の取得期間

母親の取得期間は、「0歳」が37.0%で最も高く、次いで「1歳」35.3%、「2歳」2.2%となっている。父親も、「0歳」が58.1%で最も高かった。



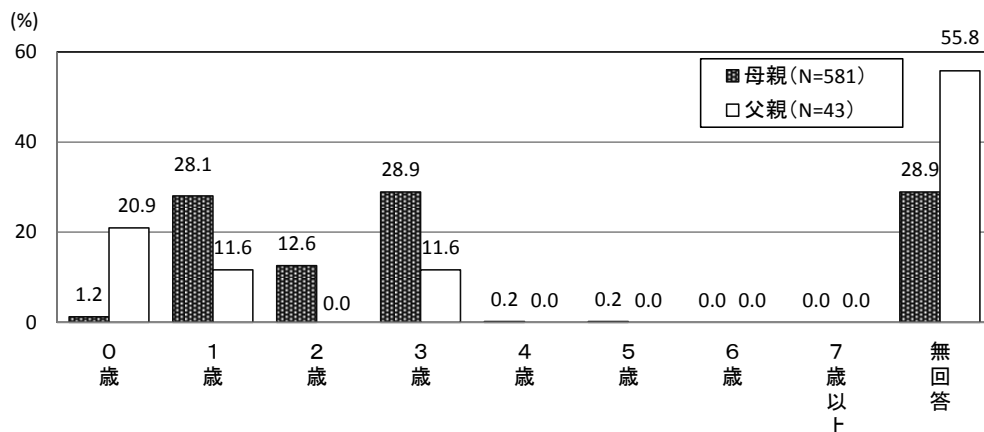
② 希望する取得期間

母親の希望する取得期間は、「1歳」が47.2%で最も高く、次いで「3歳」10.0%、「2歳」6.4%となっている。父親は、「0歳」が30.2%で最も高く、次いで「3歳」4.7%、「2歳」2.3%となっている。



(66) 3歳まで育児休暇を取得できる制度があった場合に希望する取得期間（問 31-5）

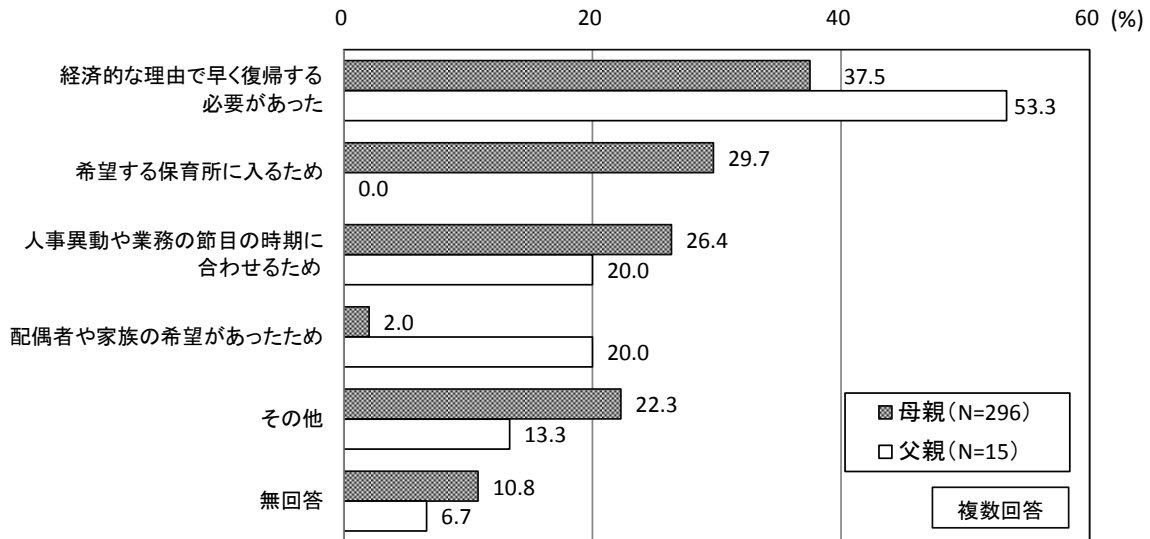
3歳まで育児休暇を取得できる制度があった場合に母親が希望する取得期間は、「3歳」が28.9%で最も高く、次いで「1歳」28.1%、「2歳」12.6%となっている。父親は、「0歳」が20.9%で最も高く、次いで「1歳」と「3歳」が同率の11.6%となっている。



(67) 希望より早く職場復帰した場合、希望の時期に職場復帰しなかった理由（問 31-6）

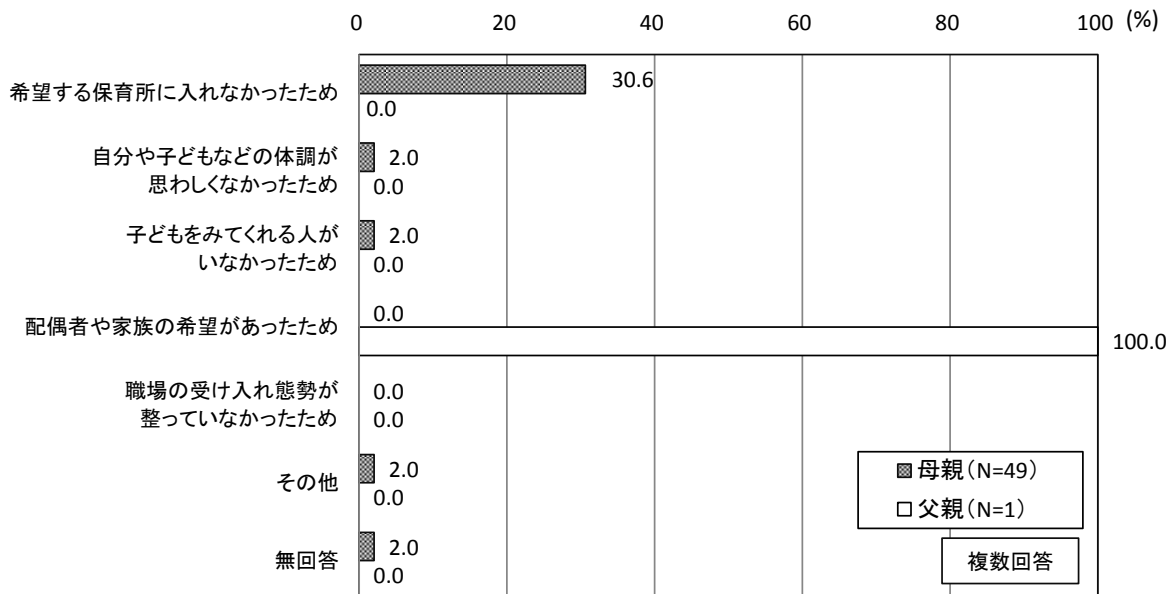
(65) で希望より早く職場復帰したと回答した人に、希望の時期に職場復帰しなかった理由を尋ねたところ、母親は、「経済的な理由で早く復帰する必要がある」が 37.5%で最も高く、次いで「希望する保育所に入るため」29.7%、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」26.4%となっている。

父親は、「経済的な理由で早く復帰する必要がある」が 53.3%で最も高く、「配偶者や家族の希望があったため」と「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」が同率の 20.0%で続いている。



(68) 希望より遅く職場復帰した場合、希望の時期に職場復帰しなかった理由（問 31-6）

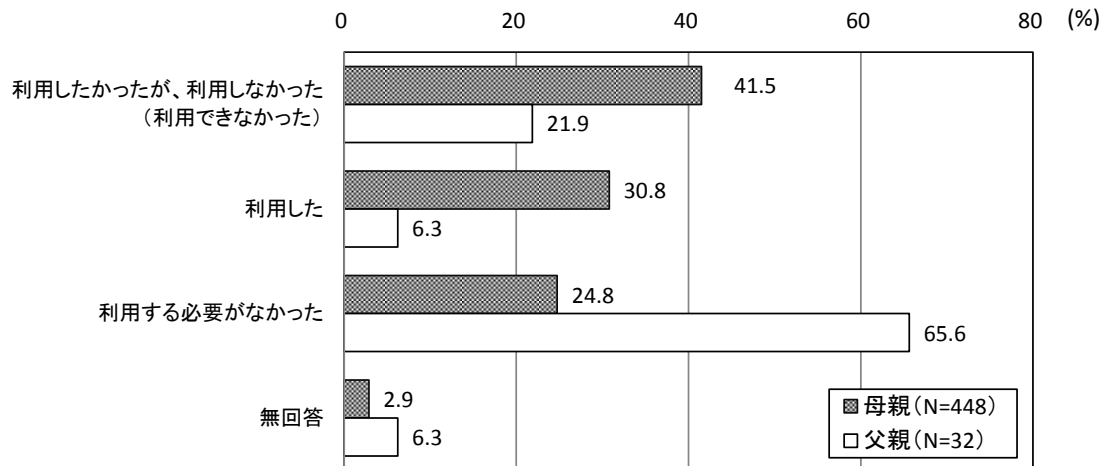
(65) で希望より遅く職場復帰したと回答した人に、希望の時期に職場復帰しなかった理由を尋ねたところ、母親は、「希望する保育所に入れなかったため」が 30.6%で最も高く、「自分や子どもなどの体調が思わしくなかったため」と「子どもをみてくれる人がいなかったため」、「その他」が同率の 2.0%となっている。



(69) 育児休業からの職場復帰時における短時間勤務制度の利用状況（問 31-7）

(63) で「育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した人に、短時間勤務制度を利用したか尋ねたところ、母親は、「利用したかったが、利用しなかった（利用できなかった）」が 41.5%で最も高く、次いで「利用した」30.8%、「利用する必要がなかった」24.8%となっている。

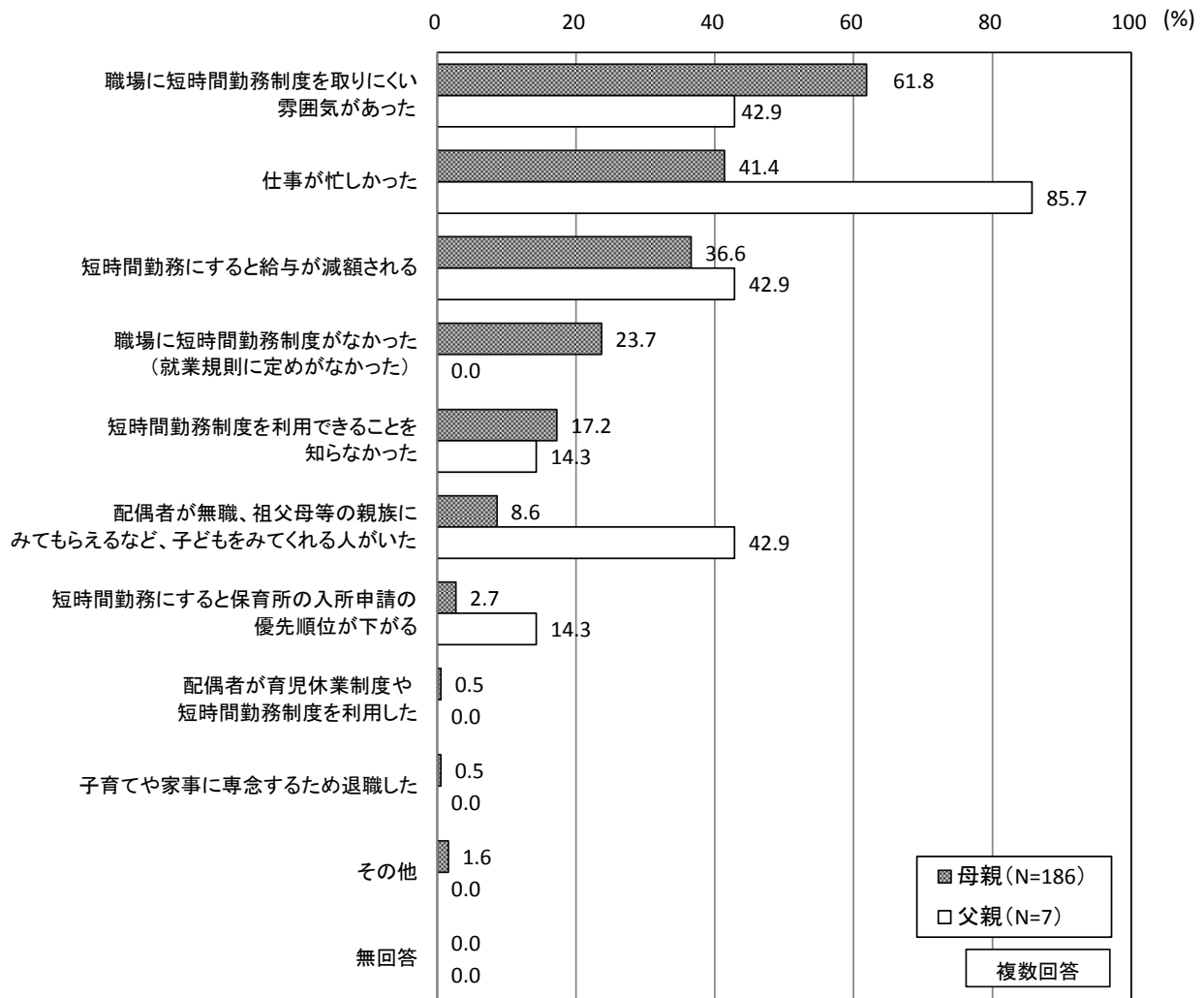
父親は、「利用する必要がなかった」が 65.6%で最も高く、次いで「利用したかったが、利用しなかった（利用できなかった）」21.9%、「利用した」6.3%となっている。



(70) 短時間勤務制度を利用しなかった（できなかった）理由（問31-8）

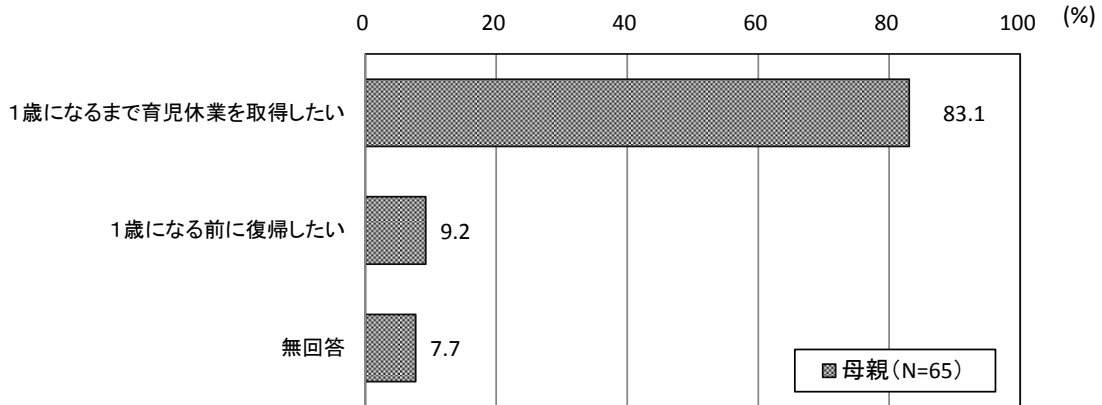
(69) で「利用したかったが、利用しなかった（利用できなかった）」と回答した人にその理由を尋ねたところ、母親は、「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」が 61.8%で最も高く、次いで「仕事が忙しかった」41.4%、「短時間勤務にすると給与が減額される」36.6%となっている。

父親は、「仕事が忙しかった」が 85.7%で最も高く、「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」と「短時間勤務にすると給与が減額される」、「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、子どもをみてくれる人がいた」が同率の 42.9%となっている。



(71) 子どもが1歳になった時に必ず利用できる保育事業があった場合、育児休業取得の有無（問 31-9）

(63) で「現在も育児休業中である」と回答した人に、1歳になったときに必ず利用できる保育事業があれば、1歳になるまで育児休業を取得するか尋ねたところ、母親は、「1歳になるまで育児休業を取得したい」が83.1%、「1歳になる前に復帰したい」は9.2%となっている。



(72) 北九州市の子育ての環境や支援への満足度（問 32）

北九州市の子育ての環境や支援について、『満足度が低い』を「1」、『満足度が高い』を「5」として5段階評価してもらったところ、「3」が36.7%で最も多く、次いで「4」23.7%、「2」15.0%となっている。

